

# 白ヶ野第3遺跡B地区

県営農地保全整備事業時屋地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ  
(第2分冊)

2000年

宮崎県埋蔵文化財センター

# 白ヶ野第3遺跡B地区

県営農地保全整備事業時屋地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ  
(第2分冊)

2000年

宮崎県埋蔵文化財センター

# 例 言

- 1 本書は、県営農地保全整備事業時屋地区に伴い宮崎県教育委員会が実施した、時屋地区遺跡群・白ヶ野第3遺跡B地区の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、宮崎県中部農林振興局の依頼を受けた宮崎県教育委員会が主体となり、平成8年度に宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 現地における実測等の記録は松林豊樹、児島由紀、米久田真二、黒木欣綱が行った。
- 4 本書に使用した写真は松林が撮影し、空中写真については業者に委託した。
- 5 整理作業は宮崎県埋蔵文化財センターで行い、図面作成、実測、トレースは主として松林が行い、一部を整理作業員の協力を得た。
- 6 本書における表記等の基本的事項は、第1分冊に準拠している。
- 7 本書の執筆・編集は松林が行った。
- 8 出土遺物・その他諸記録は、宮崎県埋蔵文化財センターに保管している。

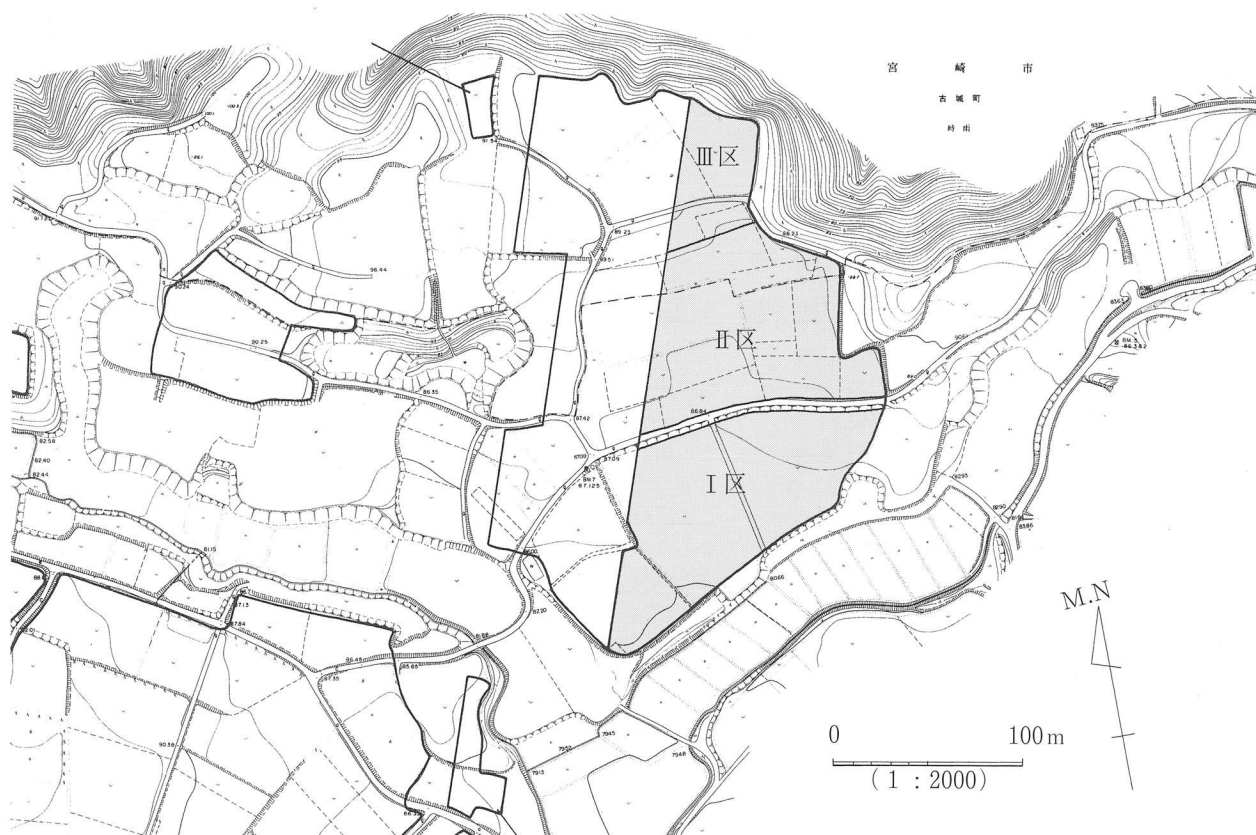
# 本文目次

第1章 調査の経過	
第1節 調査の経過 .....	1
第2節 層序 .....	2
第2章 調査の記録	
第1節 I区の調査 .....	3
第2節 II区の調査 .....	18
第3節 III区の調査 .....	22
第3章 まとめ	
第1節 縄文時代早期の土器について .....	43
第2節 古代の遺構・遺物について .....	47

# 第1章 調査の概要

## 第1節 調査の経過

調査対象面積は25,000m<sup>2</sup>である。調査地は、その中央部に生活道路が横断し、北側に畑地造成に伴う段があったため、便宜的に3つの調査区に別けて調査を進めた(第1図)。I区は重機による表土除去の時点でかなり下層の土が表出し、畑地造成による旧地形改変の著しいことが把握された。このI区南西側では旧地形が谷であったため削平を免れ、比較的多くの遺構・遺物が検出された。主な遺構としては古代の竪穴住居が3軒検出され、遺物包含層からは縄文時代後・晩期の土器等も出土している。また、I区は圃場整備計画において盛土対象地となっていたため、前述の谷以外は表土除去後に表土した面のみ遺構検出を行った。II区でも若干の地形改変は見受けられたが、アカホヤ火山灰層(6層)以下は比較的良好に遺存していた。しかし、6層上面で検出された遺構は溝状遺構のみで、その下層にあたる7・8層からわずかに縄文時代早期の遺物が出土している。この7・8層の調査では20mグリッドを基本としたトレンチを設定して遺物包含層の状況を把握し、特に密度が高かった南西側についてのみ、面的な掘り下げを行った。III区でも若干の地形改変は見受けられたが、II区同様に6層以下は比較的良好に遺存していた。6層上面では遺構は検出されなかったが、7層・8層中から縄文時代早期の遺構・遺物が検出されている。7・8層の調査に当たり、10mを基本としたグリッドを設定して遺物包含層の状況を把握し、ほとんど遺物が検出されなかった調査区東側を除いて面的な掘り下げを行った。また、III区では他の調査区と比較すると多量の縄文時代早期の遺物が出土し、隣接して調査を行った東九州自動車道関連の白ヶ野遺跡と接合する資料も見られ、一連の遺跡として評価する必要がある。



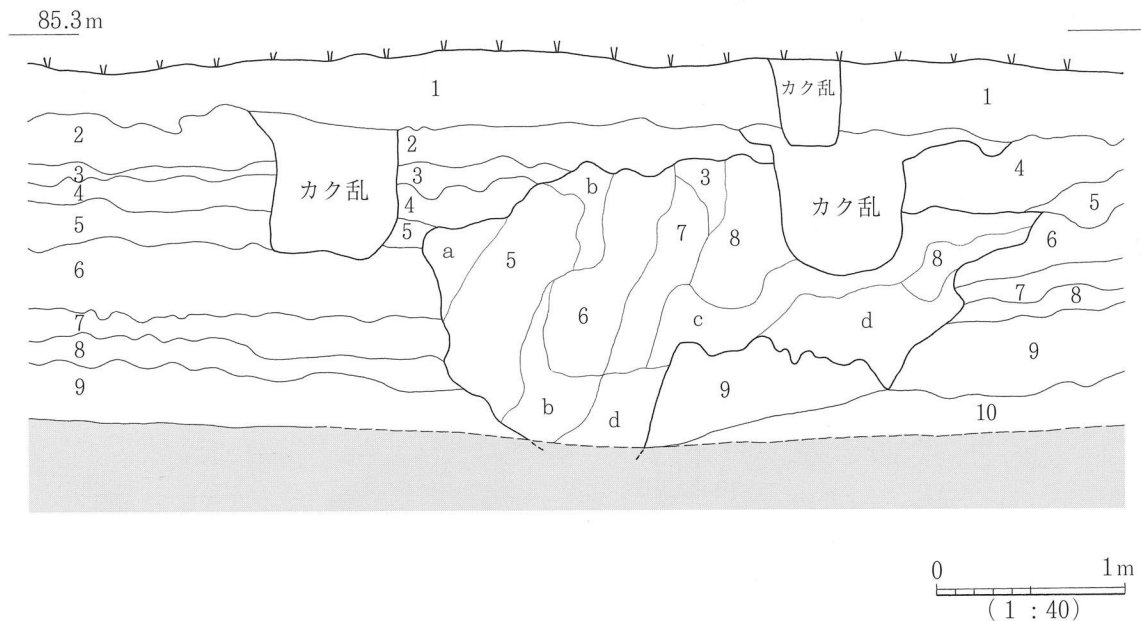
第1図 周辺地形図(1/2000)

## 第2節 層序

第2図はI区の谷1西側の土層断面図である。1～3層は耕作により形成されたものと考えられ、各調査区において微妙に異なる。また、4・5層はI区の旧谷地形の部分でのみ堆積が確認された点と、古代および縄文時代後・晩期の遺物が混在するかたちで包含されていたことから、二次的な堆積層である可能性が高い。

遺物の包含層は4・5層（縄文時代後・晩期、古代）、7・8層（縄文時代早期）で、遺構検出は4・6・8・9層の上面で行った。

第2図の中央は層位の横転で、各調査区において同様のものが多数みられた。これらの土層横転は風等による樹木の転倒（いわゆる風倒木）に起因する可能性が高い。また、このような層位の横転はI～III区において数多く確認されている。



第2図 土層図（I区・1/40）

1層	黒色土（表土）	耕作土
2層	黒色土（旧耕作土）	黒色・暗橙色のスコリアを多く含む
3層	暗褐色土（旧耕作土）	きめ細かく、しまりがない
4層	褐色土（遺物包含層）	6層の2次堆積層とみられ、縄文時代・古代の遺物を含む
5層	黒色土（遺物包含層）	しまりがなく、縄文時代・古代の遺物をわずかに含む
6層	暗黄橙色土	いわゆるアカホヤ火山灰
7層	黒色土（遺物包含層）	非常に固くしまり、縄文時代早期の遺物を含む
8層	暗褐色土（遺物包含層）	非常に固くしまり、縄文時代早期の遺物を含む
9層	明褐色土	やや軟質で、わずかに粘性を帯びる
10層	明褐色土	硬質で、いわゆる小林軽石を含む
a	4・5層の混合土	
b	5・6層の混合土	
c	7・8・9層の混合土	
d	6・7・8層の混合土	

## 第2章 調査の記録

### 第1節 I区の調査

I区では重機による表土の除去後、攪乱やかなり下層の土が表面に現れた部分がみられるなど、大規模な旧地形の改変が確認された。この結果、地形改変以前のI区は、3つの浅い谷と低い丘陵状の高まりで構成された地形であったことが推測された。なお、調査にあたって、I区は圃場整備の計画において盛土を施す区域であったため、表土除去後、6層以下の土が露出した部分については、その面でのみ遺構検出を行った。

I区で検出された遺構は、竪穴住居3基、柱穴状遺構、溝状遺構2条、硬化面（道路状遺構？）1、集石遺構11基である。これらの遺構は、竪穴住居は谷1の南西向き緩斜面、柱穴状遺構は谷1の基底付近、集石遺構が谷の縁辺部3か所に集中して検出された。

I区の遺物は、そのほとんどが谷1の堆積土である4・5層中からの出土で、竪穴住居に関連する古代の土師器・須恵器や縄文時代後・晩期の土器・石器等である。また、集石遺構周辺で縄文時代早期の遺物が若干出土している。

#### 1 遺構および出土遺物

##### a. 集石遺構

I区では11基の集石遺構が検出され、その分布は前述のとおり谷1の南西側（4基）、谷1と谷2の間（2基）、谷2と谷3の間（4基）の3か所に集中している。この3か所に分布する集石遺構は、それぞれ近接するものと構成する礫や掘り込みの形状等に共通する点が多い。

1号集石遺構は直径50cm・深さ25cmの掘り込みを有するもので、礫の密度は低く、5cm大の角礫・円礫によって構成されていた。礫は赤く変色し、掘り込みの埋土下層には炭化物や焼土の粒が多くみられた。

2号集石遺構は長軸1.8m・短軸1.2m・深さ10cmほどの浅いレンズ状の掘り込みを有するもので、礫の密度は低く、3～4cmほどの小さな角礫が疎らに分布していた。礫はほとんどが赤く変色していたが、掘り込みの埋土中に炭化物や焼土の粒は全くみられなかった。

3号集石遺構は長軸1.6m・短軸1.4m・深さ50cmの掘り込みを有するもので、最深部には20～50cmの礫による配石がみられた。その上に赤く変色した5cm大の角礫が集中し、掘り込みの埋土下層には炭化物や焼土の粒が多くみられた。なお、第3図1の土器はこの遺構周辺から出土したもので、屈曲した胴部の外面に山形押型文を施し、その上に太い沈線文がみられる手向山式土器である。

4号集石遺構は直径1.3m・深さ45cmの掘り込みを有するもので、その中に5～8cm大の角礫が集中していた。礫は赤く変色し、掘り込みの埋土下層には炭化物や焼土の粒が多くみられた。

5号集石遺構は直径80cm・深さ5cmほどの掘り込みを有するものとみられるが、攪乱により破壊されており、礫も赤く変色した5cm大の角礫が3点ほどみられたのみである。掘り込みの埋土下層には炭化物や焼土の粒が少量みられた。

6号集石遺構（第3図）は直径90cm・深さ20cmほどの掘り込みを有するもので、その掘り込みに沿うように5～10cm大の角礫が環状に検出された。礫のほとんどは赤く変色し、掘り込みの埋土の下層

には炭化物や焼土の粒が少量みられた。

7号集石遺構は直径1.2m・深さ40cmの掘り込みを有するもので、その中に3～10cm大の角・円礫が集中していた。礫は赤く変色し、掘り込みの埋土下層には炭化物や焼土の粒が多くみられた。

8号集石遺構は長軸1.5m・短軸1.4m・深さ50cmの掘り込みを有するもので、その中に5～10cm大の角・円礫が集中していた。礫は赤く変色し、掘り込みの埋土下層には炭化物や焼土の粒が多くみられた。

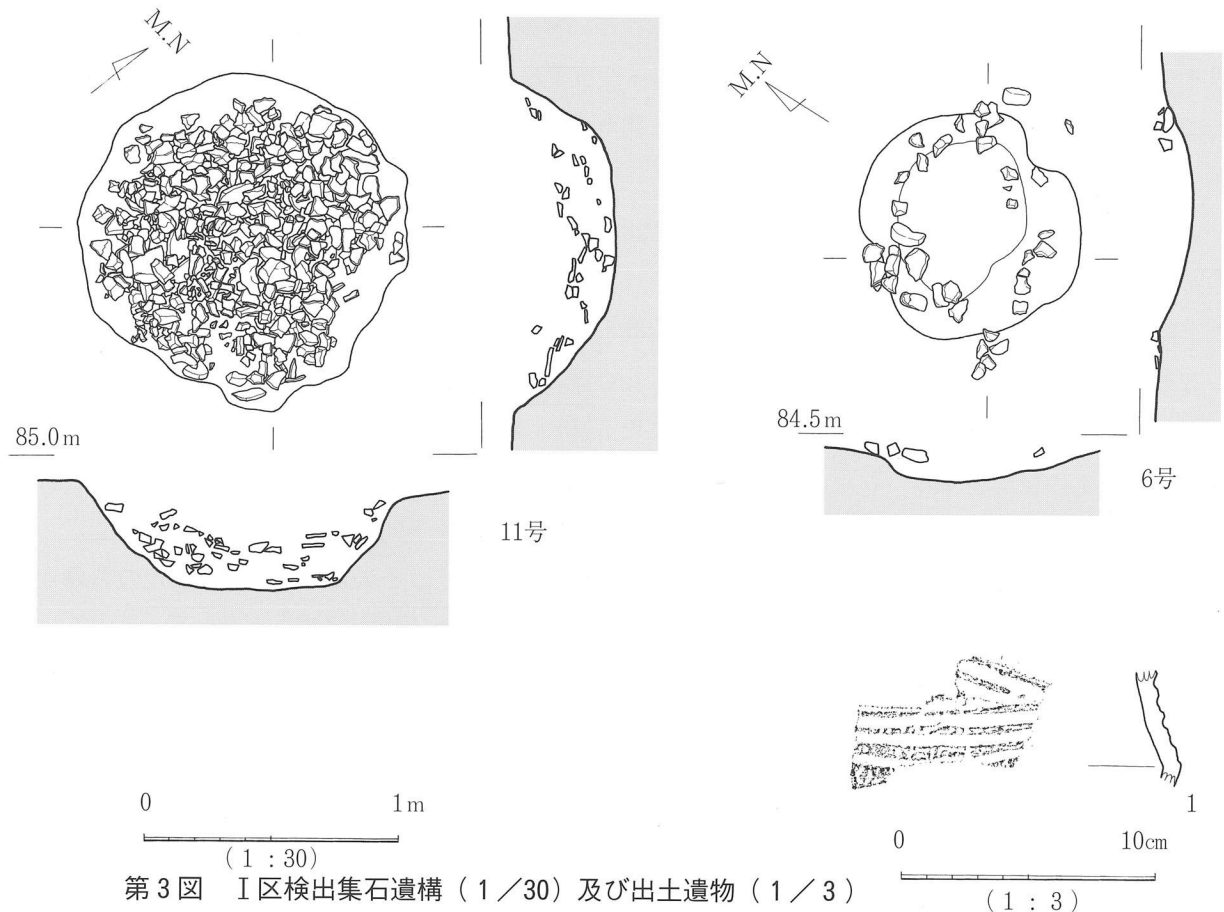
9号集石遺構は長軸1.4m・短軸1.3m・深さ50cmの掘り込みを有するもので、その中に5～10cm大の角・円礫が高い密度で集中していた。礫は赤く変色し、掘り込みの埋土下層には炭化物や焼土の粒が多くみられた。

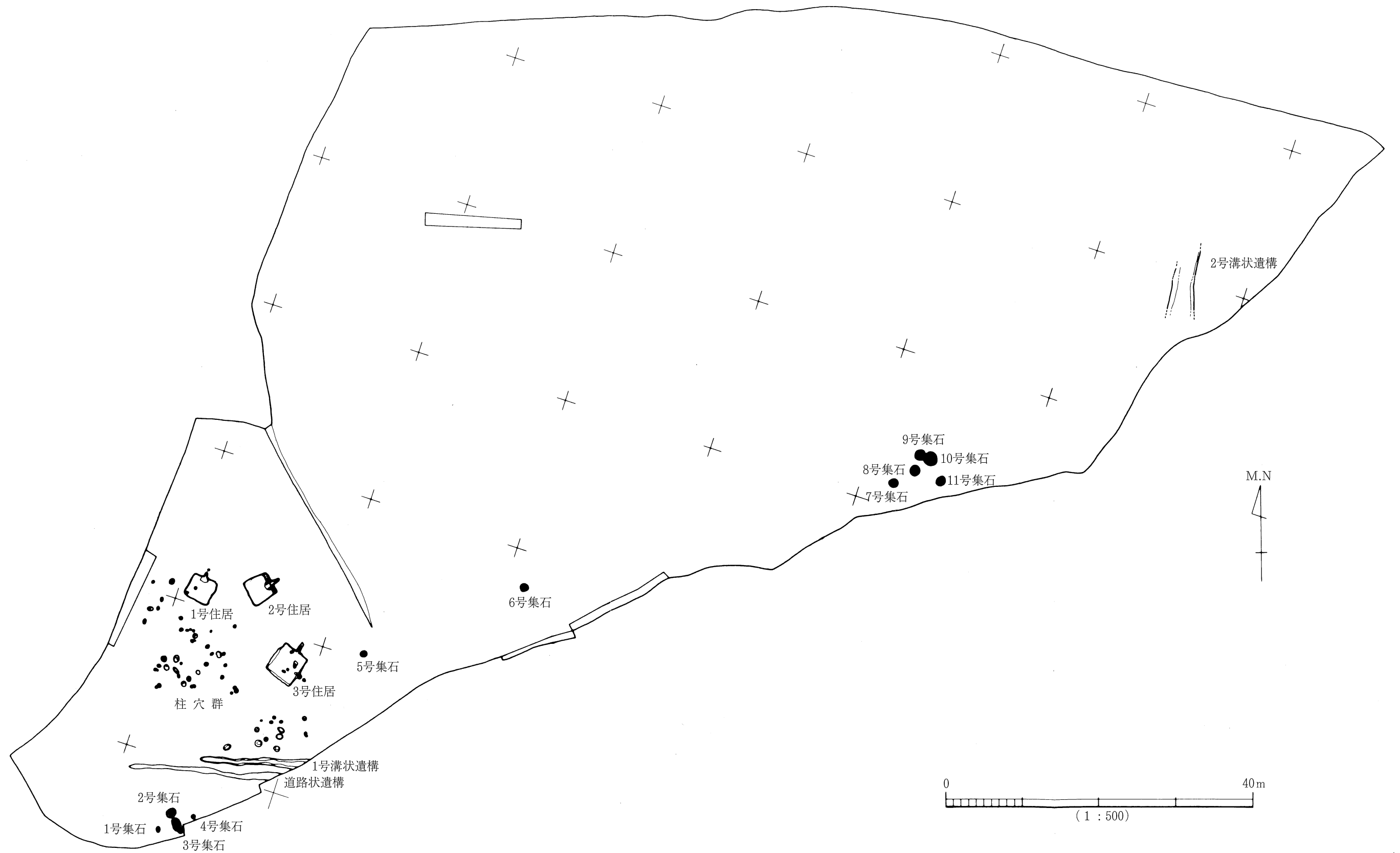
10号集石遺構は長軸1.9m・短軸1.6m・深さ50cmの掘り込みを有するもので、その中に3～10cm大の角・円礫が高い密度で集中していた。礫は赤く変色し、掘り込みの埋土下層には炭化物や焼土の粒が多くみられた。

11号集石遺構（第3図）は直径1.3m・深さ40cmの掘り込みを有するもので、その中に3～20cm大の角・円礫が高い密度で集中していた。礫は赤く変色し、掘り込みの埋土下層には炭化物や焼土の粒が多くみられた。

#### b. 柱穴状遺構

柱穴状遺構は谷1の堆積土である4・5層上面で集中的に検出された（第4図）。規則的な配列なども確認できず、出土遺物も無いため時期や使用目的は不明である。





第4图 I区遺構分布图 (1/500)



### c. 竪穴住居

竪穴住居はすべてが谷1の南西向き緩斜面の4層上面で検出された。1・3号はほぼ同じ方向に主軸を持つが、2号だけは主軸がやや東に傾く。また、3基はすべて斜面上方に向かって煙道が延びるカマドを有するが、3号のみそれと直行する南側壁面中央にもう1つカマドを持つ。

1号住居は1辺3.5m・深さ20cmの方形プランを呈する竪穴を有し、その床面には中央やや西よりと南西隅に柱穴状の落ち込みを持つ。また、谷1に対して斜面の上方に当たる北側壁面の中央付近にカマドを有する。検出時点での竪穴内部のカマドの構造は、壁面から長さ40cmほどの白色粘土の飛びだしがみられ、その内部に灰や炭化物・焼土粒を多く含む土が堆積していた。また、その周囲にも焼土や白色粘土ブロックが点在していた。これらの白色粘土や埋土を除去するとその下には長軸1m・短軸60cm・深さ5cmで複数の小さなピット状の落ち込みを持つ不正形な土坑が検出され、その基底中央は赤く変色し硬化していた。この土坑は竪穴外部の幅30cm・長さ1m・深さ30cmほどの溝へ続き、検出面から掘り込まれた直径30cm・深さ30cmの穴へと接続している。この竪穴外部の施設は煙道と考えられるが、竪穴の壁面から外部に延びる溝とその先にある穴との間はトンネル状の構造を呈する。

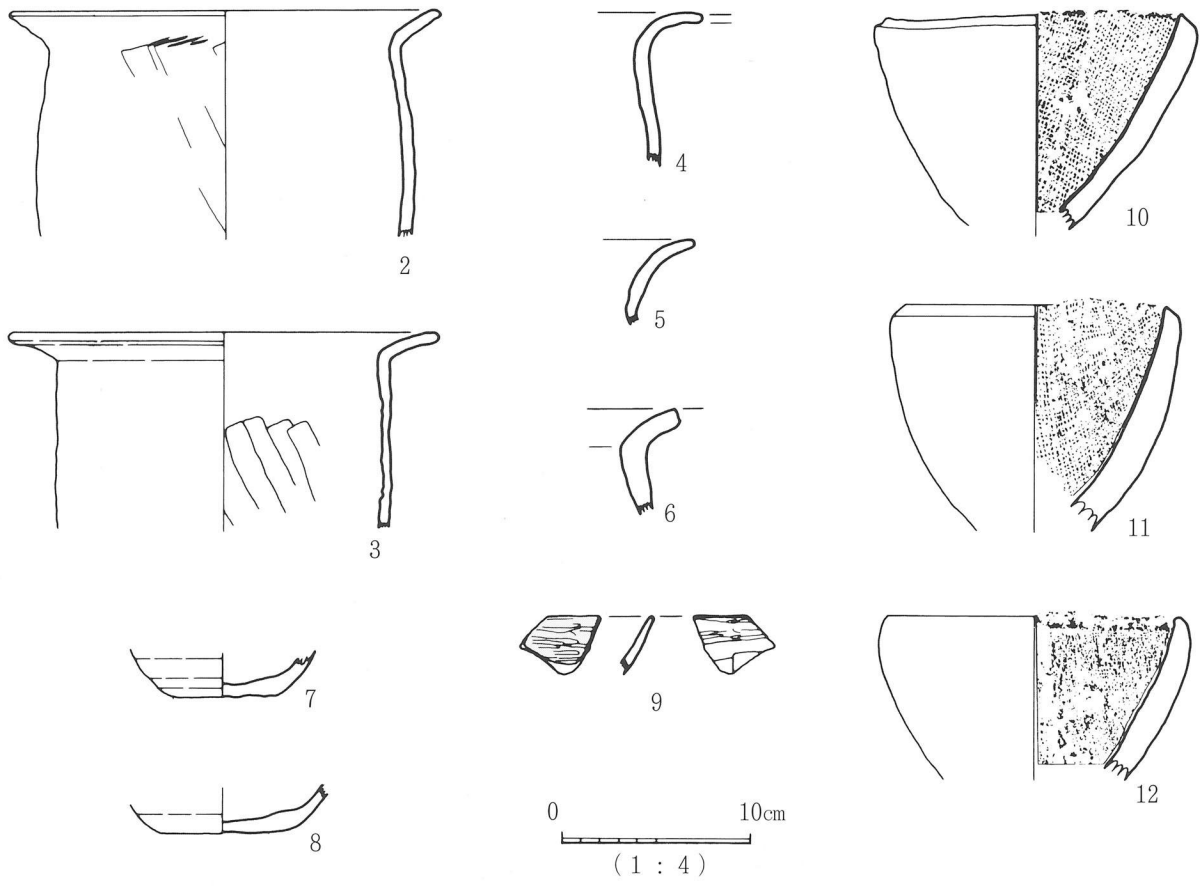
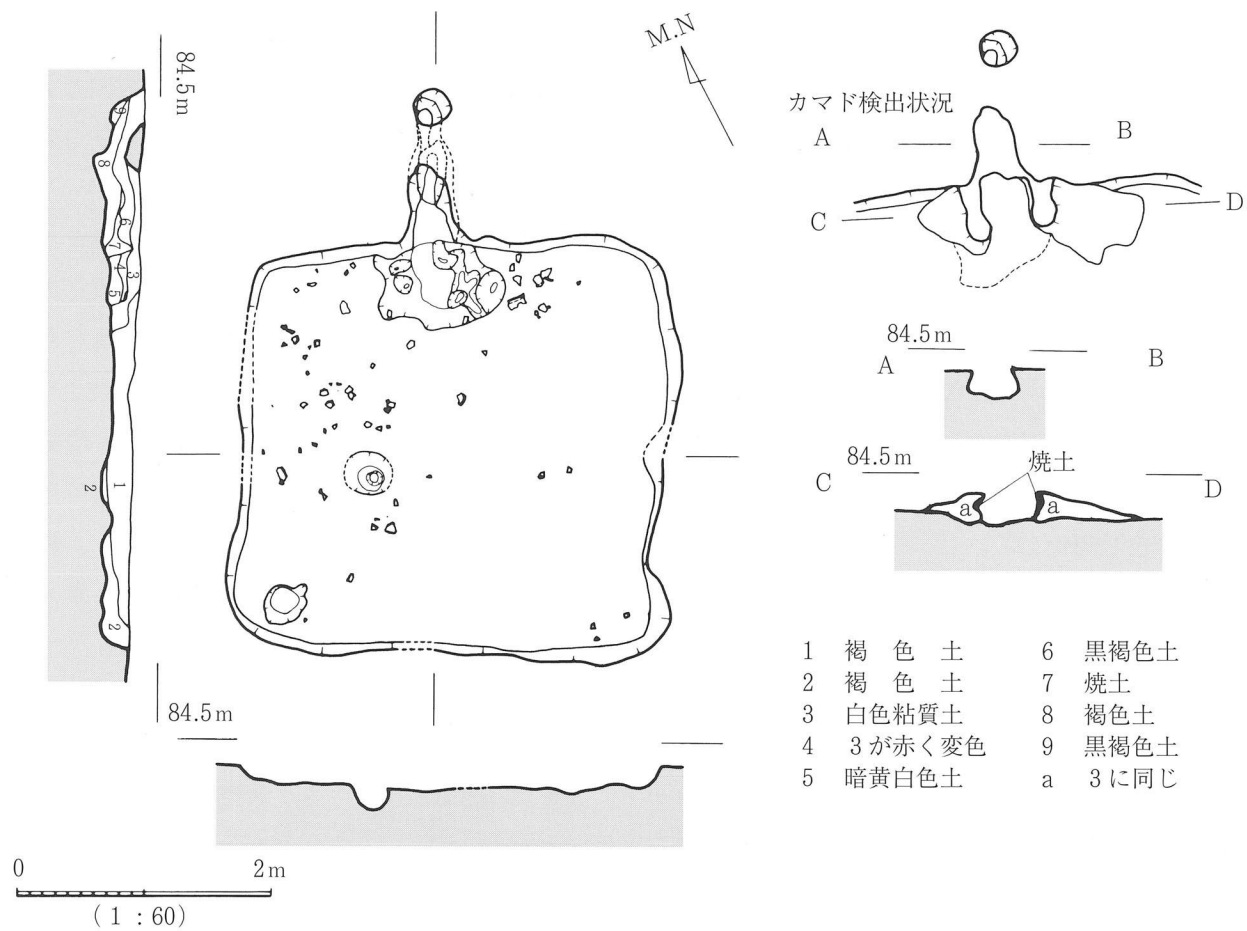
遺物は少ないが、その大半は床面直上からの出土である。

2～6は甕である。内湾気味の直線的胴部から頸部でくの字状に屈曲する口縁部を持つ。口縁部の形状にかなりばらつきがあるが、2の外面が工具ナデ、3・6の内面がヘラケズリ調整である以外はナデ調整である。ただし、6は器壁の厚さや口唇部を平坦にする等の相違がみられる。7・8は坏である。7は底部外面にヘラによる切り離し痕跡を明瞭に残すのに対して、8はナデによりこれを消している点や底径が異なる。9は内黒土器の壺の口縁部である。10～12は製塩土器とみられ、内面に型造りの際の布の圧痕がみられる。

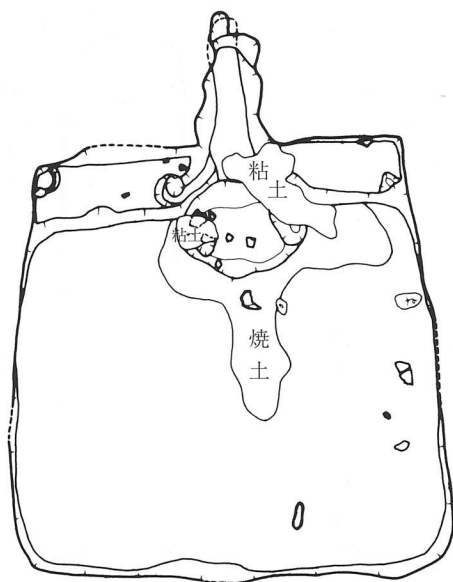
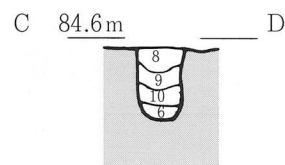
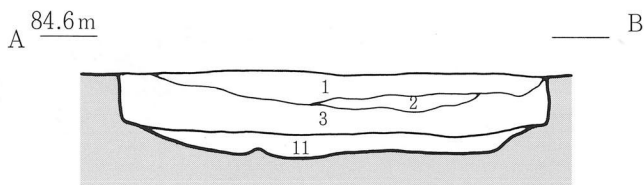
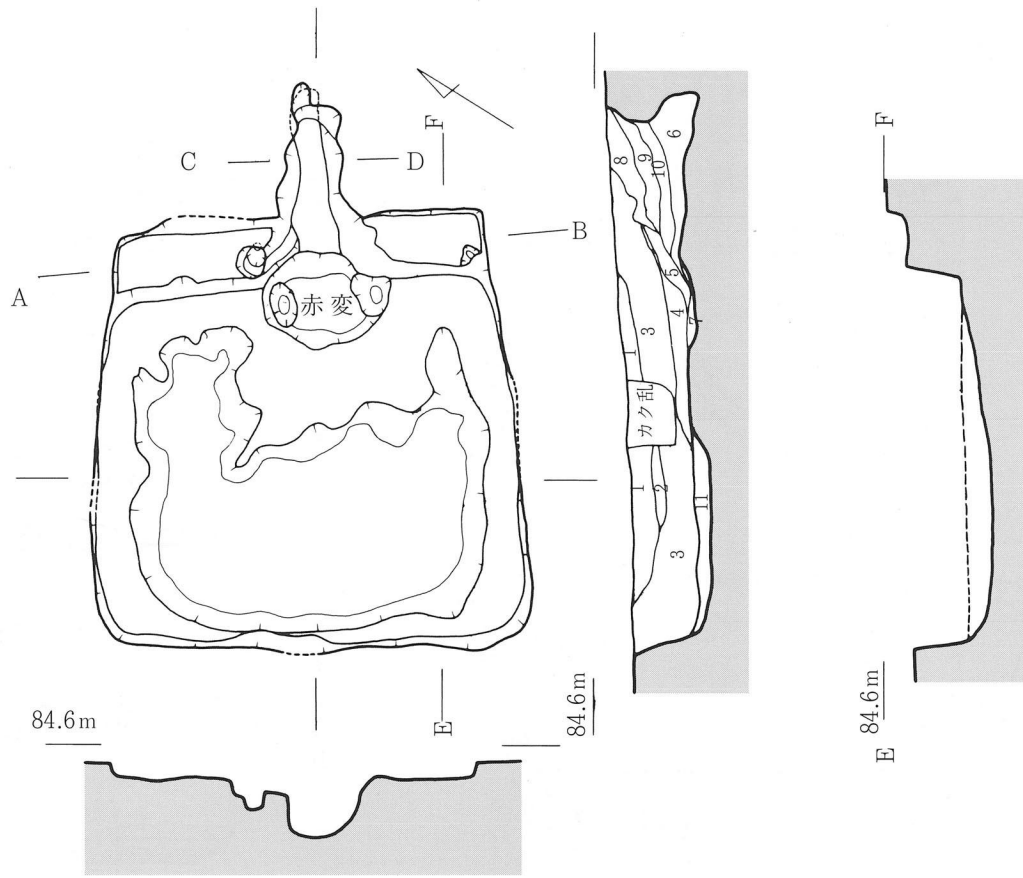
2号住居は1辺3.4m・深さ80cmほどの方形プランを呈する竪穴を有し、床面は竪穴の掘り底から20cmほど埋めた貼床で、床面には柱穴状の落ち込みは伴わない。1号住居同様に谷1の斜面上方に当たる北東側壁面の中央付近にカマドを有し、カマドを挟んだ竪穴北東側壁面の内側に地山を幅40cm・高さ40cmほど掘り残した棚状の施設がみられる。カマドの焚口と思われる部分には長軸1m・短軸70cm・深さ5cmほどの浅い土坑があり、その長軸の両端に深さ20～30cmのピットがみられた。この土坑の上には第6図で示すように白色粘土が堆積していたが、1号住居ほどカマドの原形を保っていなかった。また、土坑およびその周辺部は第6図で示すような範囲で赤く焼け、硬化していた。カマドの煙道は1号住居のようなトンネル状にはならず、竪穴北東側壁面から幅50cm・長さ1mほどの溝が掘り込まれたもので、溝の下方が潜り込むかたちで外側に長く延びる特徴を持つ。

遺物はカマド周辺を中心に出土しているが、その数は少ない。また、13はカマドに向かって左側の棚状施設の角に口縁部を下するかたちで出土した。

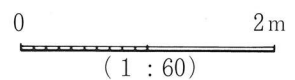
13～17は甕である。やや丸みを帯びた胴から頸部で頸部でくの字状に屈曲する口縁部を持つ。口唇部は平坦に仕上げるもの(13・14)と丸く仕上げるもの(15～17)があり、頸部の屈曲から下の内面はすべてヘラケズリ調整である。また、15・17はやや小型である。18は注ぎ口を持つ鉢の口縁部、19は平底の底部で同一個体とみられる。20～22は坏である。すべて底部外面のヘラによる切り離し痕跡をナデ消している。23・24は製塩土器、25は土器片錘である。26は内黒土器の小型の坏で、やや高台状の底部外面にはケズリ調整が施されている。27は須恵器の壺の胴部で、内面は粗いナデ調整、外面には肩部付近



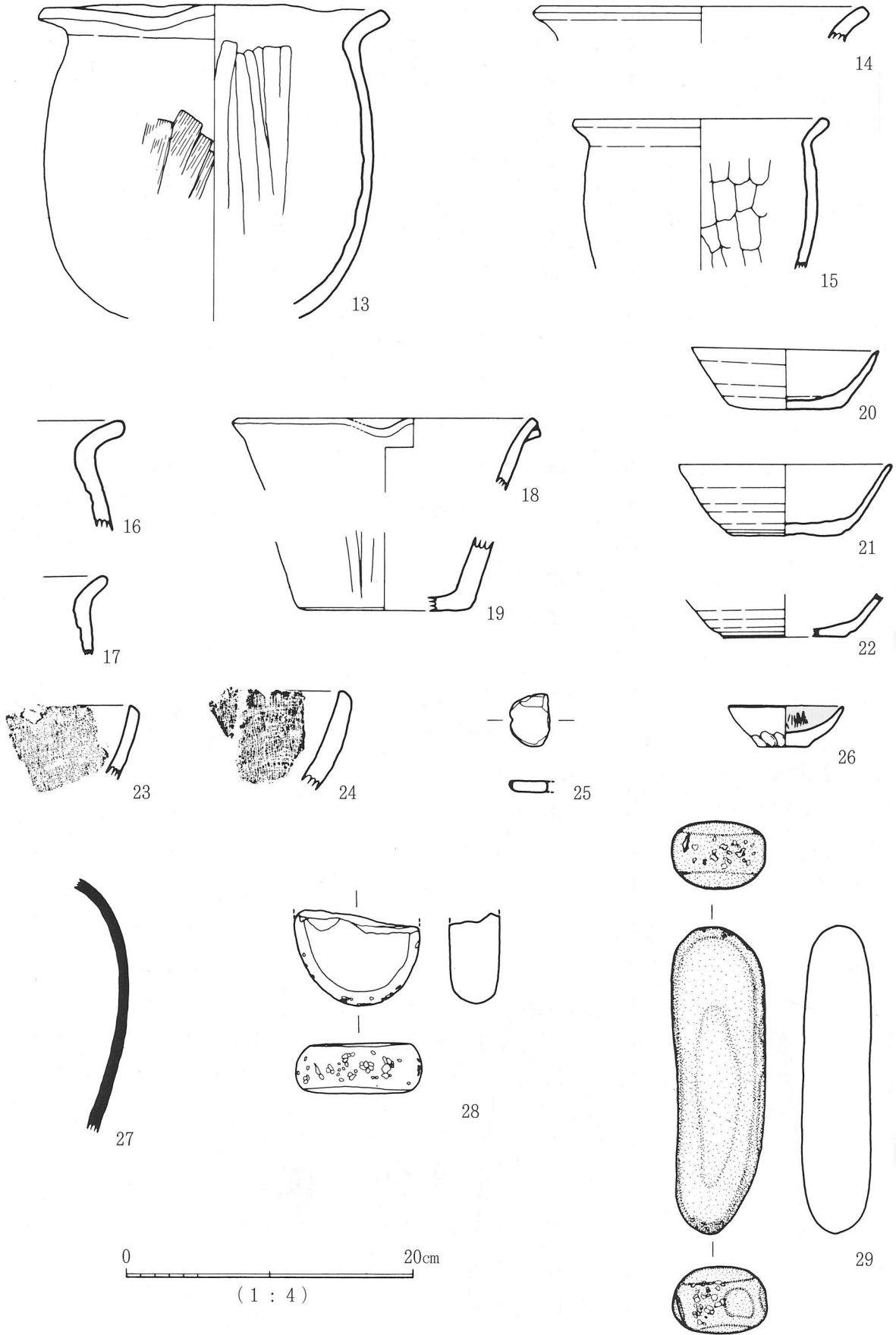
第5図 1号住居 (1/60) 及び出土遺物 (1/4)



- 1 暗褐色土
- 2 暗黄褐色土
- 3 暗褐色土
- 4 暗黄褐色土
- 5 黄白色土
- 6 暗褐色土
- 7 5と焼土の混合土
- 8 暗黄褐色土
- 9 黒褐色土
- 10 8に同じ
- 11 6・7・8層の混合土



第6図 2号住居 (1/60)



第7图 2号住居出土遺物(1/4)

に集中して自然釉がみられる。28は擦石で側面はざらつきが著しく、一部に敲打痕もみられる。29は敲石と考えられ、細長い石の先端にそれぞれ敲打痕がみられる。

3号住居は長軸4.2m・短軸3.9m・深さ70cmほどの長方形プランを呈する竪穴を有し、1・2号住居よりもやや大型の住居である。床面には2つの柱穴状の落ち込みと浅く不整形な土坑が1基みられ、1・2号住居同様に谷1の斜面上方に当たる北側および谷1に平行する東側壁面の中央付近にカマドを2基有する。北側壁面のカマドは焚口部左側に白色粘土のブロックがみられるが、1・2号例のような土坑は伴わず、煙道は幅40cm・長さ1.2mの溝状のもので2号住居例に近い。東側壁面のカマドは焚口部の両側に白色粘土がみられ、その間の浅い溝がそのまま煙道に接続している。煙道の壁面からの突出は短い、その外側にある直径40cmの穴へとトンネル状に繋がる構造で、1号住居例と類似している。

遺物はカマド周辺を中心に出土しており1・2号住居よりも豊富だが、その数は少ない。

30～36は甕である。やや丸みを帯びた胴から頸部で頸部でくの字状に屈曲する口縁部を持つものとみられるが、31・33は口縁部が短い。また、34・35は平底を呈する底部であり、完形の30・31とは形状が異なる。37・38は坏、39は高台坏、41は皿である。40は体部が内湾する壺とみられるが、外面にケズリ状の粗いナデ調整がみられ、37～39のような回転台土師器とは明らかに異なる。42は鉢とみられるが、外面にカキメ状の調整、内面に弱いケズリ調整がみられる。43～45は内面に布目圧痕をもつ製塩土器である。46は内黒土器の鉢である。47は須恵器の蓋、48は須恵器の坏で底部外面はヘラによる切り離し痕跡をナデ消している。49は須恵器の壺の口縁部である。50～52は須恵器の甕で、外面に格子目タタキ痕、内面に平行当て具痕がみられる。ただし、52の内面については当て具の形状が判然としない。53はいわゆる組織痕土器、54は深鉢の底部とみられ、ともに縄文土器である。

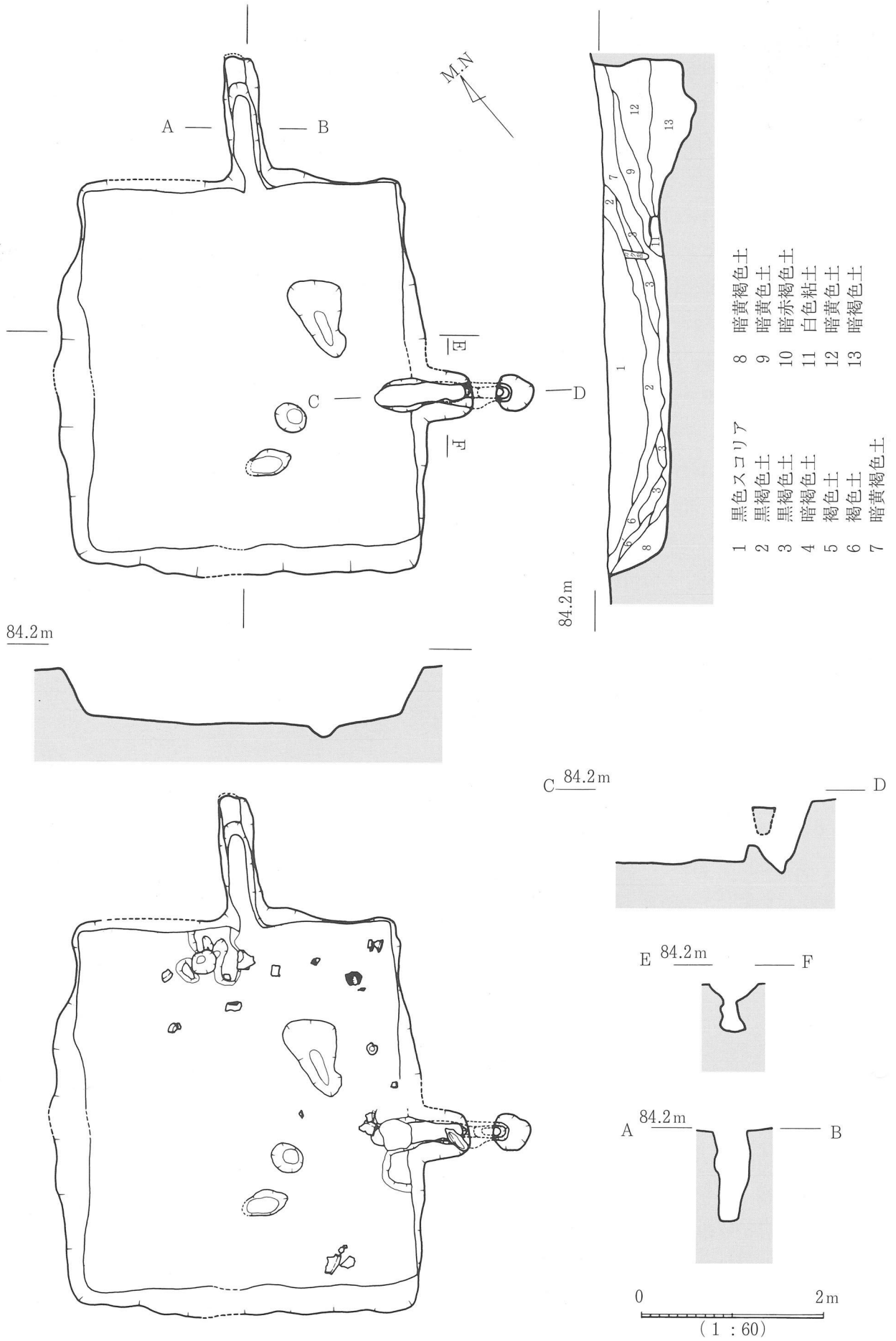
#### d. 溝状遺構

1号溝状遺構はI区南西の谷1を東西に切るかたちで検出された。幅約1m・深さは最深部で30cmを計る。遺物の出土はほとんどないが、溝の埋土にテフラの堆積がみられ、それについての自然科学分析を実施している。その結果、桜島3テフラ(1471年)の降灰から霧島新燃享保テフラ(1717年)の降灰までの間に構築された可能性が指摘されている。

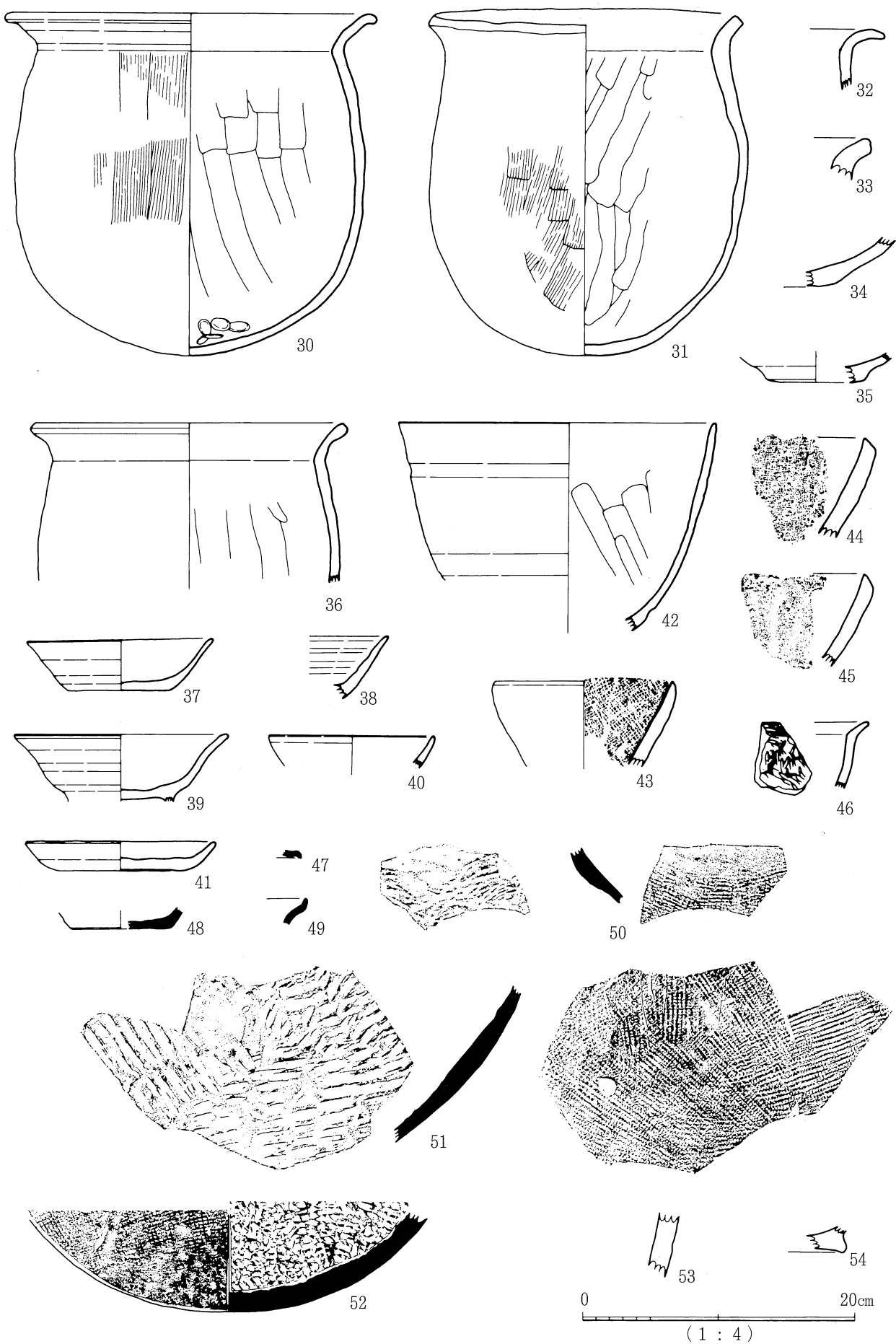
2号溝状遺構は1区の東側で検出された。幅3m・深さは最深部で90cmを計り、南側へ向かって深くなる傾向がみられた。周辺の削平が激しく、遺構の両端に攪乱がみられるため、本来の形状等は知り得ないが、2区で検出された溝状遺構と埋土や位置の上で何らかの関係がある可能性がある。遺物はみられなかったが、1号同様にテフラ分析を行っている。その結果、桜島3テフラ(1471年)の降灰以前の遺構である可能性が指摘されている。

#### e. 道路状遺構

道路状遺構は前述の1号溝状遺構と平行するかたちでその南側から検出された。幅50cm～1m、長さ約20mにおよぶ硬化面がみられ、遺構の性格も判然としないが、ここでは道路状遺構として扱った。遺物等は確認できなかったため時期等は不明である。



第8図 3号住居 (1/60)

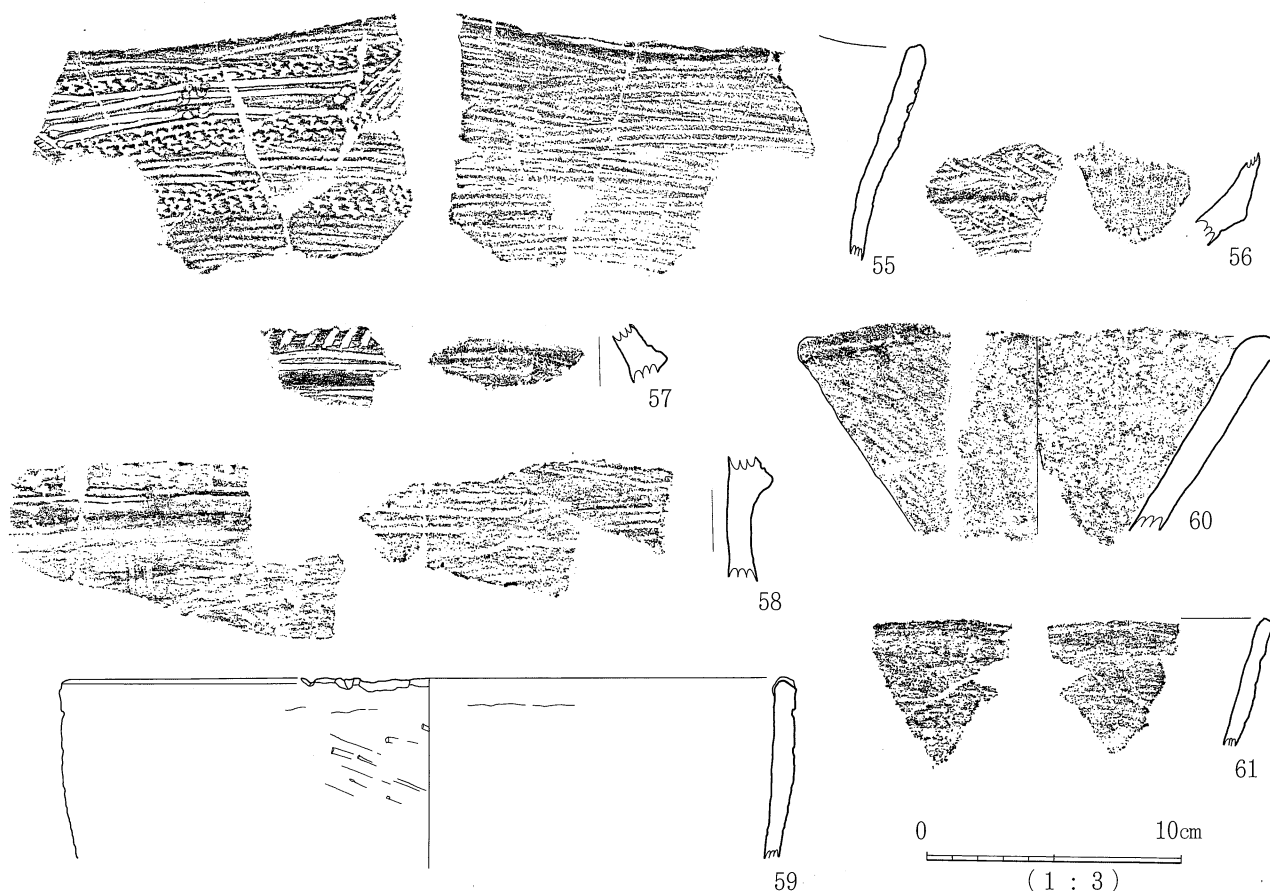


第9图 3号住居出土遺物(1/4)

## 2 その他の I 区出土遺物（遺構外）

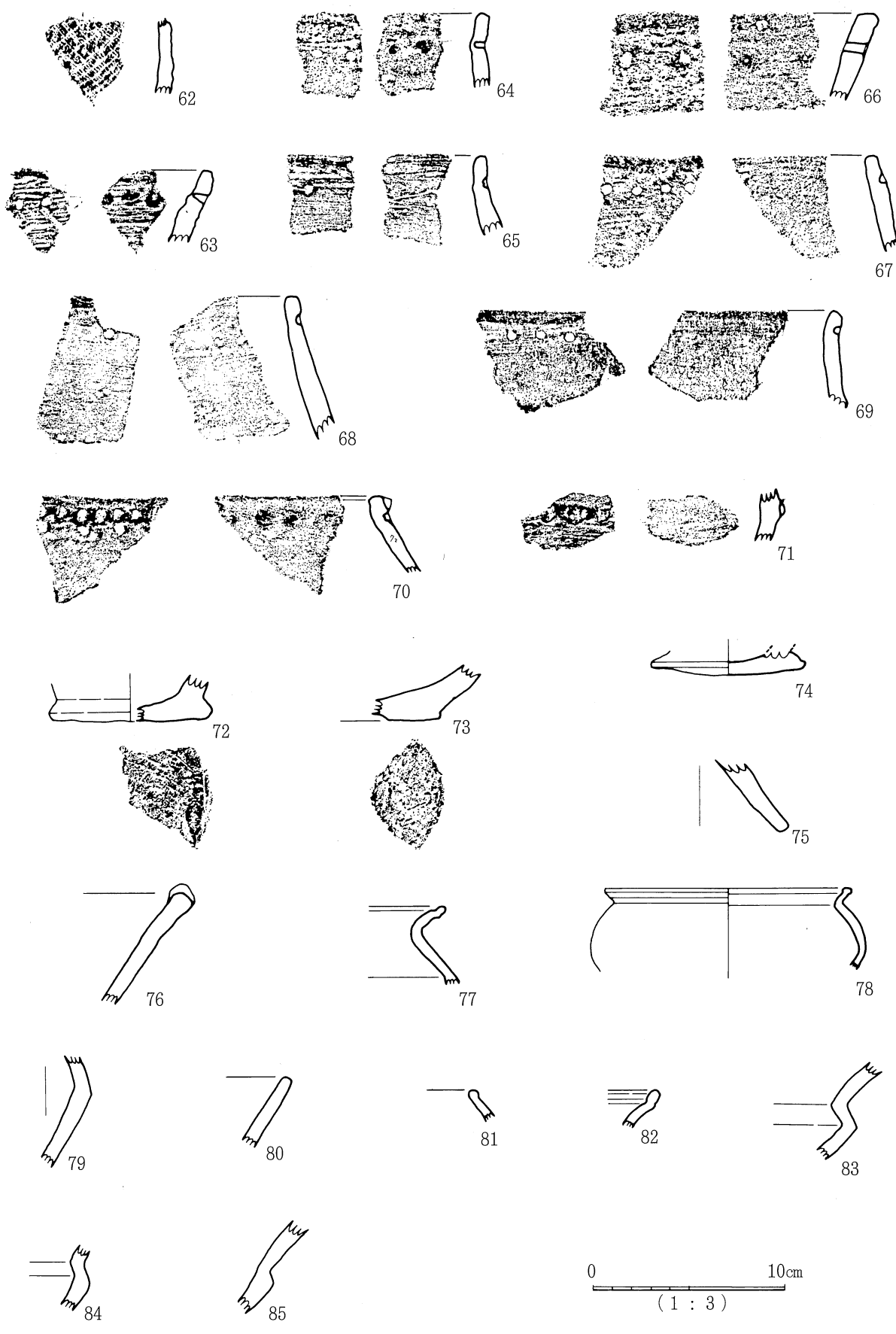
55～58はいわゆる市来式系の深鉢形土器で貝殻条痕文や貝殻復縁刺突文、刺突文、沈線文等が施されている。59は深鉢形土器で口唇部の一部に幅の広い刻目がみられる。60は小型の鉢形土器である。61は深鉢形土器で器壁が非常に薄い。62はいわゆる組織痕土器で外面に編み物の圧痕がみられる。63～70はいわゆる孔列土器ですべて深鉢形土器とみられるが、傾きの相違や刻目突帯が巡るものがある等かなりバリエーションが豊富である。71は深鉢形土器の胴部で屈曲部の外面に刻目突帯をもつ。72～74は底部である。75は脚台とみられる。76は粗製の浅鉢形土器の口縁部で、口唇部にヒレ状の突起がみられる。77～85は精製の浅い鉢形土器で、ある程度の時期幅が伺える。

86～88は甕である。89～96は坏で、94の底部外面には「金？丸」の墨書がみられる。97～101、103・104は内黒土器の椀である。102は内黒土器では無いが、その調整技法が89～96のような回転台土師器とは異なり、形状的には内黒土器椀に近い。105は内黒土器鉢の口縁部、106は土師器（もしくは赤焼けの須恵器）の蓋坏の蓋である。107～111は内面に布目圧痕がみられる製塩土器である。112・113は須恵器の甕胴部、114は須恵器の壺の底部である。115は甕、116は壺の底部であるが、他の遺物とは时期的に異なり、弥生時代～古墳時代のものである可能性が高い。117は刈又形の鉄鏃で、先端部を欠く。118～123は打製石鏃で、119～121は基部に挟りがみられない。124はスクレイパー、125は石核である。

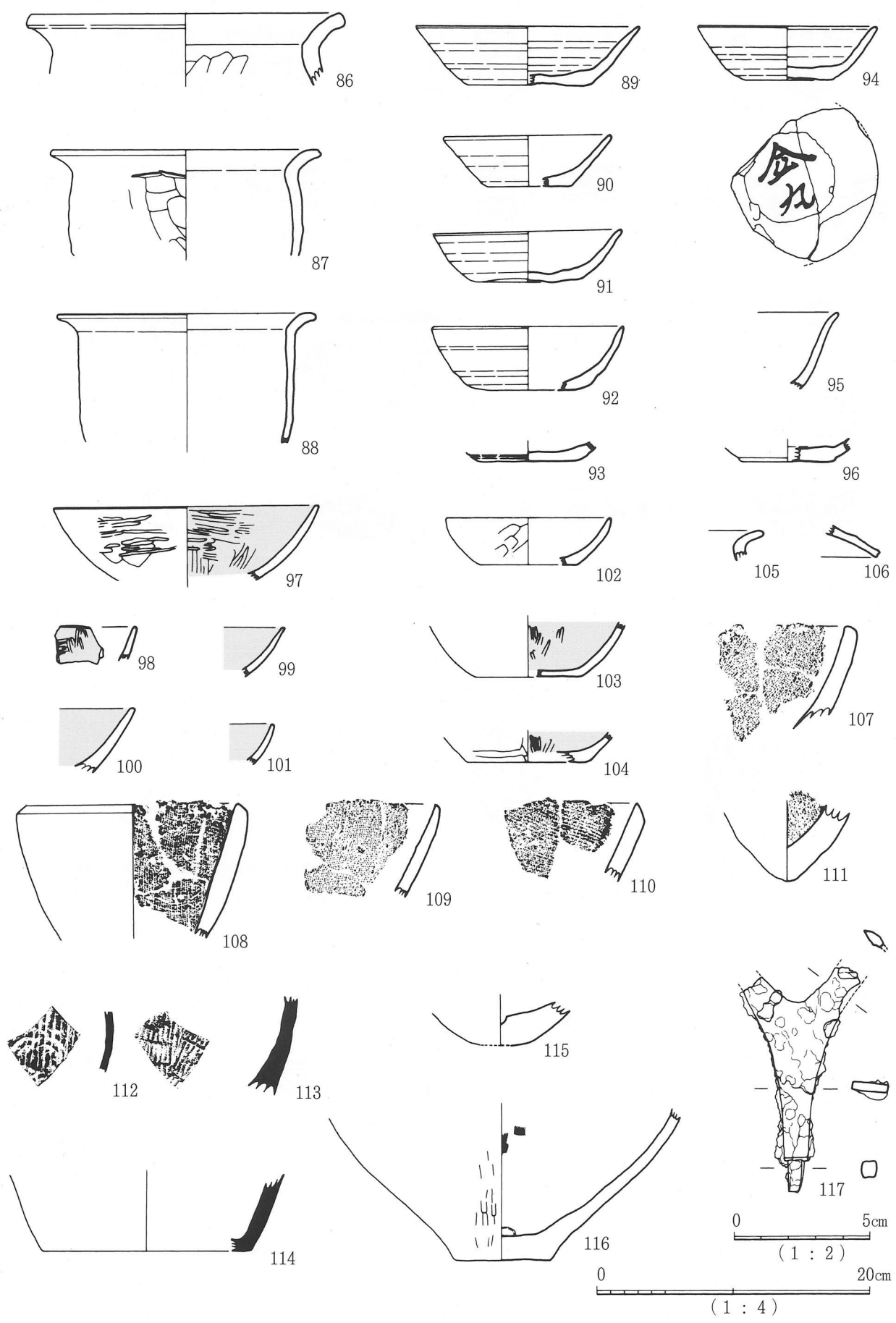


第10図 I 区出土遺物①（1/3）

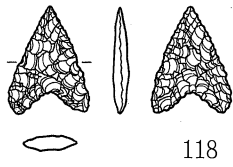




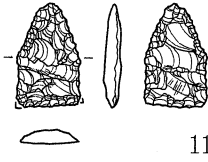
第11图 I区出土遺物②(1/3)



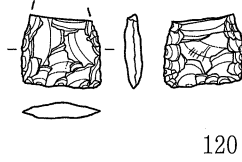
第12図 I区出土遺物③ (1/4・117のみ1/2)



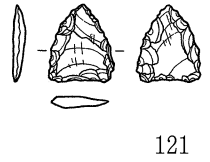
118



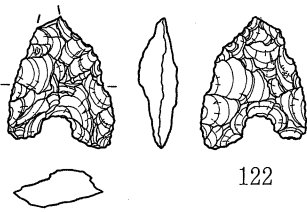
119



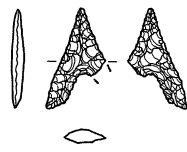
120



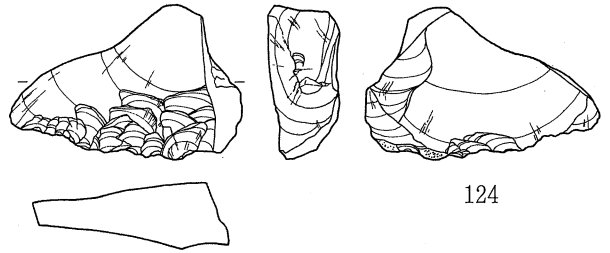
121



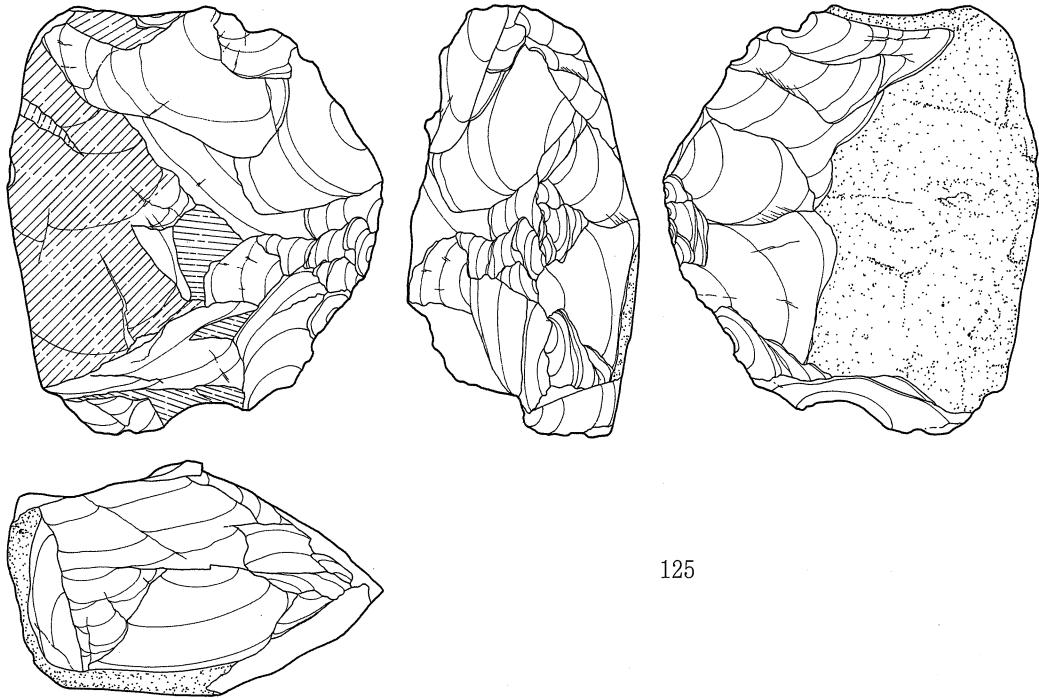
122



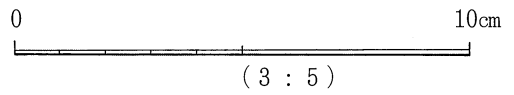
123



124



125



第13图 I区出土遺物④(3/5)

## 第2節 II区の調査

II区では重機による表土の除去後6層上面で遺構検出を行ったが調査区東側で溝状遺構が1条検出されたのみである。7・8層については20mグリッドを基本とした幅1mのトレンチを設定し、遺物・遺構の包含状況を確認したが、分布量が少なかったため、比較的多くの遺物がみられた調査区南西隅の部分に限り面的な掘り下げを実施した。

### ①遺構および出土遺物

遺構として検出されたのは前述のとおり溝状遺構1条のみである。

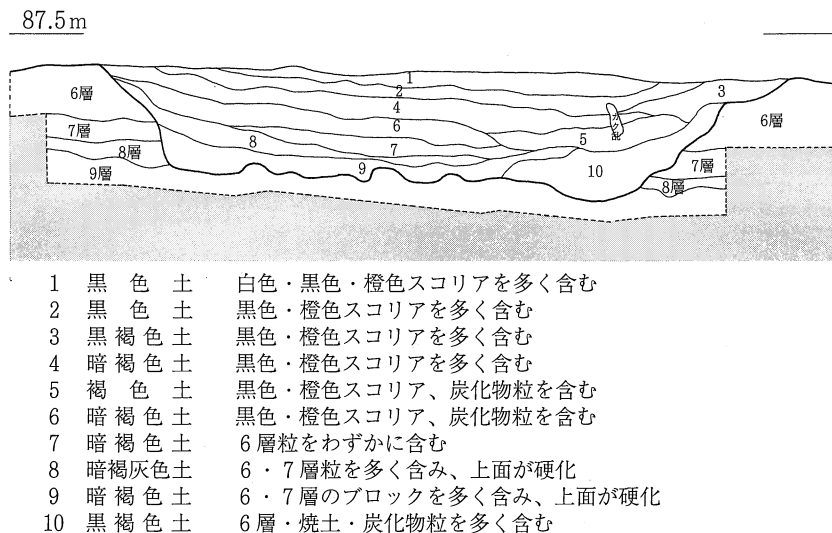
3号溝状遺構は調査区東側の中央付近から北の調査区外へと続くもので、幅4m・長さ50m・深さ20~40cmを計り、溝の基底面には6つの土坑を伴う。この土坑は遺構の南端付近に集中しており、円形・方形・隅丸方形のものが2mほどの間隔で5つ並んでいる。遺物は伴わないため時期については不明だが、その位置や埋土の特長からI区の2号溝状遺構との関連が考えられる。

### ②出土遺物

遺物は調査区南西側を中心に7・8層中から縄文時代早期の土器・石器が出土している。

126は手向山式土器の口縁部で、外面に沈線文・内面に山形押形文がみられる。132は手向山式土器の胴部で、屈曲部上位の外面に沈線文が施されている。129は口縁部外面に刻目突帯が巡るもので、近年手向山式土器と平椀式土器の中間形式に位置付けられている天道ヶ尾式土器とみられる。127・128・130・131・133・134は刺突文・沈線文・刻目突帯文などで構成された文様をもつ平椀式土器である。135は沈線による区画内に捺糸文が施された塞ノ神式土器の胴部である。136は縦方向に施された3条の沈線間に結節縄文の圧痕がみられる胴部片で、平椀式もしくは塞ノ神式土器と考えられる。137は外面に網目捺糸文を持つ平底の底部で、塞ノ神式土器とみられる。

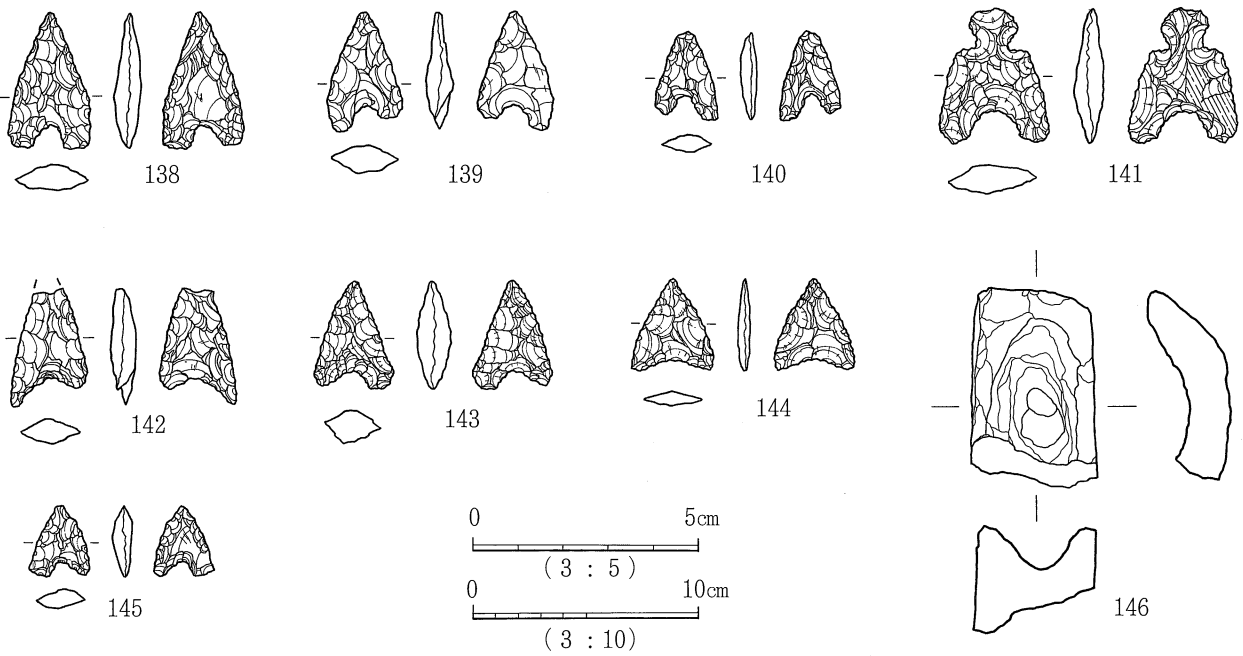
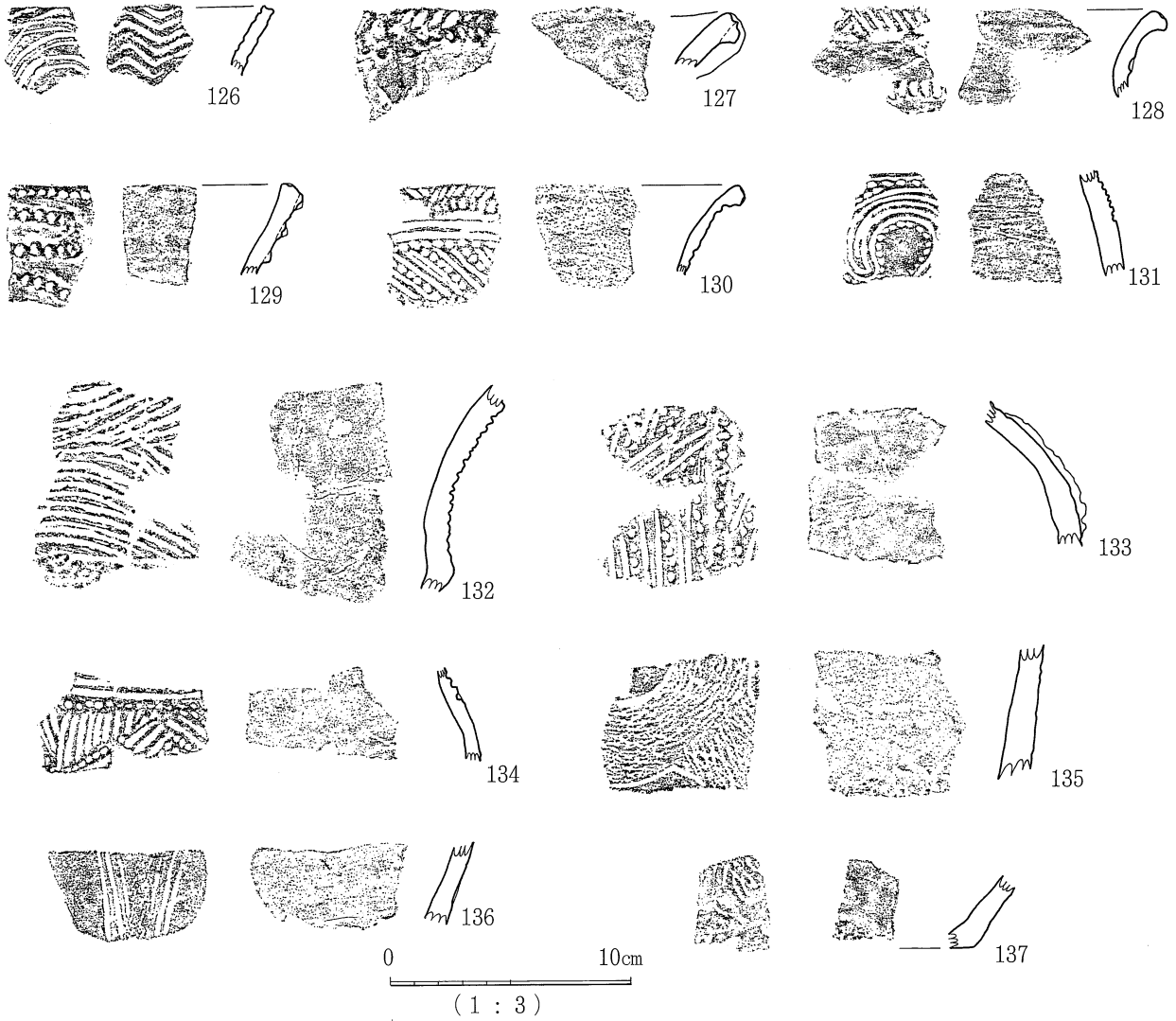
138~146は石器である。136~140・142~145は打製石鏃である。141は形状は石鏃に似ているが、先端部に両側面からの抉りを持つ異形石器である。146は本来は石皿的なものであったと考えられるが、その断面を敲打によって窪ませたものである。



第14図 3号溝状遺構土層図(1/40)



第15図 II区遺構分布図 (1/500)



第16図 II区出土遺物 (126~137は1/3・138~145は3/5・146は3/10)

### 第3節 III区の調査

III区では重機による表土の除去後6・7・8・9層上面で遺構検出を行ったが6層上面では遺構が検出されず、8・9層上面で集石遺構9基を検出した。遺物は7・8層中より縄文時代早期の土器・石器が出土している。また、7・8層の面的な掘り下げに先行して掘削した10mグリッドを基準としたトレンチ内の状況から、遺物等の包含が確認されなかった調査区南東の部分については面的な掘り下げを行わなかった。

#### 1 遺構および出土遺物

遺構として検出されたのは前述のとおり集石遺構9基のみである。

12号集石遺構は90cm×60cmの範囲に10cm大以下の赤く変色した角礫が24点ほど散在するかたちで8層上面から検出されたもので、掘込みは伴わない。

13号集石遺構は40cm×30cmの円形に10cm大以下の赤く変色した角礫が集中するかたちで8層上面から検出され、礫の広がる範囲がわずかに窪む程度で明瞭な掘込みは伴わない。

14号集石遺構は60cm×45cm・深さ5cmほどの浅い楕円形の掘込みを伴い、5～10cm大の赤く変色した角礫が北側に集中して検出された。検出面は9層上面で、掘込み埋土には炭化物や焼土粒が含まれていた。147はこの遺構からの出土で、外面および口縁部内面、口唇部に楕円押形文が施された深鉢の口縁部である。また、図化していないが、楕円押形文土器や平底の底部片が礫中より数点出土している。

15号集石遺構は40cm×35cm・深さ10cmほどの浅い隅丸方形の掘込みを伴い、5～10cm大の角礫30点ほどが東側に集中して検出された。検出面は9層上面である。埋土に炭化物や焼土粒などはほとんど見られず、礫は全体の1/3程度が赤く変色していた。

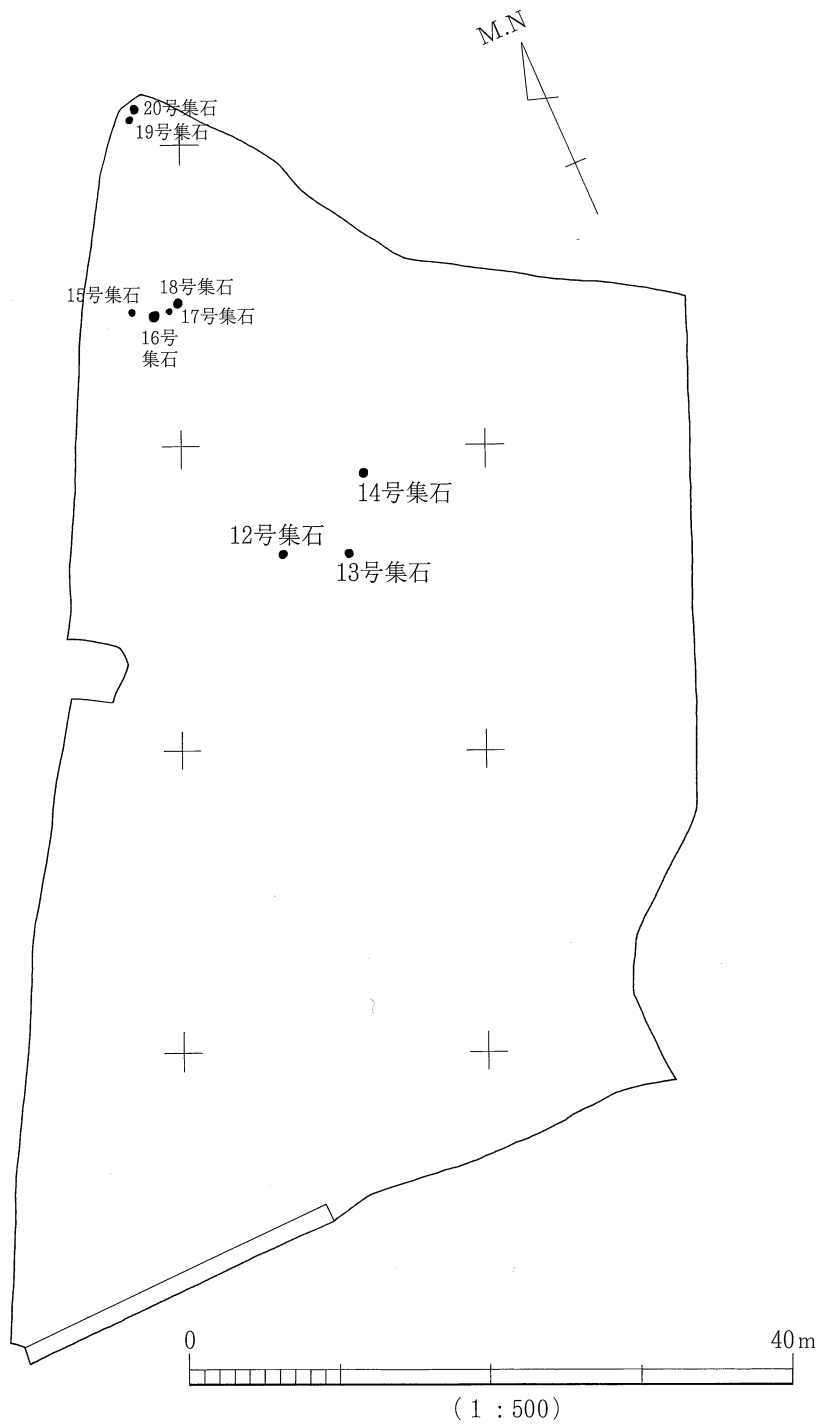
16号集石遺構は直径80cm・深さ15cmほどの円形の掘込みを伴い、5～10cm大の礫がその中に集中して検出された。検出面は9層上面である。ほとんどの礫は赤く変色しており、掘込みの基底には30cm大の比較的偏平な礫が敷かれていた。

17号集石遺構は直径50cm・深さ10cmほどの円形の掘込みを伴い、その中に5～10cm大の赤く変色した礫が10点ほど散在するかたちで検出された。検出面は9層上面である。

18号集石遺構は17号集石遺構の東側に近接して9層上面から検出されたもので、3区で検出された集石遺構の中ではかなり大型である。直径1m・深さ30cmほどの円形の掘込みを伴い、5～20cm大の礫がその中に高い密度で検出された。掘込み埋土の下位には炭化物や焼土粒が多くみられ、礫の大部分は赤く変色していた。

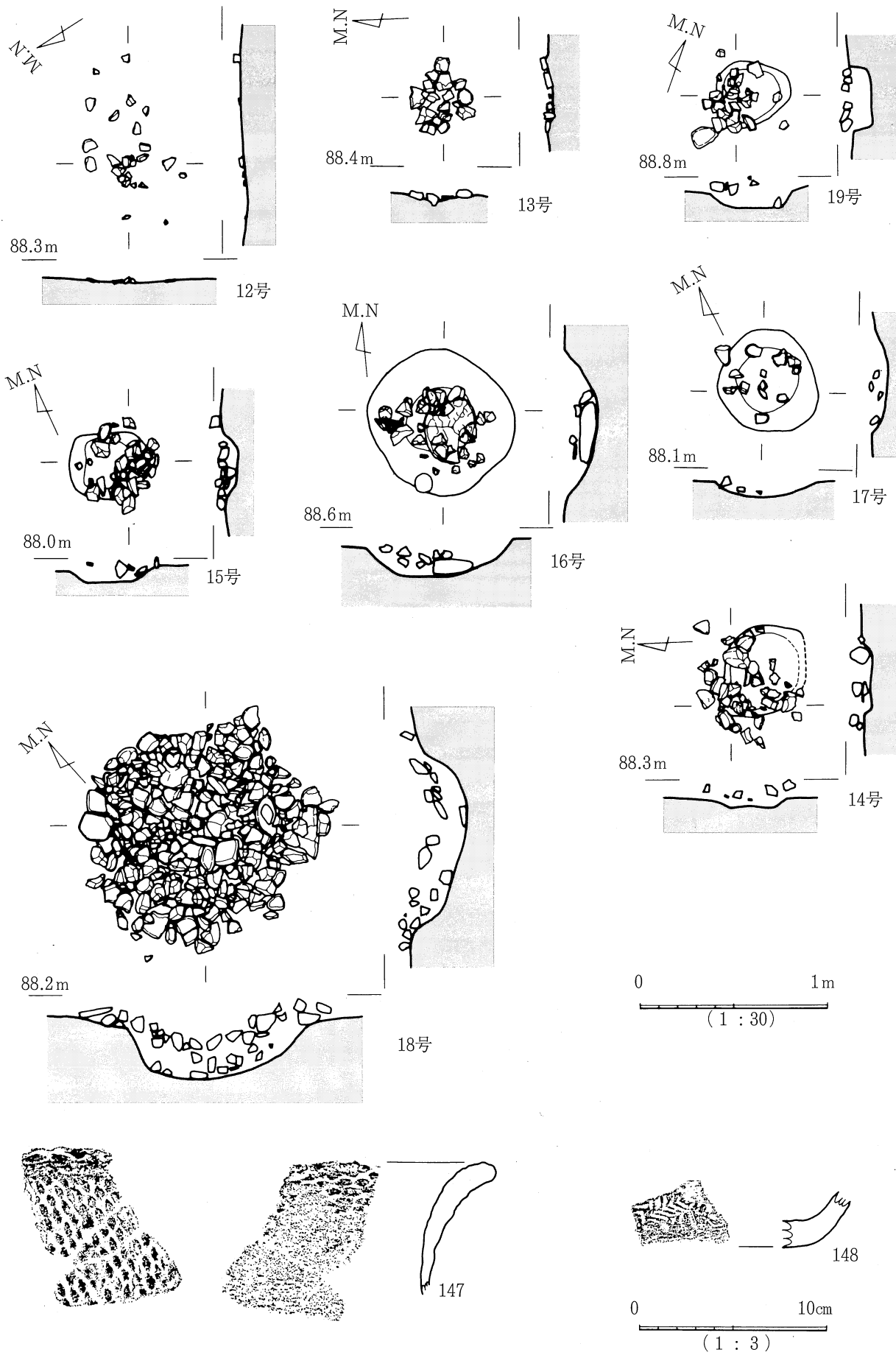
19号集石遺構は40cm×30cm・深さ10cmほどの楕円形の掘込みを伴い、5～15cm大の赤く変色した角礫が南側に集中して検出された。礫はすべて赤く変色し、掘込み埋土の下位には炭化物や焼土粒がみられた。また、礫間より楕円押形文土器が出土している。148はこの遺構からの出土で、外面に山形押形文が施された平底の底部である。

20号集石遺構は掘り込みなく、数個の礫が出土したもので、調査時点では集石遺構としていたが、他の遺構と同様の集石遺構とすることには疑問が残ったため、ここでは扱わない。



第17图 III区遺構分布图 (1/500)



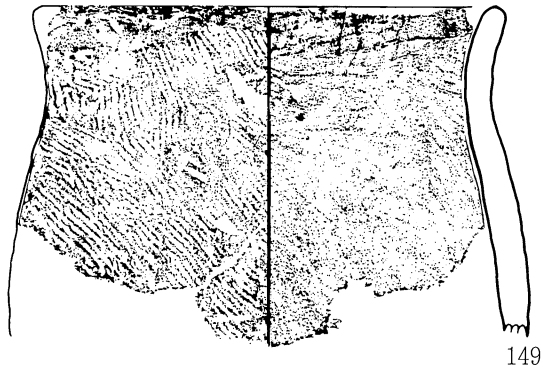


第18図 Ⅲ区検出集石遺構 (1/30) 及び出土遺物 (1/3)

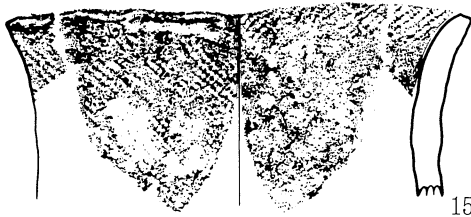
## 2 その他の出土遺物

149～152は捺糸文土器である。150・151は同一個体とみられ、共に外面に変形捺糸文が施されている。153～162は施文の状況や部位から押型文土器の一種とみられるが、その原体は判然としない。164～186は楕円押型文土器で、施文部位や方向、原体の大きさ等にかなり個体差がみられる。178は口唇部の施文が楕円押型文ではなく、沈線文である。また、178～180は外面の楕円押型文が全面的でなく、間隔をあけて帯状に施文されている。182～186は底部であるが、182は底部外面にも楕円押型文が施されている。187～199は山形押型文土器である。192は外面に鋸歯状の沈線文、口縁部内面に山形押型文が施されている。195は178～180と同様に山形押型文が間隔をあけて帯状に施文されている。196は山形押型文土器の破片を円盤状に加工したものである。200は口唇部にハ状の押圧、外面に斜めの沈線文がみられ、手向山式土器の可能性が高い。201・202は同一個体とみられ、外面および口唇部、口縁部内面に条痕文が施された土器であり、施文部位等は押型文土器と共通している。203～221は平椀式土器である。口縁部は肥厚し、刺突文や沈線文、捺糸文等が組み合わされた文様が施されている。胴部も同様で、刻目突帯を持つものや地文として捺糸文がほどこされたものがみられる。なお、203・204、210・215・221、217・219・220、211・216・218はそれぞれ同一個体の可能性が高い。222～262は塞ノ神式土器である。口縁部は刺突や沈線、短沈線で横成された文様をもつ。235は沈線間に捺糸文が施されている。231・236は口縁部には特に施文がみられず、口唇部に羽状文が施されたもので、器形的な類似からここに置いた。また、口縁部の形状として内湾するものや直線的なもの、口縁部の中位で内折するものがある。胴部は沈線や刺突文、捺糸文、網目捺糸文、沈線間に捺糸文を施すものがみられる。なお、222・223、228・239、249・250は同一個体の可能性が高い。256～262は底部で、すべて平底である。263・264は外面に貝殻復縁による押圧文が施されたもので下剥峰式土器とみられる。265・266・270は無文の壺形土器で、265の内外面には赤色顔料の付着がみられる。267は小型の土器で、外面に竹管状の刺突文がみられる。268は内外面は無文だが、口唇部に間隔をおいて捺糸文が施されている。269は外面に捺糸文が施された深鉢の頸部付近で、器形的には手向山式土器と類似したものになる可能性がある。271～274は底部ですべて平底状を呈し、273には穿孔がみられる。275は土器片錘、276はわずかに湾曲し、その外面に細い沈線による文様が施されたもので、土器に付属するものであるのか、単独の装飾土製品であるのか判断できない。

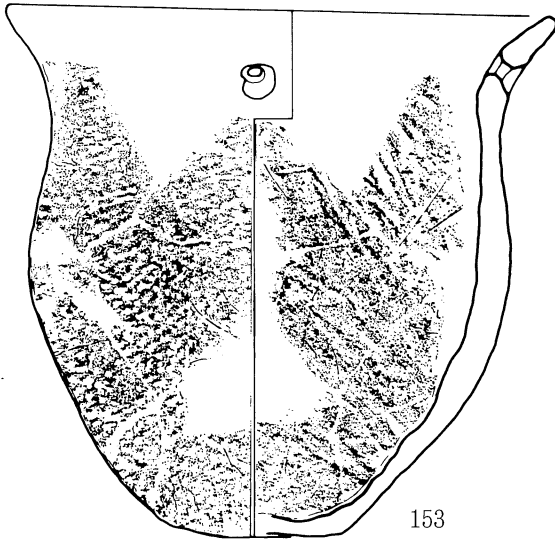
277～306は石器である。277～294は石鏃であり、縦長の二等辺三角形のものから正三角形に近いもの、また基部の抉りが深いものから窪む程度のものまで多様である。295は形状的には石鏃に類似するが先端部が尖らず、脚部を明瞭に造出した後全体を磨いており、いわゆるトロトロ石器とみられる。296・297はスクレイパー、298・300は石核である。299は二次加工剥片、301は使用痕剥片である。302は縦長、303は横長の石匙とみられる。304・305は磨石、306は磨製石斧の刃部片である。



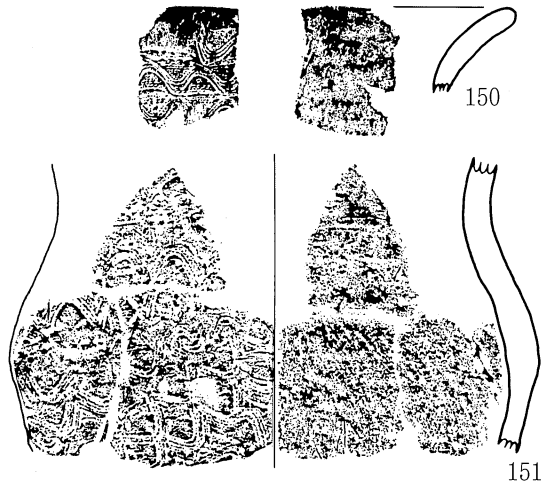
149



152



153



150

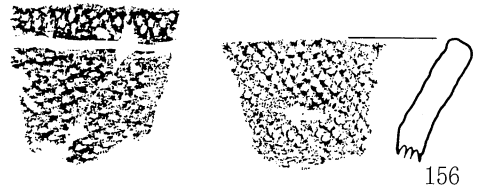
151



154



155



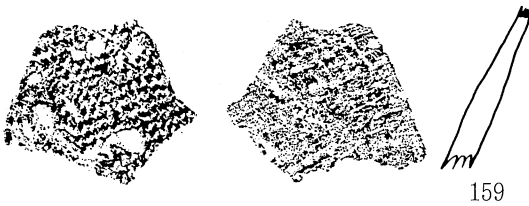
156



157



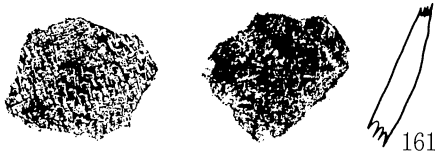
158



159



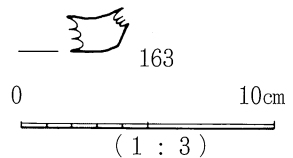
160



161



162

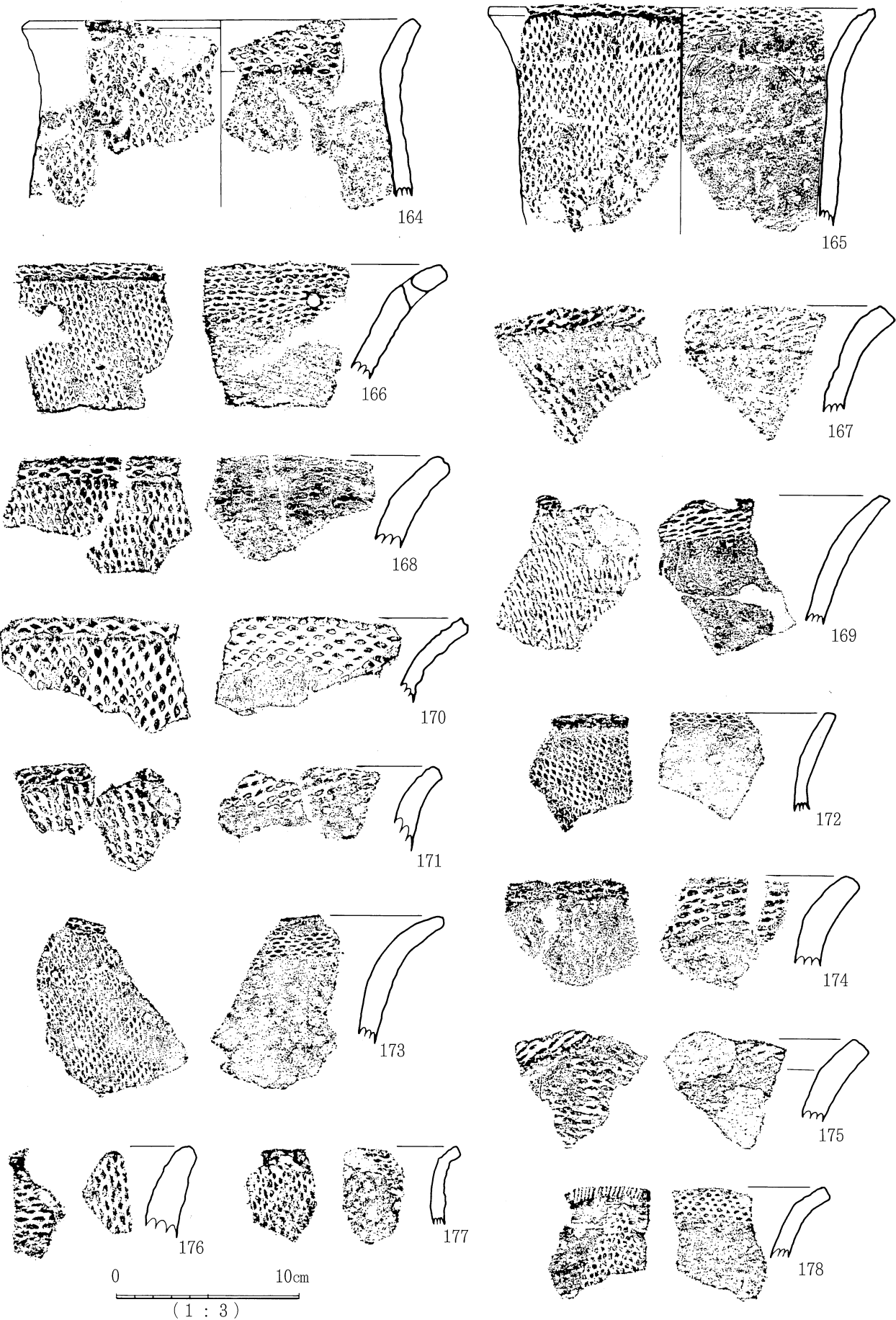


163

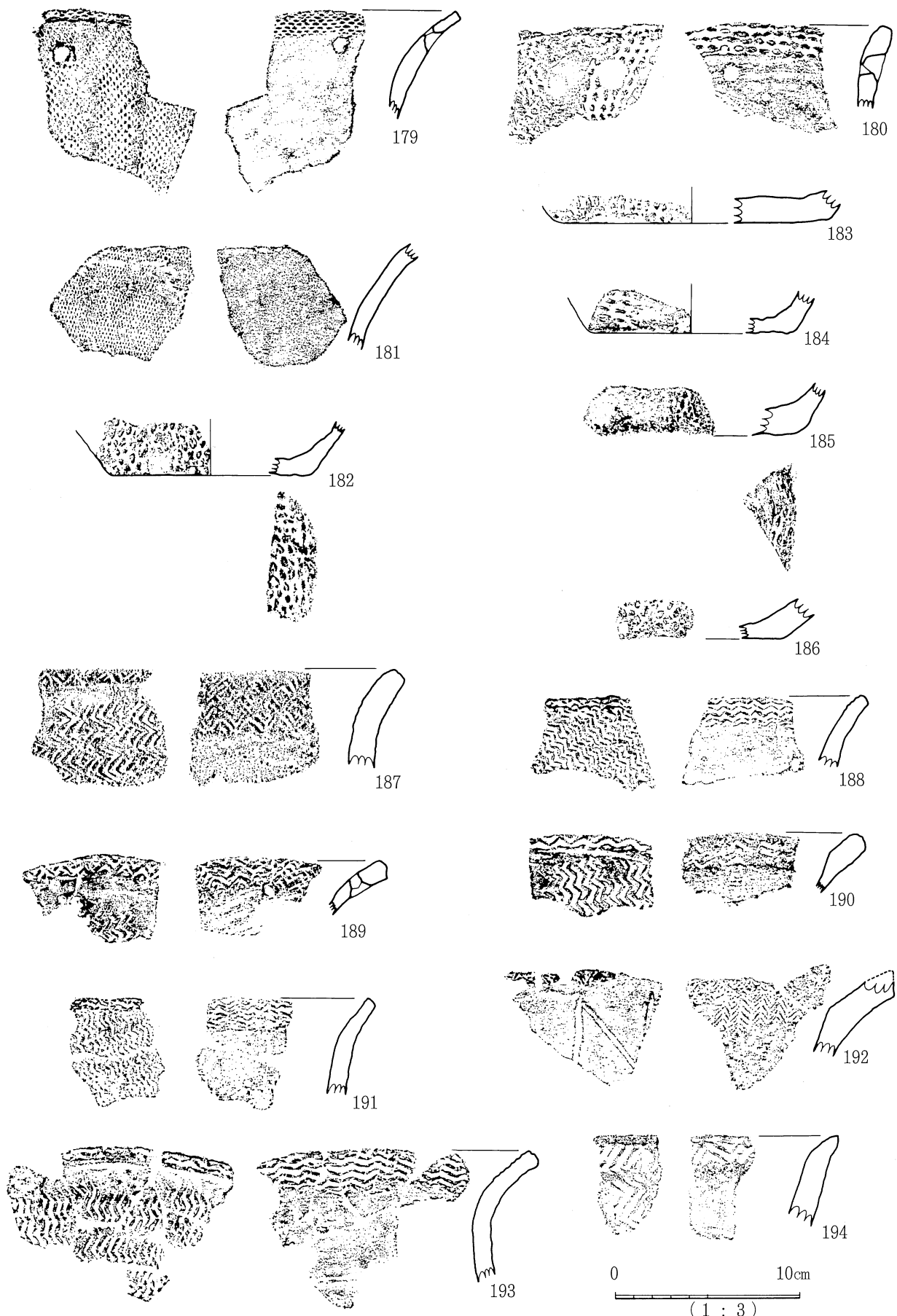
0 10cm

(1:3)

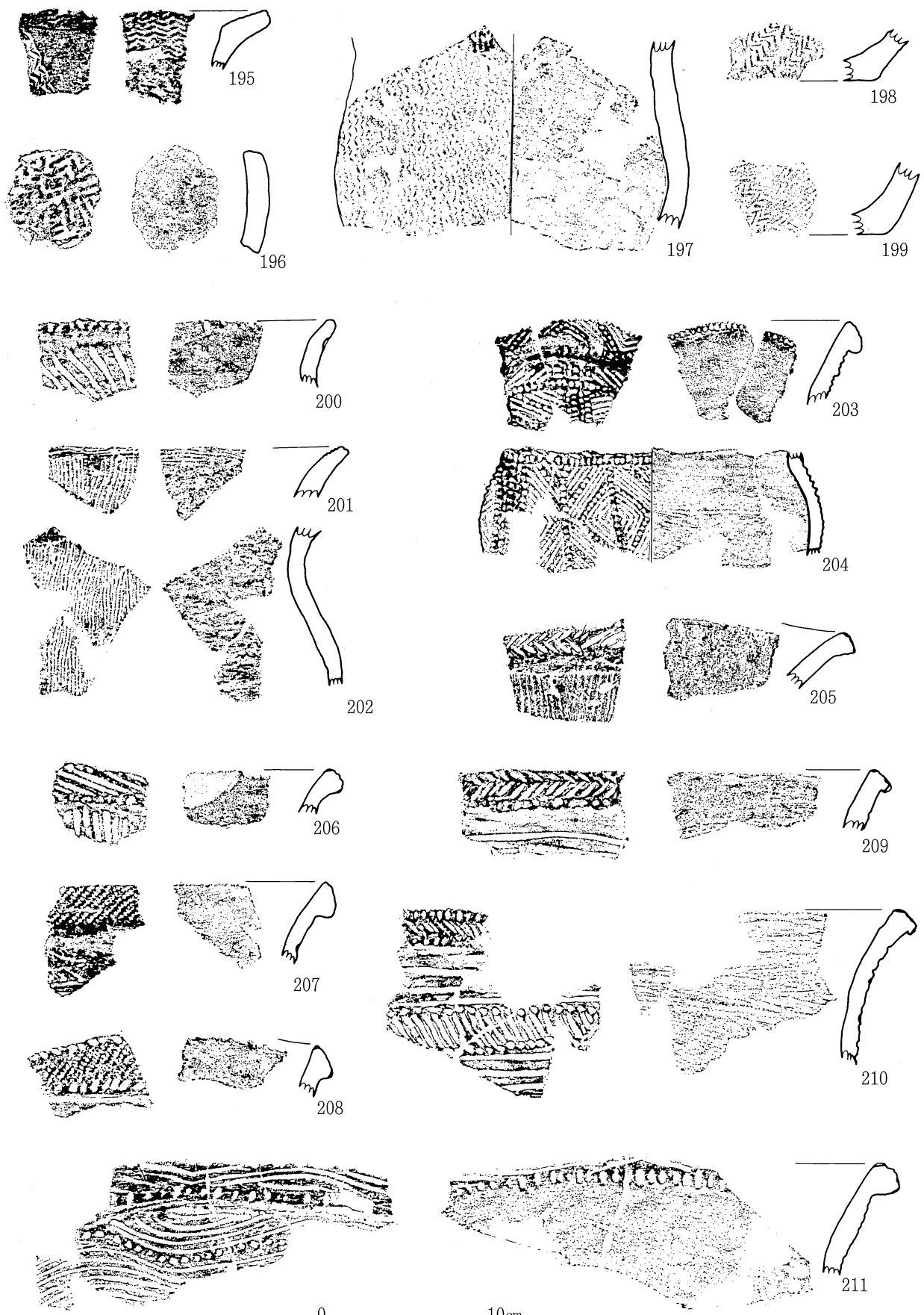
第19图 Ⅲ区出土遺物① (1/3)



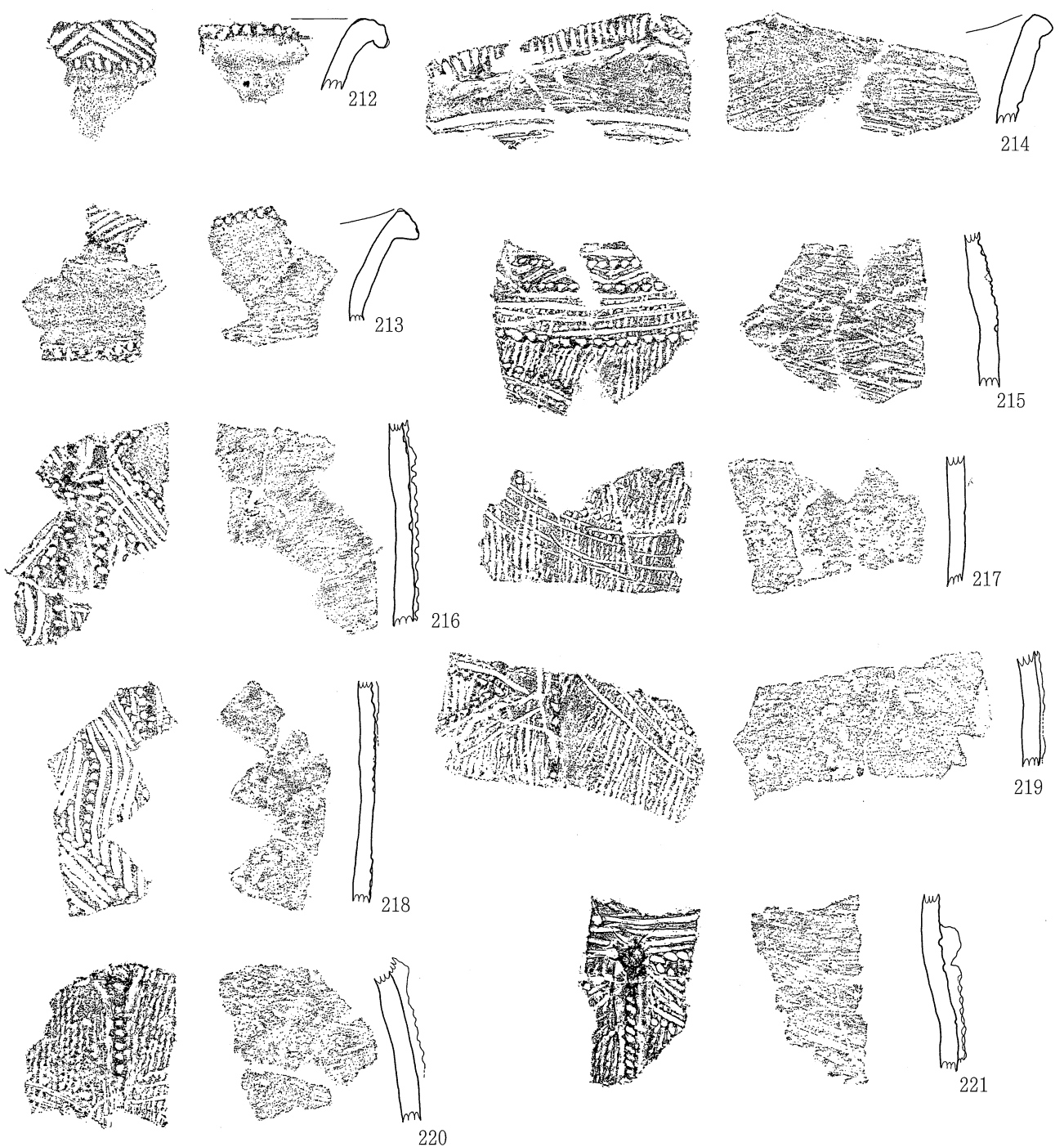
第20图 III区出土遺物② (1 / 3)



第21图 Ⅲ区出土遺物③ (1 / 3)

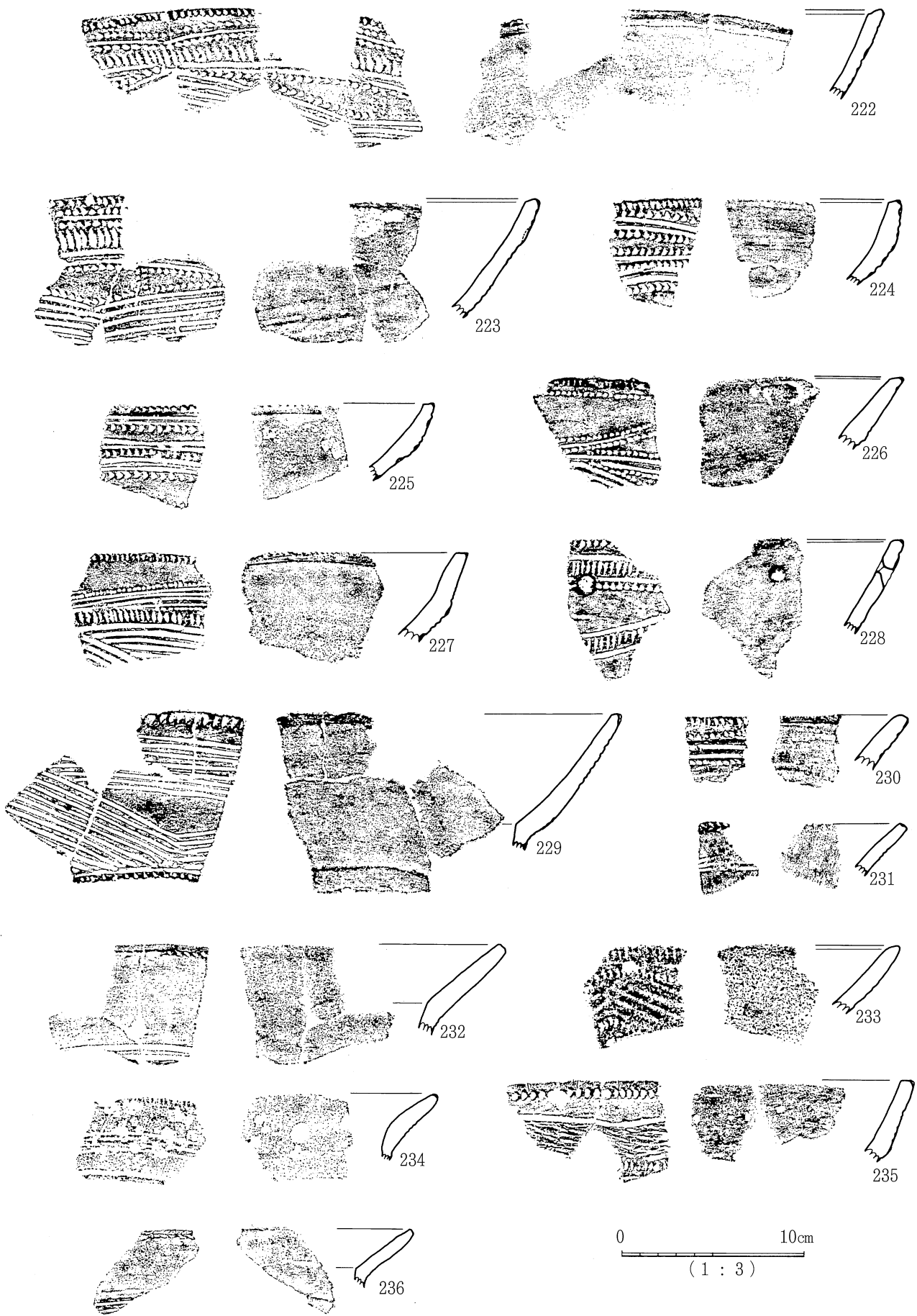


第22图 Ⅲ区出土遺物④ (1 / 3)



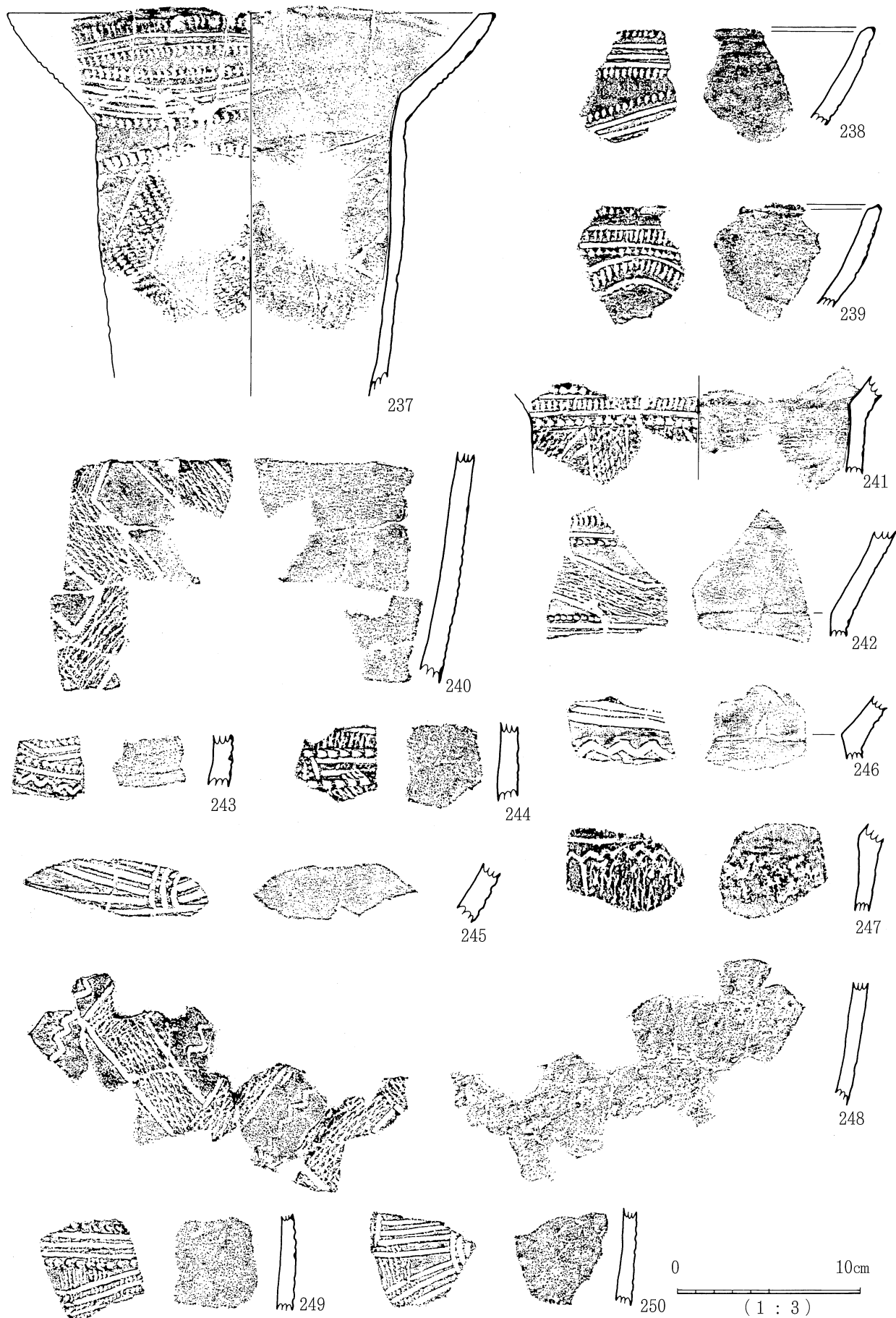
0 10cm  
(1 : 3)

第23图 Ⅲ区出土遗物⑤ (1 / 3)

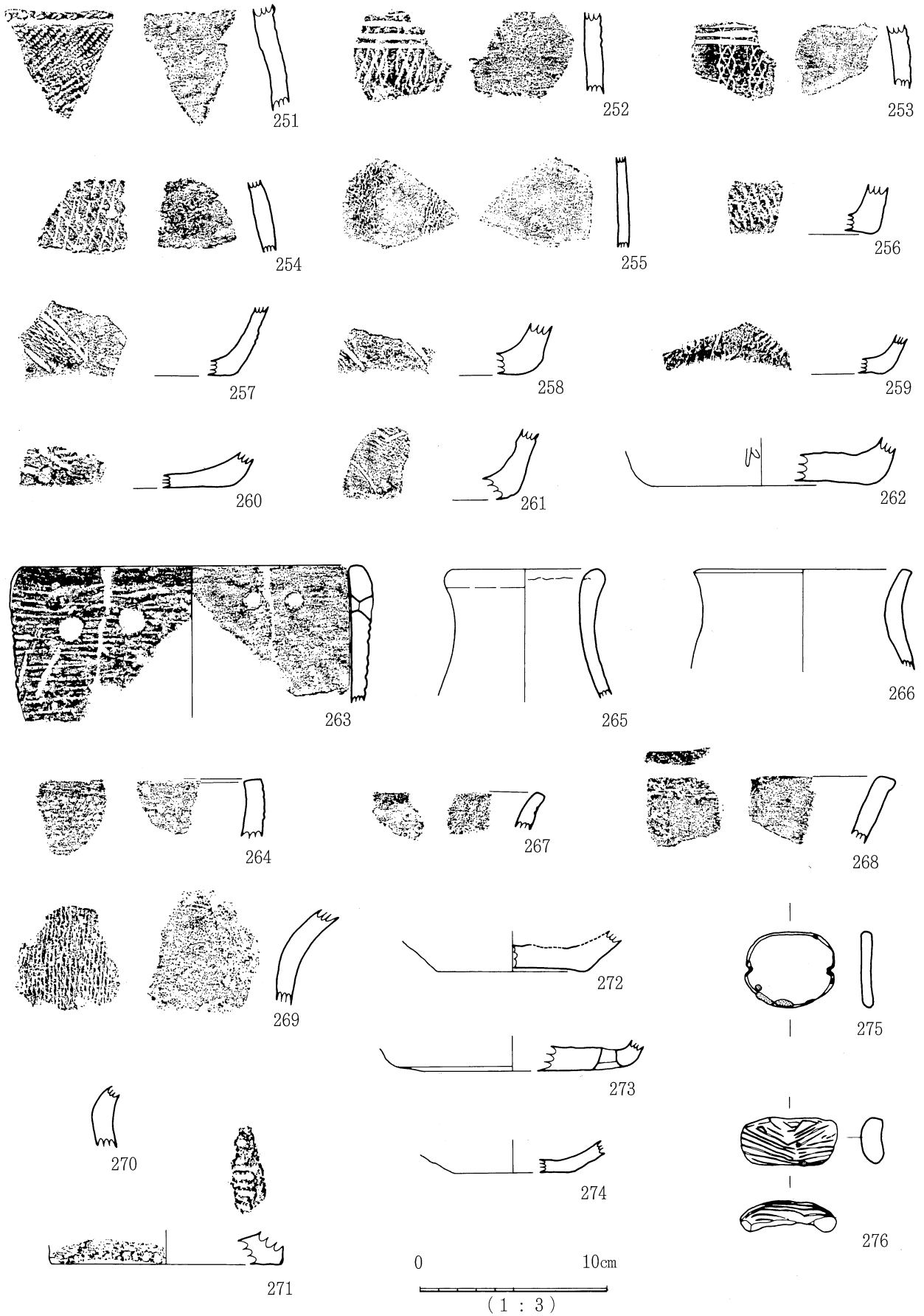


第24图 Ⅲ区出土遺物⑥ (1/3)

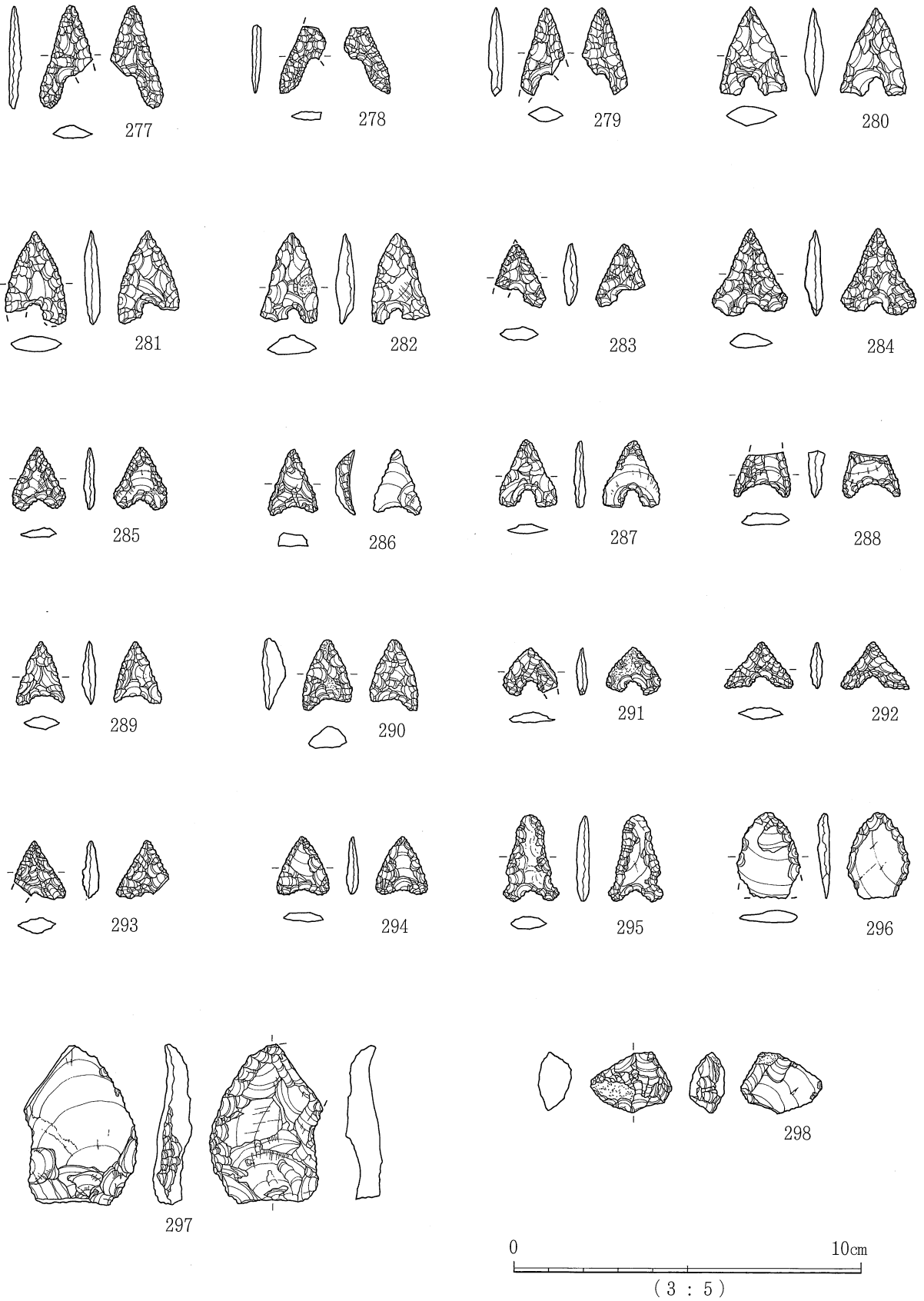




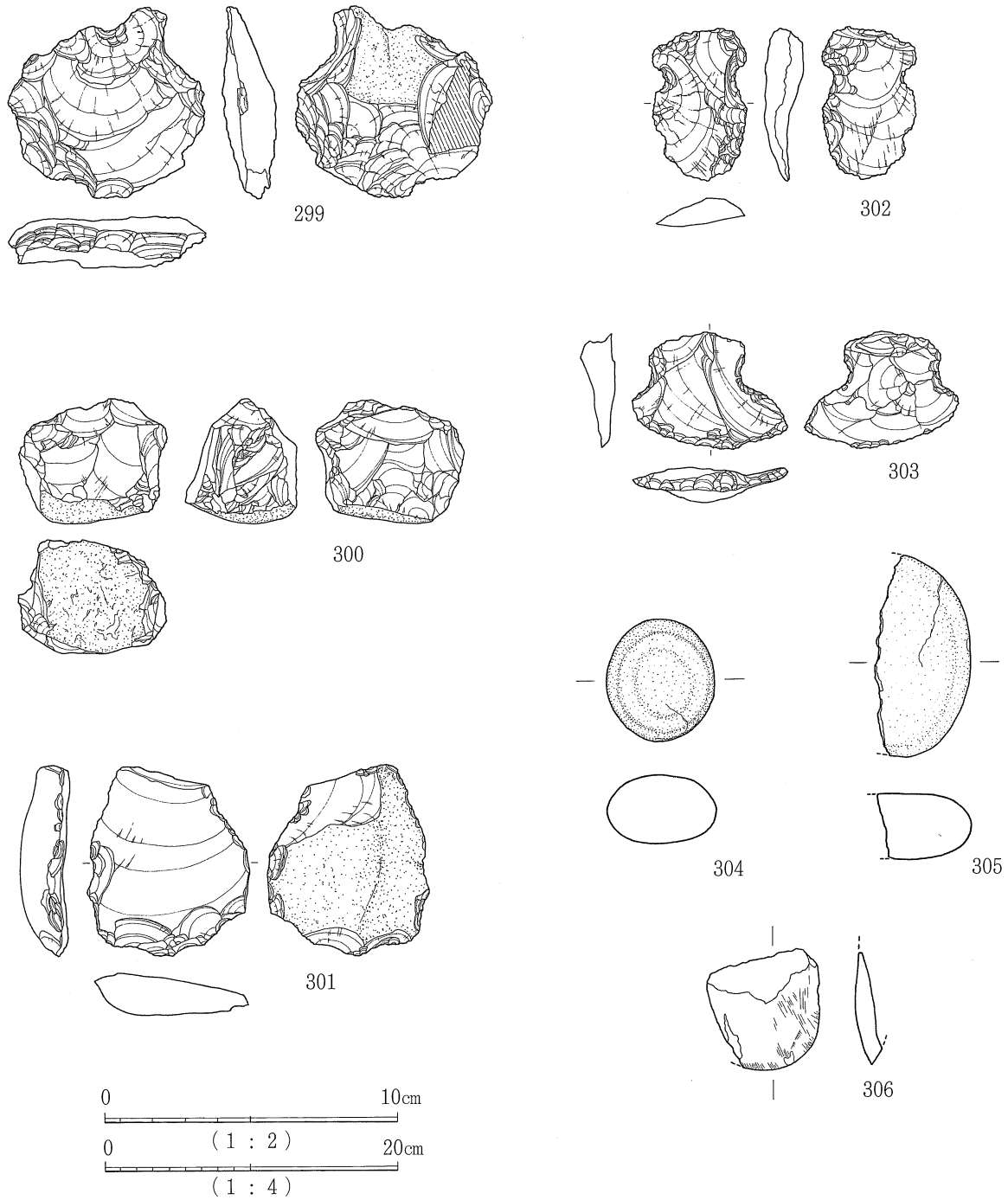
第25图 Ⅲ区出土遗物⑦ (1/3)



第26图 Ⅲ区出土遺物⑧ (1 / 3)



第27图 Ⅲ区出土遺物⑨(3/5)



第28図 Ⅲ区出土遺物⑩ (1/2・304と305は1/4)

遺物 番号	種 別	器 種 部 位	出 土 地 点	法 量 (cm)			手 法・調 整・文 様 ほか		色 調		胎 土 の 特 徴	備 考
				口 径	底 径	器 高	外 面	内 面	外 面	内 面		
1	縄文土器	深鉢 胴部	I 区				山形押形文 凹縄文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄 にぶい黄橙	2mm以下の褐灰・浅黄橙・灰褐・透 明で光沢のある粒を含む	
2	土師器	甕 口縁部～胴部	1号 住居	(22.9) 内径 (22.5)			工具によるナデ	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	4mm以下の灰白・褐・灰・茶褐の粒 を含む	
3	土師器	甕 口縁部～胴部	1号 住居	(22.2)			ナデ	ナデ ヘラケズリ	橙	にぶい黄橙	1.5～4mmの茶・褐・黒・乳白色の粒 を含む	
4	土師器	甕 口縁部～胴部	1号 住居	(23.4)			ナデ	ナデ ヘラケズリ	橙	浅黄橙	4mm以下の褐灰・灰褐・灰白の粒を 含む	
5	土師器	甕 口縁部～胴部	1号 住居				ナデ	ナデ	浅黄橙	にぶい橙	0.5～5mm以下の褐色 1～2mmの灰白・黒褐の粒を含む	
6	土師器	甕 口縁部～胴部	1号 住居				ナデ	ナデ ヘラケズリ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	4.5mm以下の褐・赤褐・灰白の粒を 含む	
7	土師器	坏 胴部～底部	1号 住居		(6.1)		回転ナデ	回転ナデ	明褐灰	にぶい橙	きめ細か	底部は ヘラキリ
8	土師器	坏 胴部～底部	1号 住居		(6.95)		回転ナデ ナデ	回転ナデ	浅黄橙	浅黄橙	1mm以下の赤褐色 きめ細かな粒を含む	
9	内黒 土器	椀 口縁部	1号 住居				ミガキ 粗いナデ	ミガキ	黒	にぶい黄	1mm以下の黒色の粒を含む	
10	土師質 土器	鉢 口縁部～胴部	1号 住居	(16.95)			ナデ 指押さえ	布目圧痕	にぶい橙	にぶい橙	9mm以下の灰褐色 褐色の粒を含む	製塩土器
11	土師質 土器	鉢 口縁部～胴部	1号 住居	(13.8)			ナデ 指押さえ	布目圧痕	橙	橙	1～5mmの橙の粒を含む	製塩土器
12	土師質 土器	鉢 口縁部～胴部	1号 住居	(15.6)			ナデ 指押さえ	布目圧痕	橙	橙	5～8mmの橙の粒を含む	製塩土器
13	土師器	甕 口縁部～底部付近	2号 住居	(24.6)			ナデ ハケ目	ナデ ヘラケズリ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	5mm以下の灰色・灰黄褐色・橙色・ 灰褐色・赤褐色・灰白色の粒を含む	
14	土師器	甕 口縁部	2号 住居	(22.8)			ナデ	ナデ	浅黄 浅黄橙	浅黄橙	0.5～4mmの黒・褐色・灰色の粒を含 む	
15	土師器	甕 口縁部～胴部	2号 住居	(17.6)			ナデ	ナデ ヘラケズリ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～3mmの灰褐 赤褐の粒を含む	
16	土師器	甕 口縁部～胴部	2号 住居				ナデ	ナデ ヘラケズリ	にぶい橙	にぶい橙	4.5mm以下の暗赤褐・橙の粒を含む	
17	土師器	甕 口縁部～胴部	2号 住居				ナデ	ナデ ヘラケズリ	にぶい橙	にぶい黄橙	3mm以下の黒色・褐色・灰色の粒と 透明のガラス質の粒を含む	外面に罫とス 附着同一個体
18	土師器	片口鉢 口縁部～胴部	2号 住居	(21.35)			ナデ	ナデ	にぶい黄橙	浅黄橙	きめ細かな光沢微細粒を含む	
19	土師器	片口鉢 胴部～底部	2号 住居	(12)			タテ方向の工具ナデ	ナデ	にぶい橙	浅黄橙	3mm以下の赤褐色と2mm程の褐色と0.5 mm以下の無色透明に光る粒を含む	
20	土師器	坏 完形	2号 住居	13.1	5.5		回転ナデ ナデ	回転ナデ	橙	橙	きめ細か	底部は ヘラキリ
21	土師器	坏 完形	2号 住居	14.9	7.2		回転ナデ ナデ	回転ナデ	橙	橙	1mm以下で乳白色の粒を含む	底部は ヘラキリ
22	土師器	坏 胴部～底部	2号 住居		(8.7)		回転ナデ ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙	浅黄	0.5mm以下の黒・黄灰色の粒を含む きめ細か	底部は ヘラキリ
23	土師質 土器	鉢 口縁部	2号 住居				ナデ 指押さえ	布目圧痕	にぶい橙	浅黄	12mm以下の橙の粒を含む	
24	土師質 土器	鉢 口縁部	2号 住居				ナデ 指押さえ	布目圧痕	橙	橙	9mm以下の橙の粒を含む	
25	不明	土器片鍾	2号 住居	最大長 2.75	最大巾 3.75	最大厚 0.8	ナデ	ナデ	灰黄	灰	1.5mmの黒色の粒と1mm以下の黒色・黒 透明光沢の粒を含む	端部 切れ目
26	内黒 土器	坏 完形	2号 住居	(8)	3.5 (3.2)	2.85	ナデ 指押さえ ヘラケズリ	ミガキ	橙	黄灰	0.5mm以下の褐・黒・光沢粒を含む きめ細か	
27	須恵器	壺 胴部	2号 住居				ナデ 自然釉	ナデ	灰	灰	精良	
30	土師器	甕 完形	3号 住居	(27.2) 内径 (26.2)	(5.8)	2.3	ナデ ハケ目	ナデ ヘラケズリ 指押さえ	橙 浅黄橙 にぶい黄橙	にぶい黄橙	6mm以下の褐・暗灰 黄色の粒を含む	
31	土師器	甕 完形	3号 住居	(22.75) 内径 (22.15)		25.3	ナデ ハケ目	ナデ ヘラケズリ	橙	橙	6mm以下の褐灰・灰褐・明褐・灰と 2mm以下の赤褐・黒色光沢粒を含む	
32	土師器	甕 口縁部	3号 住居				ナデ ハケ目	ナデ	にぶい黄橙	浅黄	5mm以下の褐・灰白色の粒を含む	
33	土師器	甕 口縁部	3号 住居				ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	透明・半透明のガラス質の粒と3mm以下 の褐色 5mm大の褐色の粒を含む	
34	土師器	甕 底部	3号 住居				ナデ	ナデ	にぶい橙 にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mmの灰色 褐色の粒を含む	
35	土師器	甕 底部	3号 住居		(7.2)		ナデ	ナデ	淡赤橙 にぶい黄橙	浅黄	0.5mm～2mmの褐色 灰色の粒とガラス質の粒を含む	
36	土師器	甕 口縁部～胴部	3号 住居	(22.6)			ナデ	ナデ ヘラケズリ	浅黄橙	浅黄橙 橙	3mm以下の褐色の粒を含む	
37	土師器	坏 完形	3号 住居	(13.75)	(7.5)		回転ナデ	回転ナデ ナデ	橙	橙	きめ細か	底部は ヘラキリ
38	土師器	坏 口縁部	3号 住居				回転ナデ	回転ナデ	橙	橙	精良 きめ細か	
39	土師器	高台付坏 口縁部～底部	3号 住居	(15.8)	(7.2)		ナデ	ナデ	橙	橙	2mm以下の乳白色の粒を含む	
40	土師器	椀 口縁部	3号 住居	(12)			ヘラケズリ	ナデ	橙	橙	1mmの透明の光沢のある粒と褐・ 褐灰の粒を含む	
41	土師器	皿 完形	3号 住居	(14)	10.4	2.1	回転ナデ	回転ナデ ナデ	橙	橙	精良 きめ細か	底部は ヘラキリ
42	土師器	鉢 口縁部～胴部	3号 住居	(23.4)			カキ目	ナデ ヘラケズリ	橙	橙	2.5mm以下の褐色 赤褐色 暗赤灰・灰白の粒を含む	
43	土師質 土器	鉢 口縁部	3号 住居	(13)			ナデ 指押さえ	布目圧痕	橙 にぶい黄橙	橙	きめ細か 5.5mmの灰色 にぶい褐色の粒を含む	

遺物番号	種別	器種部位	出土地点	法量 (cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
44	土師質土器	鉢口縁部	3号住居				ナデ 指押さえ	布目圧痕	橙	橙	0.5mm~9mmの灰・にぶい橙・緑灰の粒を含む	
45	土師質土器	鉢口縁部	3号住居				ナデ 指押さえ	布目圧痕	にぶい橙	にぶい橙	きめ細か 5mm以下の橙・褐・灰色の粒を含む	
46	内黒土器	鉢口縁部~胴部	3号住居				ヘラケズリ ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙	黒	きめ細か 微細な灰白・褐の粒を含む	
47	須恵器	蓋口縁部	3号住居				回転ナデ	回転ナデ	灰	灰	精良	
48	須恵器	坏底部	3号住居		(7.55)		回転ナデ	回転ナデ	灰	灰	精良	底部ヘラキリ
49	須恵器	壺口縁部	3号住居				ナデ 自然釉	ナデ 自然釉	灰	自然釉	精良	
50	須恵器	甕頸部	3号住居				ナデ 格子目タタキ	ナデ 同心円当具痕	黄灰 灰黄	灰白	1mm以下のガラス質の粒を含む精良	
51	須恵器	甕胴部	3号住居				格子目タタキ	平行当具痕	灰白 灰黄褐	にぶい黄橙	0.5mm以下のガラス質の粒と褐色の粒を含む 精良	
52	須恵器	甕底部	3号住居				格子目タタキ	ナデ 平行当具痕?	黄灰 灰白	灰白	1mm以下の褐色・黒灰色・ガラス質の粒を含む 精良	
53	縄文土器	不明胴部	3号住居				組織痕	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	0.5mmの乳白色・灰色の粒と透明に光るガラス質の粒黒く光る粒を含む	
54	縄文土器	鉢底部	3号住居				ナデ	ていねいなナデ	にぶい橙	黄灰	0.5mm以下の透明で黒く光る粒と褐色・白灰色の粒を含む	
55	縄文土器	深鉢口縁部	I区				貝殻条痕 刺突文	貝殻条痕	にぶい橙	にぶい橙	透明黒色に光るガラス質の再片0.5mm~1mmの灰色・褐色の砂粒含む	液状口縁 外面スス付着
56	縄文土器	深鉢頸部	I区				ナデ	貝殻条痕	橙	橙	1mm以下で透明の光沢粒と3mm以下で灰白の粒を含む	外面スス付着
57	縄文土器	深鉢頸部	I区				刺突文 沈線 ナデ	貝殻条痕	明赤褐	明赤褐	1mm以下で灰白色の粒を含む	外面スス付着
58	縄文土器	深鉢頸部	I区				ナデ 貝殻条痕 沈線	貝殻条痕	赤褐	赤褐	2mm以下で灰白色の粒を含む	外面スス付着
59	縄文土器	深鉢口縁部	I区	29.2			粗いナデ 刻み目	貝殻条痕 ナデ	浅黄	淡黄	透明のガラス片少量 0.5mm~1mmの灰褐・黒褐色の砂粒含む	外面スス付着
60	縄文土器	深鉢口縁部	I区	(9.1)			貝殻条痕	ナデ	浅黄橙	浅黄 灰	3mm以下の褐・褐灰・黄褐色の粒と1mm以下の灰白透明光沢粒を含む	
61	縄文土器	深鉢口縁部	I区				ナデ	条痕文 ナデ	にぶい黄橙 黄灰	浅黄	1.5mm以下の灰白の粒を含む	
62	縄文土器	不明胴部	I区				組織痕	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	3mm以下の黒色・茶褐色灰白の粒を含む	組織痕
63	縄文土器	深鉢口縁部	I区				ナデ 条痕文	条痕文	にぶい黄橙	橙	2mm以下の赤褐・明褐灰・灰白の粒と1mm以下の黒色光沢粒を含む	孔列文
64	縄文土器	深鉢口縁部	I区				粗いナデ	粗いナデ	浅黄橙	浅黄橙	6mm以下のにぶい褐灰白の粒を多く含む	孔列文
65	縄文土器	深鉢口縁部	I区				ナデ	ナデ	にぶい黄橙	灰オリーブ	1.5mm以下の灰白の粒と1mm以下の透明光沢の粒を含む	孔列文 外面スス付着
66	縄文土器	深鉢口縁部	I区				粗いナデ	粗いナデ	浅黄橙	にぶい橙	3mm以下の暗赤褐の粒1.5mm以下の黒・灰白・乳白色・黒色光沢透明光沢粒を含む	孔列文
67	縄文土器	深鉢口縁部	I区				粗いナデ	粗いナデ	浅黄橙	浅黄橙	3.5mm以下の黄灰黒・明赤褐・灰色の粒と1mm以下の透明光沢粒を含む	孔列文
68	縄文土器	深鉢口縁部	I区				ナデ	粗いナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	5mmの明赤褐・灰白の光沢のある粒を含む	孔列文
69	縄文土器	深鉢口縁部	I区				ナデ 条痕文	条痕文	灰	灰白	2mm以下の赤褐・灰白・乳白色の粒と1mm以下の黒色光沢・透明光沢粒を含む	孔列文
70	縄文土器	深鉢口縁部	I区				ナデ 指押え	ナデ	黄灰	にぶい黄橙	1.5mm以下の淡黄・灰白・黄・橙・乳白色の粒と1mm以下の黒色光沢透明光沢粒を含む	孔列文 顕目貼り付帯
71	縄文土器	深鉢頸部	I区				ナデ	ナデ	灰黄	黄灰	3mm以下の褐色の粒2mm以下の透明光沢粒淡黄色赤褐色の粒1mm以下の黒色光沢粒を含む	孔列文 顕目貼り付帯
72	縄文土器	深鉢底部	I区				ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	乳白色粒5mm以下の明赤褐色の粒と2mm以下の黒褐色の粒を含む	
73	縄文土器	深鉢底部	I区				ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の灰白色の粒と1mm以下の透明で光沢の粒を含む	
74	縄文土器	深鉢底部	I区		(8.1)		ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	透明でガラス質の粒と黒色・乳白色・褐色の粒を含む	
75	縄文土器	高台付鉢高台	I区				ナデ	ナデ	明黄褐	明黄褐	2.5mmの黄褐色の粒を含む	透かし
76	縄文土器	浅鉢口縁部	I区				ナデ	ナデ	浅黄	黄橙	4mm以下の黒・灰白・灰の粒と2mm以下の橙・明褐色の粒と1mm以下の黒色光沢・透明光沢粒を含む	
77	縄文土器	浅鉢口縁部	I区				ミガキ	ミガキ	黒褐・橙	黒褐	4.5mm以下の灰白の粒を含む	磨研土器
78	縄文土器	浅鉢口縁部~胴部	I区	(12.9)			ミガキ	ミガキ	黄灰 にぶい黄橙	黄灰	1mm以下の黒色・灰白の粒を含む	磨研土器
79	縄文土器	浅鉢胴部	I区				ナデ 指押さえ	ナデ	灰黄	灰白	3mm以下の灰白・灰・黒色の粒と2mm以下の黒色光沢・透明光沢の粒を含む	磨研土器
80	縄文土器	浅鉢口縁部	I区				ナデ	ナデ	浅黄	浅黄	透明・黒色に光るガラス質の粒と0.5mmの灰色の粒を含む	磨研土器
81	縄文土器	浅鉢口縁部	I区				ナデ	ナデ	浅黄	浅黄	1mmの橙色の粒と透明に光るガラス質の粒を含む	磨研土器
82	縄文土器	浅鉢口縁部	I区				ミガキ 沈線文	ミガキ	灰黄	灰黄	0.5mmの乳白色の粒を含む	磨研土器
83	縄文土器	浅鉢頸部~胴部	I区				ミガキ	ミガキ	浅黄	浅黄	精良 (微細な光沢粒を含む)	磨研土器
84	縄文土器	浅鉢頸部~胴部	I区				ミガキ	ミガキ	灰黄褐	オリーブ黒	1.5mm以下の乳白色の粒を含む	磨研土器

遺物 番号	種 別	器 種 部 位	出 土 地 点	法 量 (cm)			手 法・調 整・文 様 ほか		色 調		胎 土 の 特 徴	備 考
				口 径	底 径	器 高	外 面	内 面	外 面	内 面		
85	縄文土器	浅鉢 頸部	I 区				ミガキ 工具痕		にぶい黄橙	浅黄	精良 (1mm以下の黒色・透明光沢 粒を含む)	磨研土器
86	土師質 土器	甕 口縁部	I 区	(21.6)			ナデ	ナデ ヘラケズリ	にぶい黄橙	橙	3.5mm以下の灰褐・灰・黄灰色の粒 と1mm以下の赤黒色光沢の粒を含む	
87	土師質 土器	甕 口縁部~胴部	I 区	(19)			ナデ ケズリ	ナデ	にぶい黄橙	浅黄橙	7mm以下の黄灰・褐灰・灰色の粒を 含む	
88	土師質 土器	甕 口縁部~胴部	I 区				ナデ 工具痕	ナデ	にぶい黄橙	褐灰	5mm以下の茶褐色の粒と4mm以下の 灰色の粒を含む	
89	土師器	坏 口縁部~底部	I 区				回転ナデ ヘラ切り痕	回転ナデ	橙	橙	きめ細か	
90	土師器	坏 口縁部~底部	I 区	(12) 12.4	(6.5)		回転ナデ	回転ナデ	橙 浅黄橙	橙 浅黄橙	きめ細か	底部 ヘラ 切り後ナデ
91	土師器	坏 完形	I 区	(13.7) 13.85	(7.7)	3.7	回転ナデ	回転ナデ	橙 黄橙	橙 黄橙	1.5mm以下の褐色の粒を含む	底部 ヘラ 切り後ナデ
92	土師器	坏 口縁部~底部	I 区	(13.9)	(9.2)		回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙	橙	きめ細か	底部 ヘラ 切り後ナデ
93	土師器	坏 底部	I 区		8.0		回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙	橙	きめ細か	底部 ヘラ 切り後ナデ
94	土師器	坏 口縁部~底部	I 区	(13.0)	(6.6)	3.95	回転ナデ ヘケズリ	回転ナデ 指押え後ナデ	橙 にぶい橙	浅黄橙	0.5mm以下の光沢のある白色の粒を 含む	底部面に墨書 底部ヘラ切り後ナデ
95	土師器	坏 口縁部~底部付近	I 区	(17.15)			回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙	浅黄橙	きめ細か	
96	土師器	土師皿 胴部~底部	I 区		(7.1)		ナデ	回転ナデ	橙	橙	きめ細か	底部 ヘラ 切り後ナデ
97	内黒 土器	碗 口縁部~胴部	I 区	(19.4)			ケズリの後ミガキ	ミガキ	橙	黒	1mmの灰白の粒を含む	
98	内黒 土器	碗 口縁部~胴部	I 区				ナデ	ミガキ	にぶい黄橙	黒	きめ細か	
99	内黒 土器	碗 口縁部~胴部	I 区				ミガキ ケズリ	ミガキ	黄橙	黒	1mmの褐灰色の粒を含む	
100	内黒 土器	碗 口縁部~胴部	I 区				ミガキ ケズリ	ミガキ	浅黄橙	黒	8mmの赤褐色の粒、2mmの褐灰色の 粒を含む	
101	内黒 土器	碗 口縁部~胴部	I 区				ケズリ	ミガキ	にぶい黄橙	暗灰	精良	
102	土師器	坏 口縁部~底部	I 区	(12.0)	(7.2)		ケズリ ナデ	ナデ	橙	橙	1mm以下の灰白の粒を含む	
103	内黒 土器	碗 胴部~底部	I 区		(7.8)		ナデ	ミガキ	にぶい黄橙	黒	2mm以下の褐色の粒を含む	
104	内黒 土器	碗 胴部~底部	I 区		(8.9)		ケズリ ナデ	ミガキ	にぶい橙	黒	1.5mm以下の褐色・黒色・灰白色の 粒を含む	
105	内黒 土器	鉢 口縁部~頸部	I 区						にぶい黄橙	暗灰	精良	
106	土師器又は 須恵器	壺	I 区	(15.2)			回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙	浅黄橙	1mm以下の茶褐色の粒を含む	
107	土師質 土器	鉢 口縁部~胴部	I 区	(9.7)			ナデ	布目圧痕	にぶい橙	橙	3.5mm以下の赤褐色粒、2mm以下の乳 白色粒、透明黒色光沢粒を含む	製塩土器
108	土師質 土器	鉢 口縁部~胴部	I 区	(15.4)			ナデ	布目圧痕	橙	橙	2mm以下の乳白色の粒、5mm以下の橙色 の粒、7mm以下の灰色の粒を含む	製塩土器
109	土師質 土器	鉢 口縁部~胴部	I 区	(12.1)			ナデ	布目圧痕	にぶい黄橙	橙	7.5mm以下の橙色の粒、4.5mmの黄灰色の 粒、5mm以下のにぶい黄褐色の粒を含む	製塩土器
110	土師質 土器	鉢 口縁部~胴部	I 区				ナデ 指押え	布目圧痕	にぶい橙 にぶい黄橙	にぶい橙 にぶい黄橙	精良	製塩土器
111	土師質 土器	鉢 底部	I 区				ナデ	布目圧痕	橙	橙	6.5mm以下の橙色の粒を多く含む	製塩土器
112	須恵器	甕 胴部	I 区				タタキ	同心円当具痕 平行当具痕	暗黄灰	暗黄灰	精良	
113	須恵器	甕 底部付近	I 区				ナデ 自然釉	ナデ	灰オリーブ オリーブ黒	灰	精良	
114	須恵器	甕 底部	I 区	(15.3)			ナデ ケズリ	ナデ	にぶい黄橙 灰 浅黄	にぶい橙	精良	
115	土師器	甕 底部	I 区		(4.2)		ナデ	ナデ 指押え	橙	橙	3mm以下の褐色の粒、2mm以下の黒 色光沢粒、乳白色粒を含む	平底 底部面黒斑
116	土師器	甕 胴部~底部	I 区	(7.05)			ミガキ	ハケ目 ナデ 指押え	淡黄	灰白	1mm以下の浅黄色の粒、0.5mm以下の 光沢粒、灰褐色黒色の粒を含む	
126	縄文土器	深鉢 口縁部	II 区				山形押型文 沈線文	山形押型文	浅黄	暗灰黄	3mm以下の灰白色の粒、1mm以下の 光沢粒を含む	手向式
127	縄文土器	深鉢 口縁部	II 区				刻み目文 ナデ	ナデ	明赤褐	明赤褐	1mm以下の浅黄色・赤褐色粒・透明黒 色光沢粒を含む	平格式 内面黒変
128	縄文土器	深鉢 口縁部	II 区				刻み目 ナデ 連続刺突文	ナデ	にぶい黄橙	橙	1.5mm以下の赤褐色粒、1mm以下の淡黄・褐色粒、 透明光沢粒、0.5mm以下の黒色光沢粒を含む	平格式
129	縄文土器	深鉢 口縁部	II 区				管状工具による連続連 点文 刻み目突帯	ナデ	にぶい黄橙	黄褐	2mm以下の淡黄色粒、1mm以下の赤褐色 粒、0.5mm以下の透明光沢粒を含む	天道ヶ尾式 外面スス付着
130	縄文土器	深鉢 口縁部	II 区				刻み目 沈線文 刺突連点文	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	3mm以下の金色の粒、1.5mm以下の乳 白色の粒を含む	平格式 内面黒斑
131	縄文土器	深鉢 胴部	II 区				沈線文 刺突連点 文 ナデ	ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	1mm以下の透明な粒を含む	平格式 内面黒斑
132	縄文土器	深鉢 頸部	II 区				沈線文	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	3mm以下の灰白色の粒、1mm以下の 透明の光沢粒を含む	手向山式
133	縄文土器	深鉢 胴部	II 区				連点文 刻み目突帯	ナデ	にぶい赤褐	赤褐	1mm以下の透明な粒を含む	平格式
134	縄文土器	深鉢 胴部	II 区				沈線文 連続連点文	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	3mm以下の金色の粒、1mm以下の乳 白色の粒を含む	平格式

遺物番号	種別	器種部位	出土地点	法量 (cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	ナデ	外面	内面		
135	縄文土器	深鉢胸部	Ⅱ区				ナデ 沈線文 捺糸文	内面	にぶい橙	にぶい黄橙	透明・半透明・黒色のガラス質の粒、1mm以下の褐色・乳白色の粒を含む	塞ノ神式
136	縄文土器	深鉢胸部	Ⅱ区				ナデ 結節縄文	ナデ	浅黄 にぶい橙	にぶい黄橙	透明のガラス質の粒、黒色のガラス質の粒、2mm以下の褐色・乳白色・黒灰色の粒を含む	平格式 塞ノ神式
137	縄文土器	深鉢底部付近	Ⅱ区				ナデ 網目捺糸文	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	1mm以下の灰白色・橙の粒を含む	塞ノ神式
147	縄文土器	深鉢口縁部	14号集石				楕円押型文	ナデ	にぶい黄 黒褐	にぶい黄	1mm以下の乳白色・透明な粒、1mm以下の透明に光る粒を含む	楕円 押形文
148	縄文土器	深鉢低部	19号集石				ナデ 山形押型文	ナデ 指押え	にぶい赤褐	にぶい黄橙	1mm以下の乳白色・透明な粒を含む	山形押形文
149	縄文土器	深鉢口縁部～胴部	Ⅲ区	(17.8)			ナデ 捺糸文	ナデ	橙 にぶい黄橙	暗灰黄	3mm以下の褐色の砂粒、0.5mm以下の白色・黒色に光る粒を含む	捺糸文
150	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区				ナデ 変形捺糸文	ミガキ	浅黄	浅黄	1.5mm以下の透明に光る粒、1mm以下の褐色の光る粒を含む	捺糸文
151	縄文土器	深鉢頸部～胴部	Ⅲ区				ナデ 変形捺糸文	ナデ	にぶい橙 灰黄	灰黄	2mm以下の褐色・白色の粒、1mm以下の透明に光る粒、黒く光る粒を含む	捺糸文
152	縄文土器	深鉢口縁部～頸部	Ⅲ区	(17.5)			ナデ 捺糸文	ナデ 捺糸文	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2.5mm以下の乳白色・黒色・茶色の粒、1mm以下の透明と黒く光る粒を含む	捺糸文
153	縄文土器	深鉢口縁部～低部	Ⅲ区		(6.65)		ナデ 押型文	ナデ	にぶい橙	橙 褐灰	1mm以下の無色透明光沢粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	押形文 穿孔
154	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区				押型文	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	透明・半透明のガラス質の粒、黒の光沢のある粒、3mm以下の灰色・褐色・灰白色の粒を含む	押形文
155	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区				ナデ 押型文	ナデ 押型文	にぶい黄橙	にぶい黄	2mm以下の金色の粒、1mm以下の灰色・灰白色・灰褐色の粒を含む	押形文
156	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区				押型文	ナデ 押型文	灰褐 灰黄褐	にぶい黄橙	金色の粒、1mm以下の灰白色・褐色の粒を含む	押形文
157	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区				押型文	ナデ 押型文	黄灰 灰黄	にぶい黄	黒色・金色の光沢のある粒、1mm以下の黒褐・灰白色の粒を含む	押形文
158	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区				押型文	ナデ	灰黄褐 灰	灰	黒色・金色の光沢のある粒、1mm以下の灰白色・灰褐色・黒褐色の粒を含む	押形文
159	縄文土器	深鉢胸部	Ⅲ区				押型文	ナデ	褐	にぶい褐	2mm以下の灰白色・褐色の粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	押形文
160	縄文土器	深鉢胸部	Ⅲ区				押型文	ナデ	にぶい黄褐	にぶい褐	2mm以下の灰白色・灰色の粒、0.5mm以下の金色光沢粒を含む	押形文
161	縄文土器	深鉢胸部	Ⅲ区				押型文	ナデ	にぶい褐	灰	1.5mm以下の灰白色、褐色の粒、1.5mm以下の金色の光沢粒を含む	押形文 外面スチ付着 内面炭化物
162	縄文土器	深鉢頸部	Ⅲ区				押型文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい褐	2mm以下の灰白色・灰色・褐色の粒、1.5mm以下の金色・透明光沢粒を含む	押形文 穿孔
163	縄文土器	深鉢低部	Ⅲ区				捺糸文 ナデ	ナデ	にぶい黄	にぶい黄橙	2mm程の浅黄色・灰白色の粒を多く含む	
164	縄文土器	深鉢口縁部～胴部	Ⅲ区	(21.1)			楕円押型文	楕円押型文 ナデ	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の灰白・褐色の粒、1mm以下の金色の光沢粒を含む	楕円押形文 外面スチ付着 内面炭化物
165	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区	(21.0)			楕円押型文	楕円押型文 ナデ	浅黄	浅黄	1.5mm以下の灰白・褐色の粒を含む	楕円押形文 外面スチ付着 内面炭化物
166	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区				楕円押型文	楕円押型文 ナデ	にぶい褐	にぶい褐	2mm以下の乳白色の粒、1mmの金色の粒を含む	楕円押型文 穿孔
167	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区				楕円押型文	楕円押型文 ナデ	にぶい黄	浅黄	2mm以下の金・透明の光沢粒、灰・黄灰・茶・乳白色の粒を含む	楕円押型文 内面黒変
168	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区				楕円押型文	楕円押型文 ナデ	にぶい黄褐	橙	3mm以下の黄橙・灰白色の粒、1.5mm以下の金色の粒を含む	楕円押型文 外面スチ付着
169	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区				楕円押型文	楕円押型文 ナデ	にぶい黄	にぶい黄橙	透明な光沢粒、3mm以下の黄灰・灰・黒色の粒を含む	楕円押型文 外面黒変
170	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区				楕円押型文	楕円押型文 ナデ	浅黄	明黄褐	透明な光沢粒、3mm以下の黒・灰・茶・乳白色の粒を含む	楕円押型文 内面黒変
171	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区				楕円押型文	楕円押型文 ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	黒色のガラス質の粒、2mm以下の黒色・灰色の粒を含む	楕円押型文
172	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区				楕円押型文 ナデ	楕円押型文 ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	半透明黒色光沢粒、2mm以下の灰・茶・黒色の粒を含む	楕円押型文
173	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区				楕円押型文	楕円押型文 ナデ	にぶい黄橙	明黄褐	透明・黒色の光沢のある粒、2mm以下の黄灰・灰・黒色の粒、6mm大の粒を1コ含む	楕円押型文 外面スチ付着
174	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区				楕円押型文	楕円押型文 ナデ	にぶい橙	橙 にぶい黄橙	2mm以下の透明・黒色の光沢粒、灰白・浅黄・黄褐色の粒を含む	楕円押型文
175	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区				楕円押型文	楕円押型文 ナデ	にぶい橙	にぶい橙	3mm以下の金色の粒、灰白、浅黄橙、灰褐の粒を含む	楕円押型文
176	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区				楕円押型文	楕円押型文	にぶい橙	黄灰	黒色のガラス質の粒、1mm以下の褐・灰・黒色の粒を含む	楕円押型文
177	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区				楕円押型文 ナデ	楕円押型文 ナデ	橙	にぶい黄橙	透明・黒色の光沢粒、2mm以下の黒・灰・茶色の粒を含む	楕円押型文
178	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区				楕円押型文 刻み目	楕円押型文 ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	黒色のガラス質の粒、3mm以下の灰白・灰褐・褐・黒色の粒を含む	楕円押型文
179	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区	(18.8)			楕円押型文	楕円押型文 ナデ	浅黄	浅黄	1mm以下の乳白色の粒を含む	楕円押型文 穿孔
180	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区				楕円押型文	楕円押型文 ナデ	にぶい褐	にぶい赤褐	1mm以下の透明光沢粒、1.5mm以下の乳白色・白の粒を含む	楕円押型文 穿孔
181	縄文土器	深鉢頸部	Ⅲ区				楕円押型文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	金色の粒、透明に光る粒、2mm以下の灰白・灰褐色の粒を含む	楕円押型文 内面黒変
182	縄文土器	深鉢低部	Ⅲ区	(11.0)			楕円押型文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	3mm以下の透明・金色の光沢のある粒、灰白・灰褐・淡黄・浅黄褐色の粒を含む	楕円押型文 内面黒変
183	縄文土器	深鉢低部	Ⅲ区	(14.9)			楕円押型文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	3mm以下の透明・金色の光沢のある粒、灰白・浅黄・淡黄色の粒を含む	楕円押型文 内面黒変
184	縄文土器	深鉢低部	Ⅲ区	(11.1)			楕円押型文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の金色の粒、灰白・浅黄橙・灰褐の粒を含む	楕円押型文 内面黒変



遺物 番号	種 別	器 種 部 位	出 土 地 点	法 量 (cm)			手 法・調 整・文 様 ほか		色 調		胎 土 の 特 徴	備 考
				口 径	底 径	器 高	外 面	内 面	外 面	内 面		
185	縄文土器	深鉢 低部	Ⅲ区		(15.0)		楕円押型文	ナデ	灰黄 黄灰	2mm以下の浅黄色の粒、無色透明の光沢のある粒、黒色の光沢のある粒を含む	楕円押型文 内面黒変	
186	縄文土器	深鉢 低部	Ⅲ区		(8.7)		楕円押型文 ナデ	風化のため不明	にぶい黄褐 褐	3mm以下の浅黄色の粒、1mm以下の銀色の粒、無色透明の光沢のある粒を含む	楕円押型文	
187	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				山形押型文 ナデ	山形押型文 ナデ	にぶい黄橙 明黄褐	4mm以下の灰・乳白色の粒、透明・黒色の光沢のある粒を含む	山形押型文	
188	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				山形押型文 ナデ	山形押型文 ナデ	明黄褐 明黄褐	半透明な光沢のある粒、2mm以下の灰・黄灰色の粒を含む	山形押型文	
189	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				山形押型文 ナデ	山形押型文 ナデ	灰黄 灰黄	2mm以下の透明・金色の光沢のある粒、2mm以下の黄灰・灰色の粒を含む	山形押型文 穿孔	
190	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				山形押型文 ナデ	山形押型文 ナデ	にぶい黄 にぶい黄	1.5mm以下の灰白色の粒を含む	山形押型文	
191	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				山形押型文 ナデ	山形押型文 ナデ	にぶい褐 にぶい褐	1mm以下の乳白色の粒を含む	山形押型文	
192	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				山形押型文 ナデ	山形押型文 ナデ	褐 褐	1mm以下の乳白色の粒、1mmの金色の粒を含む	山形押型文 縁刻又は沈線	
193	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				山形押型文 ナデ	山形押型文 ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	4mm以下の淡黄色の粒、2mm以下の茶・灰色の粒、透明・黒色の光沢のある粒を含む	山形押型文 縁刻又は沈線	
194	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				山形押型文 ナデ	山形押型文 ナデ	にぶい赤褐 にぶい褐	2mm以下の乳白色・赤褐の粒を含む	山形押型文 縁刻又は沈線	
195	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				山形押型文 ナデ	山形押型文 ナデ	にぶい黄 にぶい黄	2mm以下の灰白・褐灰色の粒、1mm以下の金色の粒を含む	山形押型文 外面スス付着	
196	縄文土器	円盤	Ⅲ区	(最大長 5.9)	(最大幅 5.6)	(最大厚 1.55)	山形押型文 ナデ	ナデ	にぶい赤褐 灰褐	3mm以下の灰白・にぶい褐・明赤褐の粒を含む	山形押型文 外面スス付着	
197	縄文土器	深鉢 頸部～胴部	Ⅲ区				山形押型文 指押え	ナデ	にぶい黄褐 にぶい黄	3mm以下の灰白・にぶい褐・明赤褐・灰黄・黒色の粒、透明の光沢のある粒を含む	山形押型文 外面スス付着	
198	縄文土器	深鉢 底部	Ⅲ区				山形押型文 指押え ナデ	ナデ	にぶい黄橙 黄褐	3mm以下の灰白・黒色の粒、金雲母の粒を含む	山形押型文 外面スス付着	
199	縄文土器	深鉢 底部	Ⅲ区				山形押型文 ナデ	ナデ	にぶい橙 にぶい黄橙	3.5mm以下の灰白・黄灰・灰褐・黒色光沢・透明光沢の粒を含む	山形押型文 外面スス付着	
200	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				短沈線 条痕 ナデ	ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	2mm以下の乳白色の粒を含む		
201	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				条痕文 ナデ	条痕文 ナデ	にぶい橙 にぶい橙	2mm以下の黒色透明の粒、1mm以下の無色透明の粒、2mm以下の灰白の粒を含む	202と同一 個体	
202	縄文土器	深鉢 頸部～胴部	Ⅲ区				条痕文	粗いナデ	にぶい橙 にぶい黄橙	2mm以下の灰白・灰・無色透明・茶色の粒を含む		
203	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				押し刻み目文 沈線文 刺突連点文	丁寧なナデ	にぶい褐 にぶい褐	1mm以下の銀色の粒、無色透明の光沢のある粒、浅黄、灰褐色の粒を含む	平格式	
204	縄文土器	深鉢 頸部～胴部	Ⅲ区				刺突連点文	丁寧なナデ	にぶい褐 にぶい褐	1mm以下の銀色の粒、無色透明の光沢のある粒、浅黄、灰褐色の粒を含む	平格式	
205	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				羽状文 ナデ 捺糸文	ナデ	橙 にぶい黄橙	2mm以下の茶・淡黄、透明光沢、黒色光沢の粒を含む	内面黒変 平格式	
206	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				沈線文 押し刻み	押し刻み ナデ	にぶい橙 にぶい橙	2mm以下の白・乳白・茶色の粒を含む	内面黒変 平格式	
207	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				捺糸文 刺突連点文 ナデ 指押え	ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	4mm以下の浅黄色の粒を含む	内面黒変 貼り付け突帯	
208	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				捺糸文 押し刻み ナデ	ナデ	明赤褐 明赤褐	1mm以下の金色の粒、2.5mm以下の白・乳白色の粒を含む	内面黒変 波状口縁	
209	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				羽状文 押し刻み目文 沈線文 ナデ	ナデ	橙 橙 浅黄	2.5mm以下の淡黄・灰・乳白色透明の光沢のある粒、1mm以下の金色、黒色の光沢のある粒を含む	平格式	
210	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				羽状文・連続押し 沈線文 刺突連点文	ナデ	にぶい褐 にぶい褐	1mm以下の灰白・乳白色の粒を含む	平格式	
211	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				連続押し文 沈線文 連続刺突文	連続押し文 ナデ	にぶい橙 にぶい橙	2.5mm以下の金色褐色 色透明の光沢のある粒、浅黄橙・灰白・灰褐色の粒を含む	平格式	
212	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				羽状文 押し刻み ナデ	押し刻み ナデ	橙 にぶい黄橙	4mm以下の白色の粒、1mm以下の金・乳白色の粒を含む	平格式	
213	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				刻み目 沈線文 ナデ 刻み目突帯	ナデ	浅黄 浅黄	2mm以下の淡黄・灰・乳白色の粒、透明金色の光沢のある粒、1mm以下の黒色の光沢のある粒を含む	平格式 波状口縁	
214	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				刻み目 沈線文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	2.5mm以下の透明の光沢のある粒、浅黄橙、灰白、灰褐色の粒を含む	平格式	
215	縄文土器	深鉢 胴部	Ⅲ区				連続刺突文 沈線文 捺糸文	ナデ	にぶい橙 橙	4mm以下の淡黄色の粒、1mm以下の金雲母を含む	平格式	
216	縄文土器	深鉢 胴部	Ⅲ区				刻み目突帯文 沈線文 刺突連点文	ナデ	にぶい橙 にぶい橙	2mm以下の金色の雲母、褐灰白の粒、0.5mm以下の無色透明の粒を含む	平格式	
217	縄文土器	深鉢 胴部	Ⅲ区				刺突連点文 沈線文	ナデ	にぶい褐 にぶい橙	2.5mm以下の淡黄・灰白・灰褐色、黒色光沢・透明光沢のある粒を含む	平格式	
218	縄文土器	深鉢 胴部	Ⅲ区				刻み目突帯文 刺突連点文 羽状沈線	ナデ	にぶい橙 にぶい橙	2mm以下の金色の雲母、褐色の粒、0.5mm以下の無色透明の粒、3mm以下の灰白色の粒を含む	平格式	
219	縄文土器	深鉢 胴部	Ⅲ区				押し刻み目貼付突帯 捺糸 沈線文 刺突連点文	ナデ	にぶい褐 にぶい黄褐	2.5mm以下の淡黄・灰白・灰褐色、透明光沢のある粒を含む	平格式	
220	縄文土器	深鉢 胴部	Ⅲ区				押し刻み目貼付突帯 捺糸 沈線文 刺突連点文	ナデ 指押え	にぶい褐 にぶい橙	3mm以下の灰褐・灰黄・灰白、淡橙、金雲母の粒を含む	平格式	
221	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				捺糸文 刺突文 沈線文	ナデ	にぶい褐 にぶい褐	1mm以下の乳白色の粒、2mmの灰白の粒を含む	平格式	
222	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				刻み目文 刺突文 沈線文	ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	2mm以下の白色の粒、1mm以下の黒色の粒を含む	塞の神式 外面スス付着	
223	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				刻み目文 刺突文 沈線文	ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	2mm以下の白色の粒、1mm以下の黒色の粒を含む	塞の神式	
224	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				連続刻み目文 連続刺突文 沈線文 ナデ	ナデ	橙 橙	微細な透明・半透明黒色光沢の粒と2mm以下の灰・褐色の粒を含む	塞の神式 外面黒変	
225	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				刻み目文 刺突文 ナデ 沈線文	ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	1.5mm以下の灰白・褐色の粒と0.5mm以下の黒色光沢の粒を含む	塞の神式 外面スス付着	

遺物番号	種別	器種部位	出土地点	法量 (cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
226	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区				連続刻み目文 連続刺突文 沈線文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	浅黄	微細な透明・半透明黒色光沢の粒と1mm以下の黒・灰・黄灰の粒を含む	塞ノ神式 外面黒斑
227	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区				連続刻み目文 連続刺突文 沈線文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	浅黄	微細な透明・半透明黒色光沢の粒と2mm以下の灰・褐色の粒を含む	塞ノ神式 内面黒斑
228	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区				刻み目文 連続刺突文 沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の淡黄・乳白色の粒と透明光沢の粒 黒色光沢の粒を含む	塞ノ神式 穿孔有り 内外面黒斑
229	縄文土器	深鉢口縁部～頸部	Ⅲ区				刻み目文 沈線文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の黒く光る・透明に光る乳白色・茶色の粒を含む	塞ノ神式 外面にスス付着
230	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区				刻み目文 沈線文 連続刺突文	ナデ	灰褐	にぶい黄橙	3mmの淡黄・黒・茶色の粒と1.5mm以下の淡黄・茶色の粒と透明光沢粒を含む	塞ノ神式 外面黒斑
231	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区				羽状の押圧文 沈線文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	橙	1.5mm以下の淡黄・黒乳白色・半透明光沢の粒を含む	塞ノ神式 外面黒斑
232	縄文土器	深鉢口縁部～頸部	Ⅲ区				押圧刻み目文 沈線文 ナデ	ナデ	灰黄	にぶい黄橙	0.5mm以下の無色透明・淡黄・灰・灰白・黒く光る粒を含む	外面にスス付着 塞ノ神式
233	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区				刻み目文 沈線文 連続刺突文	ナデ	明黄褐	明黄褐	4mm以下の白色の粒と3mm以下の黒・褐色の粒を含む	塞ノ神式
234	縄文土器	深鉢口縁部～頸部	Ⅲ区				刻み目文 沈線文 ナデ	ナデ	浅黄	浅黄	1mm以下の褐・灰白色の粒と0.5mm以下の透明光沢の粒を含む	塞ノ神式
235	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区				押圧刻み目文 沈線文 連続刺突文 沈線文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	1mm以下の無色透明・灰白・淡黄の粒を含む	塞ノ神式
236	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区				羽状刻み目文 沈線文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐・灰白色の粒と0.5mm以下の透明・黒色光沢の粒 4mmの黒褐色の粒を含む	塞ノ神式
237	縄文土器	深鉢口縁部～頸部	Ⅲ区	26.6			刻み目文 摺糸文 貝殻連続刺突文 沈線文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の灰・灰白・褐色の粒と1.5mm以下の透明光沢粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	外面にスス付着 塞ノ神式
238	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区				刻み目文 沈線文 連続刺突文 ナデ	ナデ	灰黄	にぶい黄橙	微細な黒色透明に光るガラス質の粒と灰白・褐色の粒を含む	塞ノ神式 外面にスス付着
239	縄文土器	深鉢口縁部	Ⅲ区				刻み目文 刺突文 沈線文	ナデ	灰黄	灰	微細な黒色透明に光る粒と3mm以下の灰白・灰褐・灰色の粒を含む	塞ノ神式 外面にスス付着
240	縄文土器	深鉢胴部	Ⅲ区				沈線文 摺糸文	ナデ	浅黄	浅黄	1.5mm以下の透明光沢の粒と1mm以下の淡黄褐色の粒を含む	塞ノ神式 外面にスス付着
241	縄文土器	深鉢頸部	Ⅲ区				沈線文 摺糸文 連続刺突文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の透明の光沢のある粒と灰白・浅黄・灰褐色の粒を含む	塞ノ神式 外面にスス付着
242	縄文土器	深鉢頸部	Ⅲ区				沈線文 摺糸文 連続刺突文	ナデ	浅黄	浅黄	微細な灰褐・浅黄橙の粒を含む	塞ノ神式 外面にスス付着
243	縄文土器	深鉢胴部	Ⅲ区				連続刺突文 沈線文	ナデ	橙	にぶい黄橙	微細な透明・黒色光沢の粒と1mm以下の黒・灰・乳白色の粒を含む	塞ノ神式 内面黒斑
244	縄文土器	深鉢胴部	Ⅲ区				連続刺突文 沈線文 摺糸文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	0.5mm以下の灰白・褐色・透明光沢の粒を含む	塞ノ神式 外面にスス付着
245	縄文土器	深鉢胴部	Ⅲ区				沈線文 ナデ	ナデ	浅黄	浅黄	微細な透明・半透明光沢の粒と2mm以下の黒・灰・黄灰・乳白色の粒を含む	塞ノ神式 外面にスス付着
246	縄文土器	深鉢頸部	Ⅲ区				沈線文 ナデ	ナデ	浅黄	灰黄	微細な灰白・浅黄・灰褐の粒を含む	塞ノ神式 外面にスス付着
247	縄文土器	深鉢頸部～胴部	Ⅲ区				沈線文 摺糸文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐色・黒色の粒を含む	塞ノ神式 外面にスス付着
248	縄文土器	深鉢胴部	Ⅲ区				沈線文 摺糸文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	微細な透明・半透明黒色光沢の粒と2mm以下の灰・黄灰・乳白・茶の粒を含む	塞ノ神式 外面にスス付着
249	縄文土器	深鉢胴部	Ⅲ区				連続刺突文 摺糸文 沈線文	ナデ	浅黄	浅黄	微細な透明・半透明光沢粒と3mmの黄灰の粒と1mm以下の灰・茶の粒を含む	塞ノ神式 外面にスス付着
250	縄文土器	深鉢胴部	Ⅲ区				沈線文 摺糸文	ナデ	浅黄	浅黄	微細な半透明・黒色光沢の粒と1mm以下の灰・茶の粒を含む	塞ノ神式 外面にスス付着
251	縄文土器	深鉢頸部～胴部	Ⅲ区				押圧刻み目貼付突帯 摺紋 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	浅黄	3mm以下の褐色の粒と1.5mm以下の乳白色の粒を含む	塞ノ神式 外面にスス付着
252	縄文土器	深鉢胴部	Ⅲ区				摺紋 沈線文	ナデ	にぶい黄橙	明黄褐	2mm以下の灰・灰白色の粒と1.5mm以下の透明光沢の粒を含む	塞ノ神式 外面にスス付着
253	縄文土器	深鉢胴部	Ⅲ区				網目摺糸文 沈線ナデ	ナデ	にぶい黄橙	橙	1mm以下の金色に光る粒、および褐色・乳白色の粒を含む	塞ノ神式
254	縄文土器	深鉢胴部	Ⅲ区				網目摺糸文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐色・5mm以下の褐・黄褐色の粒を含む	塞ノ神式
255	縄文土器	深鉢胴部	Ⅲ区				結束縄文? 摺糸文 ナデ	ナデ	浅黄	浅黄	0.5mm以下の褐色・透明光沢の粒を含む	塞ノ神式
256	縄文土器	深鉢低部	Ⅲ区				摺糸文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の無色透明の粒を多く含む	塞ノ神式
257	縄文土器	深鉢低部	Ⅲ区				摺糸文 沈線文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の灰白・灰と無色透明の粒、3mm以下の淡黄の粒を多く含む	塞ノ神式
258	縄文土器	深鉢低部	Ⅲ区				摺糸文 沈線文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	微細～3mmの金色の光沢粒と灰白・灰褐・浅黄橙の粒を含む	塞ノ神式
259	縄文土器	深鉢低部	Ⅲ区				摺糸文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の浅黄、1mm以下の無色透明の粒を多く含む	塞ノ神式
260	縄文土器	深鉢低部	Ⅲ区				摺糸文 ナデ	ナデ	にぶい黄	灰黄	微細～3mmの灰白・浅黄橙・灰・褐の粒と透明で光沢のある粒を含む	塞ノ神式
261	縄文土器	深鉢低部	Ⅲ区				摺糸文 沈線文 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	きめ細か微細な灰白・浅黄の粒と黒の光沢のある粒を含む	塞ノ神式
262	縄文土器	深鉢低部	Ⅲ区		(12.1)		沈線文 ナデ	ナデ	灰 にぶい黄橙	にぶい黄橙	黒色・透明に光るガラス質の細片、2mm以下の灰白・灰褐色の粒を含む	塞ノ神式
263	縄文土器	深鉢口縁部～胴部	Ⅲ区	(18)			貝殻腹縁文?	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	微細な透明・半透明・黒色光沢粒、灰・黄灰・乳白色の粒を含む	穿孔 下剥峰式
264	縄文土器	深鉢口縁部～胴部	Ⅲ区				刺突連点文 ナデ	ナデ	橙	にぶい黄橙	微細な透明・半透明・黒色光沢粒、2mm以下の黒・灰・黄灰・乳白色の粒を含む	穿孔 下剥峰式
265	縄文土器	壺口縁部	Ⅲ区	(8.7)			ナデ	ナデ	明赤褐	明赤褐	3.5mm以下の透明・黒の光沢粒と灰白・浅黄橙・灰褐・褐の粒を含む	壺形土器 内面赤色顔料
266	縄文土器	壺口縁部	Ⅲ区	(10.8)			ナデ	ナデ	にぶい黄橙	黄褐	2mm以下の透明・半透明黒・金色の光沢粒、3mm以下の灰・乳白・褐色の粒を含む	

遺物 番号	種 別	器 種 部 位	出 土 地 点	法 量 (cm)			手 法 ・ 調 整 ・ 文 様 ほか		色 調		胎 土 の 特 徴	備 考
				口 径	底 径	器 高	外 面	内 面	外 面	内 面		
267	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				竹管文 ナデ	ナデ	灰黄	浅黄	1mm以下の透明の光沢のある粒と灰 白・浅黄橙・灰褐の粒を含む	小型土器
268	縄文土器	深鉢 口縁部	Ⅲ区				撚糸押圧文 ナデ	ナデ	にぶい黄	にぶい黄橙	2mm以下の透明の光沢粒と浅黄橙・ 灰白・明赤褐・褐の粒を含む	外面スス付着
269	縄文土器	深鉢 頸部	Ⅲ区				網目撚糸文	ナデ	にぶい橙	灰黄	微細な黒色透明に光る粒と3mm以下 の灰白・褐色・灰色の粒を含む	手向山式?
270	縄文土器	壺 頸部	Ⅲ区				ナデ	ナデ	橙	にぶい橙	2mm以下の透明・黒の光沢粒、灰白 灰褐・淡黄・褐・赤褐の粒を含む	
271	縄文土器	深鉢 低部	Ⅲ区		(12.3)		押圧刻み目 ナデ	ナデ	にぶい橙	灰黄褐	2mm以下の淡黄・灰白・灰の粒を含 む	
272	縄文土器	深鉢 低部	Ⅲ区		(8)		ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	4mm以下の赤褐色の粒、3mm以下の淡黄・ 褐、2mm以下の無色透明の粒を含む	
273	縄文土器	深鉢 低部	Ⅲ区		(12.6)		ナデ	ナデ	にぶい黄	にぶい黄橙	1mm以下の透明・半透明・黒色・金色光沢粒、 2mm以下の灰・黄灰・乳白色の粒含む	穿孔 内面黒斑
274	縄文土器	深鉢 低部	Ⅲ区		(6.6)		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の無色透明・黒色で光沢の ある粒を含む	
275	縄文土器	土器片 錘	Ⅲ区	最大長 約4.5	最大巾 4.8	最大厚 0.6	ミガキ	ナデ	浅黄橙	浅黄橙 橙	微細な灰白・褐灰の粒を含む	
276	縄文土器	不明	Ⅲ区	最大長 5.15	最大巾 2.6	最大厚 1.7	ナデ	網沈線文	浅黄	浅黄	微細な無色透明に光る粒、1mmの褐 色の粒を含む	裝飾土製品?

遺物 番号	出 土 地 点	器 種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	石 材	備 考
28	2号住居	擦石	6.7	8.8	3.5	294	砂岩	
29	2号住居	敲石	21.6	6.6	4.8	1,100	砂岩	
118	I区	石 鏃	2.4	1.8	0.4	1.0	チャート	
119	I区	石 鏃	2.3	1.5	0.4	1.1	黒燿石	
120	I区	石 鏃	1.7	1.7	0.4	1.2	流紋岩	
121	I区	石 鏃	1.7	1.4	0.3	0.7	流紋岩	
122	2号住居	石 鏃	2.9	2.3	0.9	3.8	流紋岩	
123	4号集石	石 鏃	2.3	1.3	0.3	0.5	チャート	
124	I区	スクレイ パー	3.4	5.2	1.6	23.3	頁岩	
125	I区	石 核	9.5	8.4	5.2	850	流紋岩	
138	II区	石 鏃	3.1	1.8	0.6	2.3	流紋岩	
139	II区	石 鏃	2.7	1.7	0.6	1.7	流紋岩	
140	II区	石 鏃	2.0	1.4	0.4	0.8	流紋岩	
141	II区	異形石器	3.0	2.4	0.7	3.4	流紋岩	
142	II区	石 鏃	2.6	1.7	0.6	1.9	流紋岩	
143	II区	石 鏃	2.4	1.8	0.8	1.9	流紋岩	
144	II区	石 鏃	2.1	1.8	0.3	0.8	頁岩	
145	II区	石 鏃	1.6	1.4	0.5	0.6	流紋岩	
146	II区	くぼみ石	8.8	5.6	4.8		砂岩	
277	III区	石 鏃	3.0	1.5	0.4	1.1	チャート	
278	III区	石 鏃	2.0	1.3	0.3	0.6	チャート	
279	III区	石 鏃	2.5	1.3	0.4	1.0	チャート	
280	III区	石 鏃	2.6	1.9	0.6	1.6	流紋岩	
281	III区	石 鏃	2.7	1.8	0.5	1.7	流紋岩	
282	III区	石 鏃	2.6	1.7	0.6	1.6	流紋岩	

遺物 番号	出 土 地 点	器 種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	石 材	備 考
283	III区	石 鏃	1.8	1.5	0.4	0.7	チャート	
284	III区	石 鏃	2.5	2.2	0.5	1.6	黒燿石	
285	III区	石 鏃	1.8	1.5	0.4	0.6	黒燿石	
286	III区	石 鏃	1.9	1.4	0.6	0.8	チャート	
287	III区	石 鏃	1.9	1.7	0.3	0.7	チャート	
288	III区	石 鏃	1.3	1.6	0.5	0.9	チャート	
289	III区	石 鏃	1.8	1.4	0.4	0.7	チャート	
290	III区	石 鏃	2.0	1.4	0.7	1.4	黒燿石 (姫島)	
291	III区	石 鏃	1.4	1.6	0.4	0.4	黒燿石 (姫島)	
292	III区	石 鏃	1.4	2.0	0.4	0.6	チャート	
293	III区	石 鏃	1.7	1.5	0.5	0.7	黒燿石	
294	III区	石 鏃	1.7	1.5	0.4	0.7	チャート	
295	III区	トトロロ 石器	2.5	1.6	0.4	1.4	チャート	
296	III区	スクレイ パー	2.5	1.9	0.4	1.4	頁岩	
297	III区	スクレイ パー	4.6	3.3	1.2	15.2	チャート	
298	III区	石 核	1.8	2.4	1.0	3.2	黒燿石	
299	III区	二次加工 剥片	5.9	6.5	1.7	53.3	頁岩	
300	III区	石 核	3.9	4.6	3.4	70.8	頁岩	
301	III区	使用痕 剥片	5.9	5.0	1.4	46.1	頁岩	
302	III区	石 匙	4.7	2.9	1.2	13.6	チャート	
303	III区	石 匙	3.7	4.8	1.0	13.7	チャート	
304	III区	擦 石	7.4	6.6	2.2	304	尾 鈴 酸性岩	
305	III区	擦 石	12.3	5.8	4.0	386	尾 鈴 酸性岩	
306	III区	磨製石斧	3.5	3.4	0.8	10	砂岩	

### 第3章 ま と め

#### 第1節 縄文時代早期の土器について

本遺跡ではⅠ～Ⅲ区すべての調査区で縄文時代早期の遺物を検出したが、中でもⅢ区西半でその大半が出土している。前章で述べたとおり、Ⅲ区の西側一帯は東九州自動車道建設に伴う白ヶ野遺跡の発掘調査が併行して行われており、数十基におよぶ集石遺構や多量の遺物が検出された。このことから遺構・遺物分布の中心は白ヶ野遺跡側にあり、両調査の成果を併せて検討しなければ遺跡のもつ情報を正しく理解することは不可能である。しかし、白ヶ野遺跡については現在整理調査中であり、本報告にその情報を反映させることは困難な状況である。したがって、ここでは本調査で出土した土器についてのみ検討することとし、白ヶ野遺跡の整理・報告に備えたい。

Ⅲ区の調査では6層を人力で除去した後、7層上面で地形測量を実施した。その結果、東側が高く、西側に向かって緩やかに下る地形を呈しており<sup>(1)</sup>、標高の低い西側ほど多くの遺物が出土する傾向がみられた。出土した土器は細片が多く、形式が判然としないものも多いが、大きくは下剥峰式土器、押型文土器、手向山式土器、平椀式土器、塞ノ神式土器、無文土器である。遺物包含層であった7・8層は色調の差が比較的明瞭で、この色調差をもとに各グリッドごとに掘り下げ、遺物の出土層位および出土地点を記録した。かなり小さな破片にいたるまでこの作業で取り上げたため、総数は2,093点に及ぶ。この内、撚糸文土器と押型文土器、平椀式土器と塞ノ神式土器の分布状況を示したのがそれぞれ第29図・第30図で、左側が7層中、右側が8層中からの出土状況である。各型式の認定が可能であった破片総数は1,531点で、各層における出土点数は以下のとおりである。

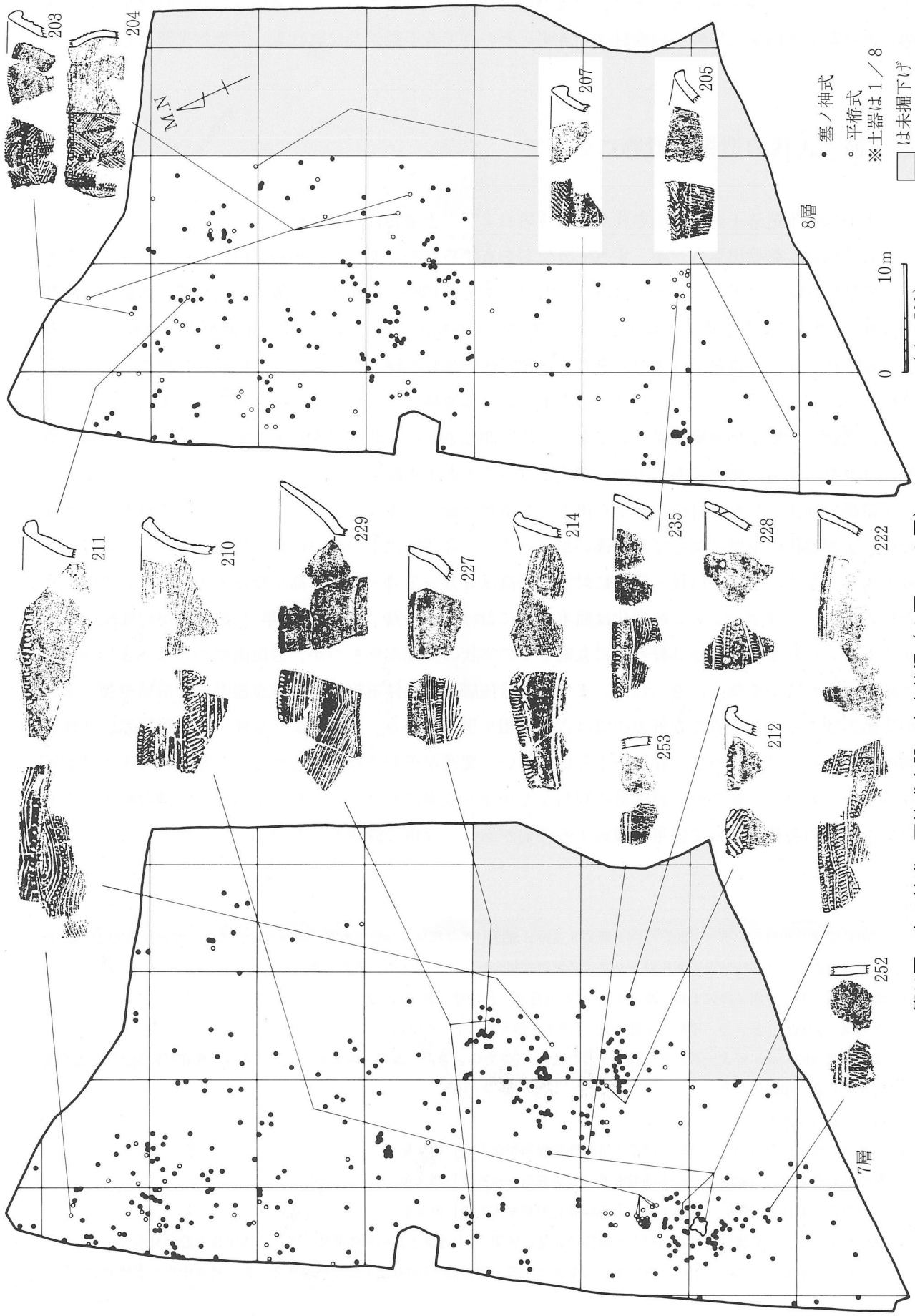
挿 図	土 器 型 式	出土総数	7 層	8 層
第29図	撚 糸 文 土 器	42点	16点 (38%)	26点 (62%)
	楕 円 押 型 文 土 器	498点	135点 (27%)	363点 (73%)
	山 形 押 型 文 土 器	287点	65点 (23%)	222点 (77%)
	原 体 不 明 押 型 文 土 器	42点	12点 (29%)	30点 (71%)
第30図	平 椀 式 土 器	106点	57点 (53%)	49点 (47%)
	塞 ノ 神 式 土 器	556点	374点 (67%)	182点 (33%)

第29・30図および上記の表より押型文土器・撚糸文土器は8層から、平椀式土器・塞ノ神式土器は7層からより多く出土する傾向が読み取れる。また、平椀式土器は7層と8層における出土割合がほぼ均等であることもわかる。このことから、単純に判断すれば、撚糸文・押型文土器は平椀式・塞ノ神式土器よりも古く、平椀式土器は塞ノ神式土器よりも古い時期のものである可能性が考えられる。

平椀式や塞ノ神式を中心とする縄文時代早期後葉の土器については、その系譜や前後関係について様々な解釈がなされている<sup>(2)</sup>。今回の分析に用いた資料には手向山式土器・天道ヶ尾式土器は含まれていないが、押型文系の土器が平椀式・塞ノ神式土器よりも下層から出土する傾向が高い結果が得られ、このことは、押型文土器→(手向山式土器)→(天道ヶ尾式土器)→平椀式土器→塞ノ神式土器という編



第29図 押型文系土器の出土状況 (3区7・8層)



第30図 塞ノ神式・平栴式土器の出土状況（3区7・8層）

年観を支持するものとする。また、今回の分析では、傾斜地という立地条件等から垂直分布や同一層中における位置関係についての検討はできず、その点で若干説得力に欠ける。今後の課題としたい。

## 第2節 古代の遺構・遺物について

ここでは、本遺跡I区で検出された竪穴住居および出土遺物について触れる。

竪穴住居は3軒検出されたが、すべてカマドを有するものであった。宮崎県内においてカマドを有する竪穴住居は以外に少なく、大半は古代のものである。1980～1986年に実施された宮崎学園都市遺跡群の調査<sup>(3)</sup>では7遺跡20軒のカマドを有する竪穴住居が検出されており、9～10世紀の年代が与えられている。特に陣ノ内遺跡ではカマドを有する竪穴住居9軒が検出され、カマドの構造を煙道の違いから2つのタイプに分けている。この2つのタイプは、本遺跡にみられたものと共通する。また、この報告では、遺物の時期を10世紀前半としており、住居間にさしたる時期差を想定していないため、煙道の形態差は単なる構造的相違であるのか、年代差であるのか不明瞭である。

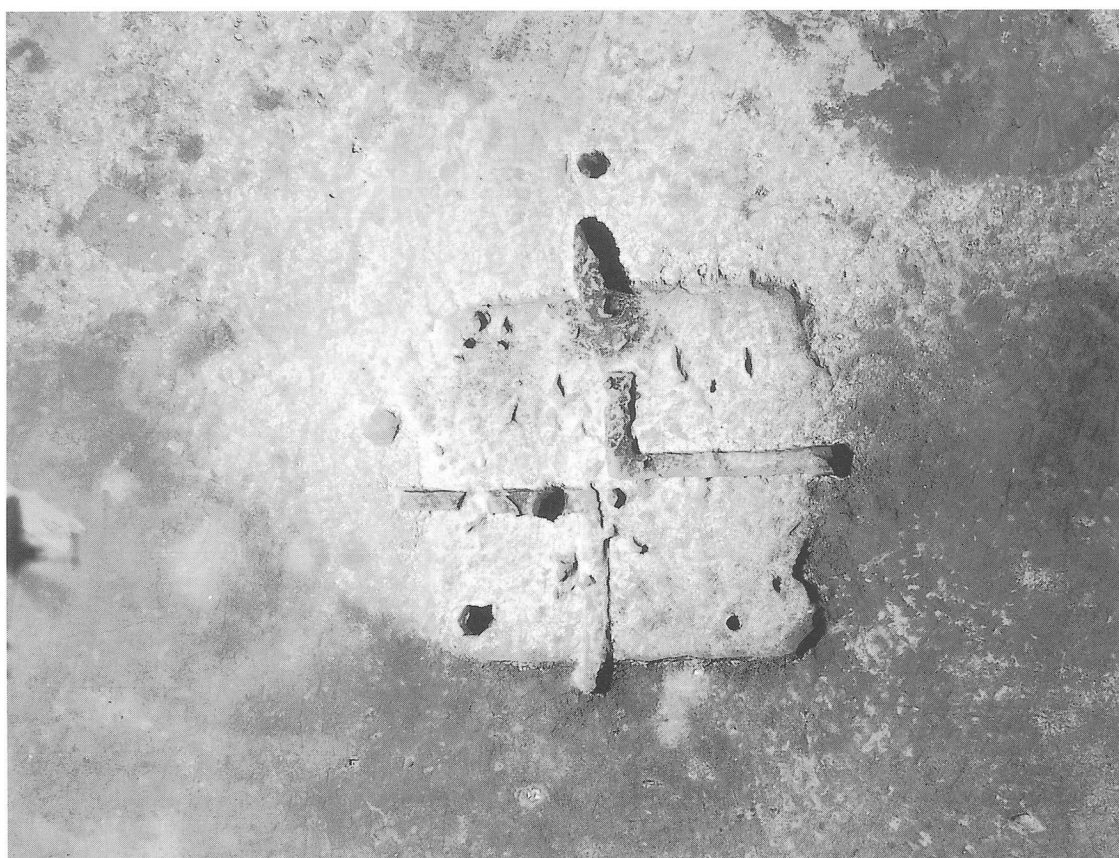
本遺跡で検出された3軒の住居から出土した遺物は量的に少なく、あまり良好な一括資料とは言えないが、主要器種の形態に関して若干違いが伺える。1号住居出土の坏の口径・底径は小さく、2号→3号と大きくなる。また、口径・底径に対する器高は3号→2号→1号と高くなるとみられる。このような坏の形態、プロポーシヨンの変化は熊本編年における6段階<sup>(4)</sup>太宰府編年<sup>(5)</sup>のVI期中の変化に相当すると考えられる。甕では3軒ともに丸底でくの字状の口縁部をもつが、器面調整が3号→2号→1号と簡素化されていく傾向がみられる。また、3号住居には共伴遺物として須恵器の供膳形態や甕、平底の土師器甕がみられる点で3軒の中では古い様相を呈している。以上のような坏・甕の形態差、共伴遺物の様相から3号住居→2号住居→1号住居という変遷が予想される。しかし、3号住居のタイプが異なる2つのカマドの存在や、遺物量の制約などかなり危険性をはらんだ想定であることは否めず、より良好な資料の蓄積を待って慎重に検討する必要がある。今後の課題としたい。

### 註

- (1) 宮崎県埋蔵文化財センター 1997 「白ヶ野第3遺跡B地区」県営農地保全整備事業（時屋地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書(3)『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告』 第3集 第6図参照
- (2) 河口貞徳 1985 「塞ノ神式土器と轟式土器」『鹿児島考古』19号 鹿児島県考古学会  
新東晃一 1989 「塞ノ神・平楯式土器様式」『縄文土器大観』1 小学館  
高橋信武 1997 「平楯式土器と塞ノ神式土器の編年」『先史学・考古学論究—熊本大学文学部考古学研究室創設25周年記念論文集—』II 龍田考古会  
ほか多数の文献あり
- (3) 宮崎県教育委員会 1985 『宮崎学園都市遺跡群発掘調査報告書』第2集  
宮崎県教育委員会 1985 『宮崎学園都市遺跡群発掘調査報告書』第3集  
宮崎県教育委員会 1988 『宮崎学園都市遺跡群発掘調査報告書』第4集
- (4) 網田龍生 1994 「肥後における回転台土師器の成立と展開」『中近世土器の基礎研究』X 日本中世土器研究会
- (5) 山本信夫 1988 「太宰府における古代末から中世の土器・陶磁器」『中近世土器の基礎研究』IV 日本中世土器研究会



調査区全景（南から、西側は白ヶ野遺跡）

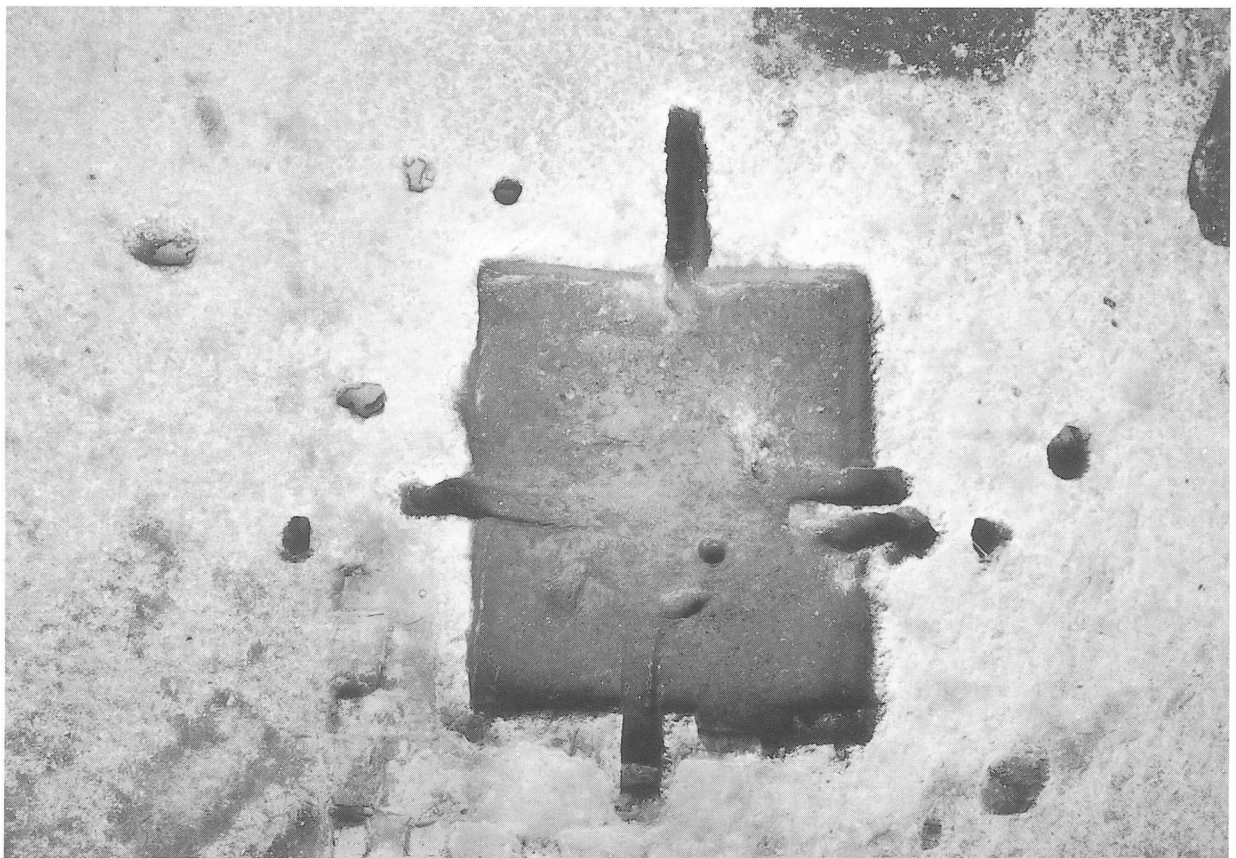


1号住居

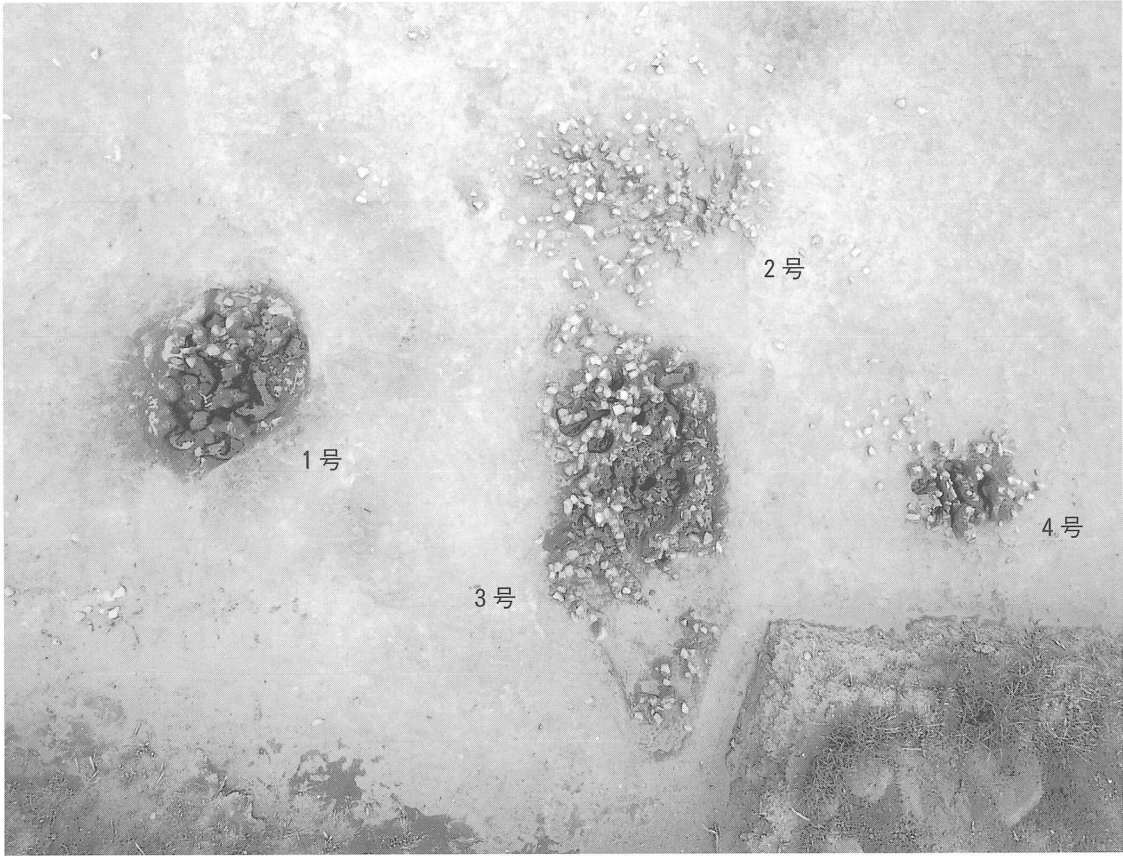




2号住居



3号住居



I区検出集石遺構（1～4号）



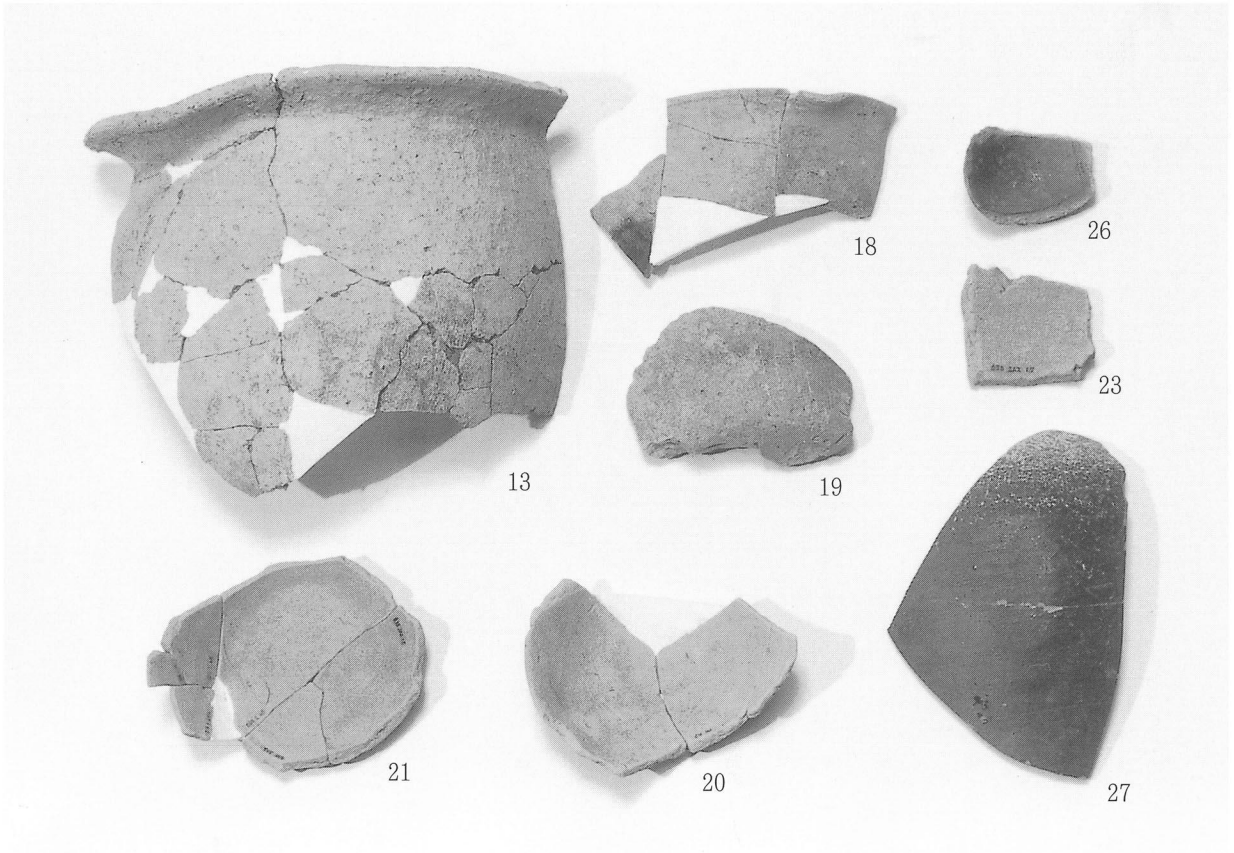
3号溝状遺構（II区）



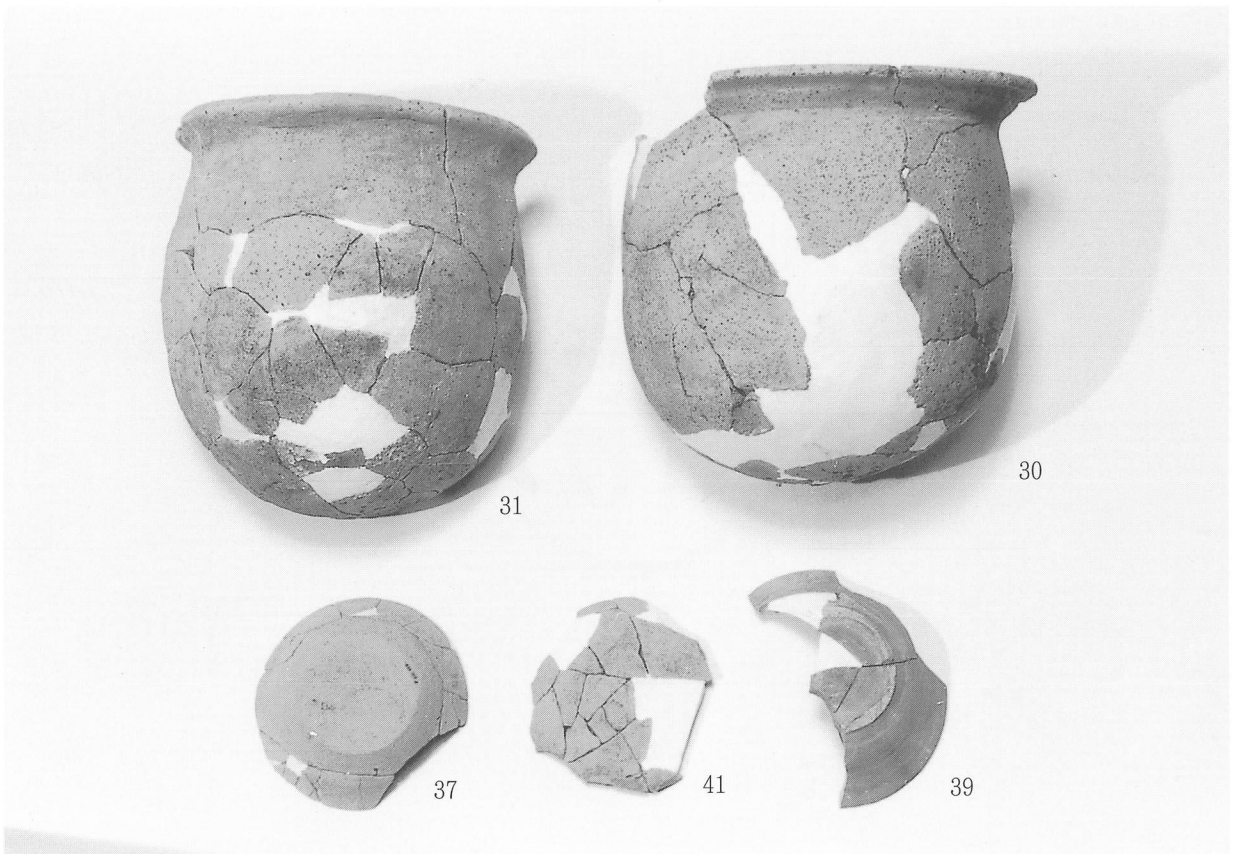
Ⅲ区検出集石遺構（15～18号）



1号住居出土遺物



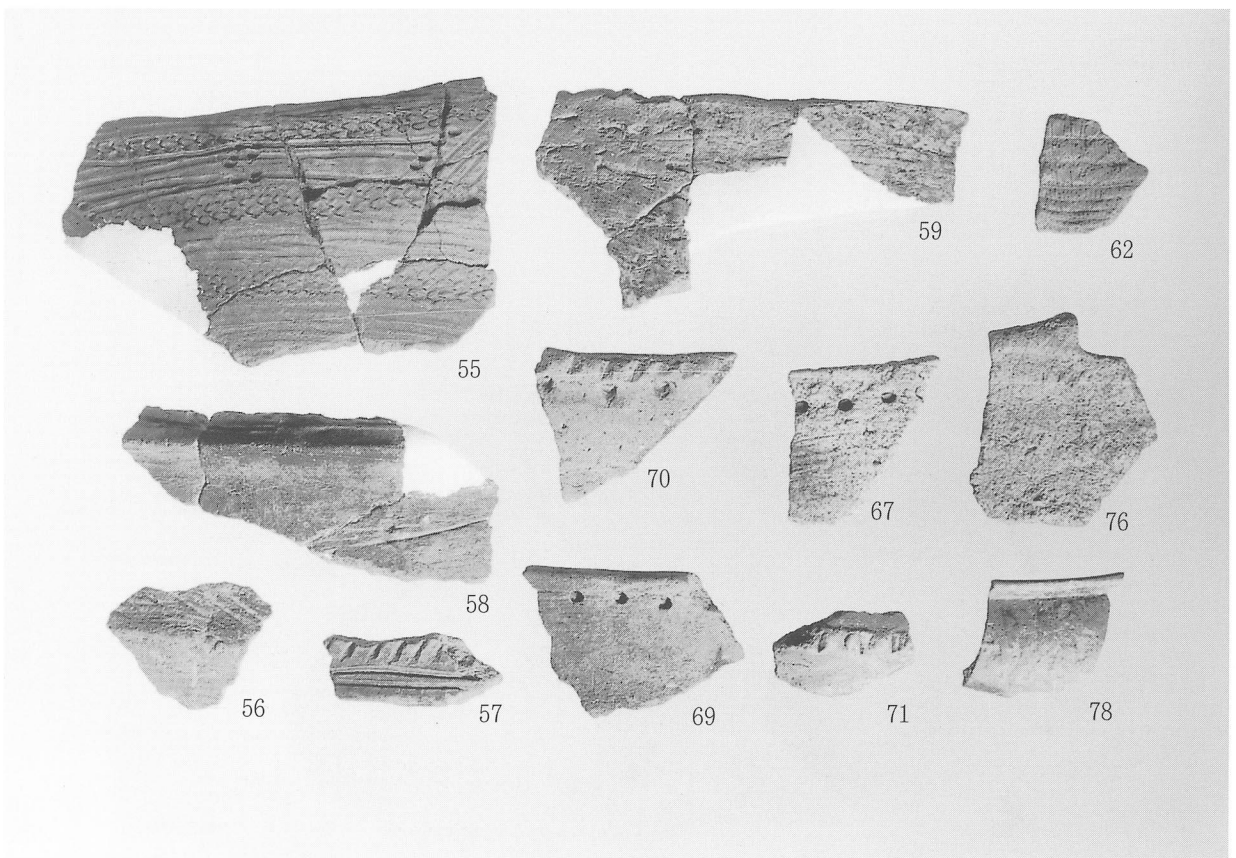
2号住居出土遺物



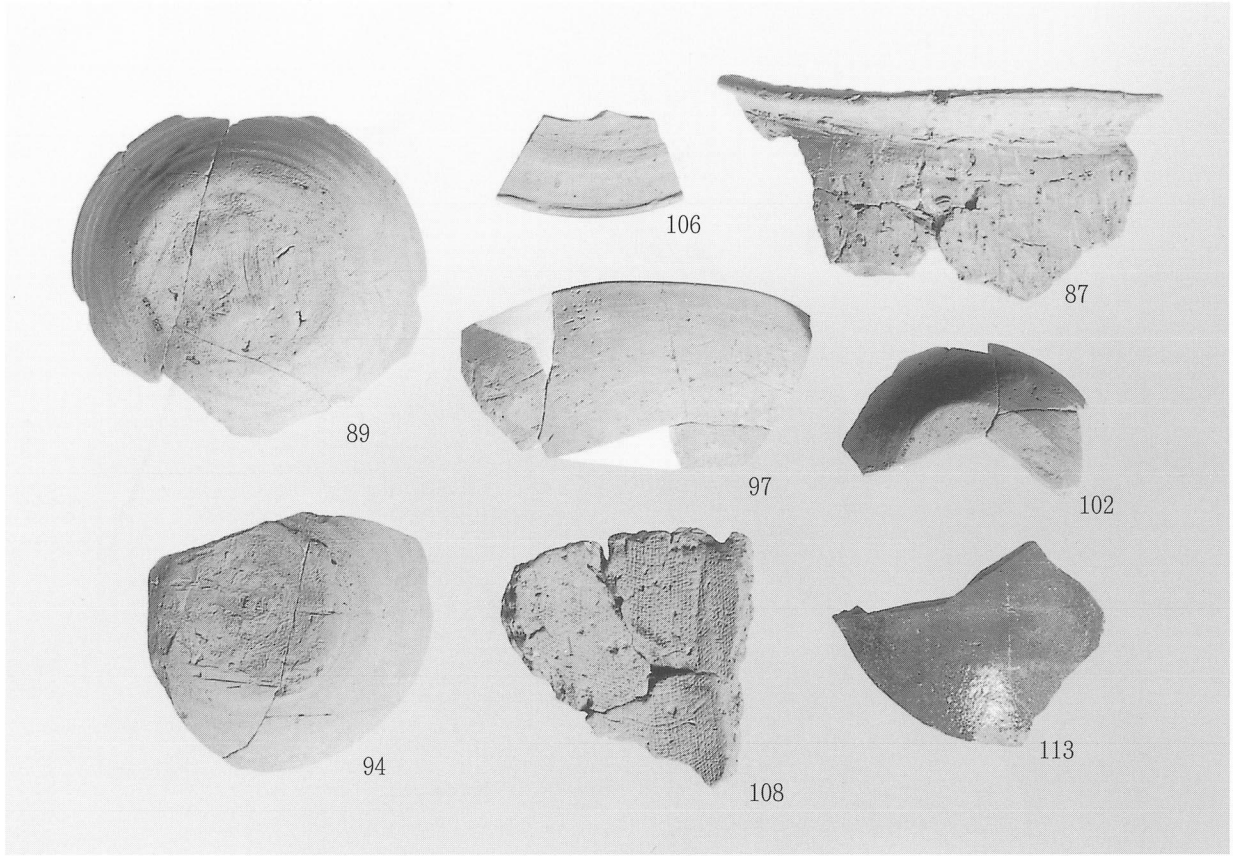
3号住居出土遺物 ①



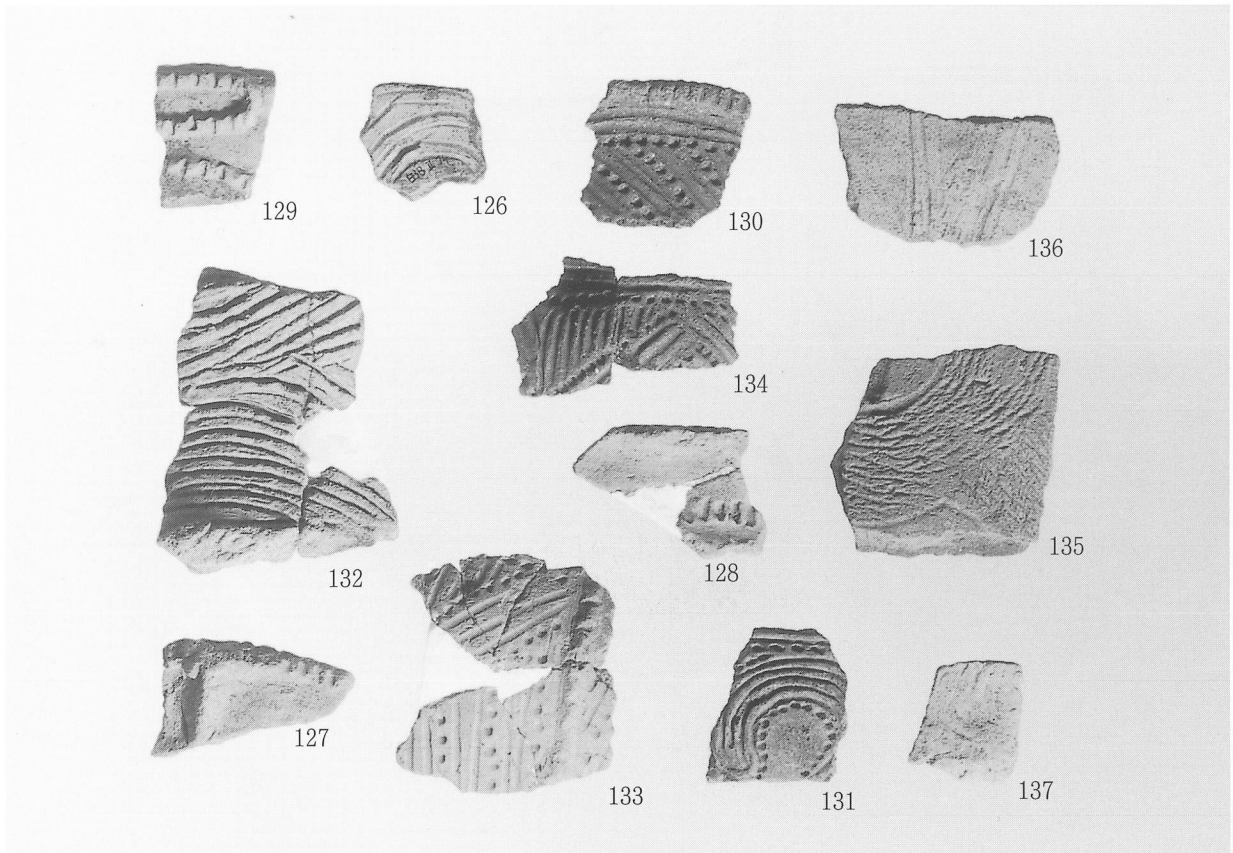
3号住居出土遺物 ②



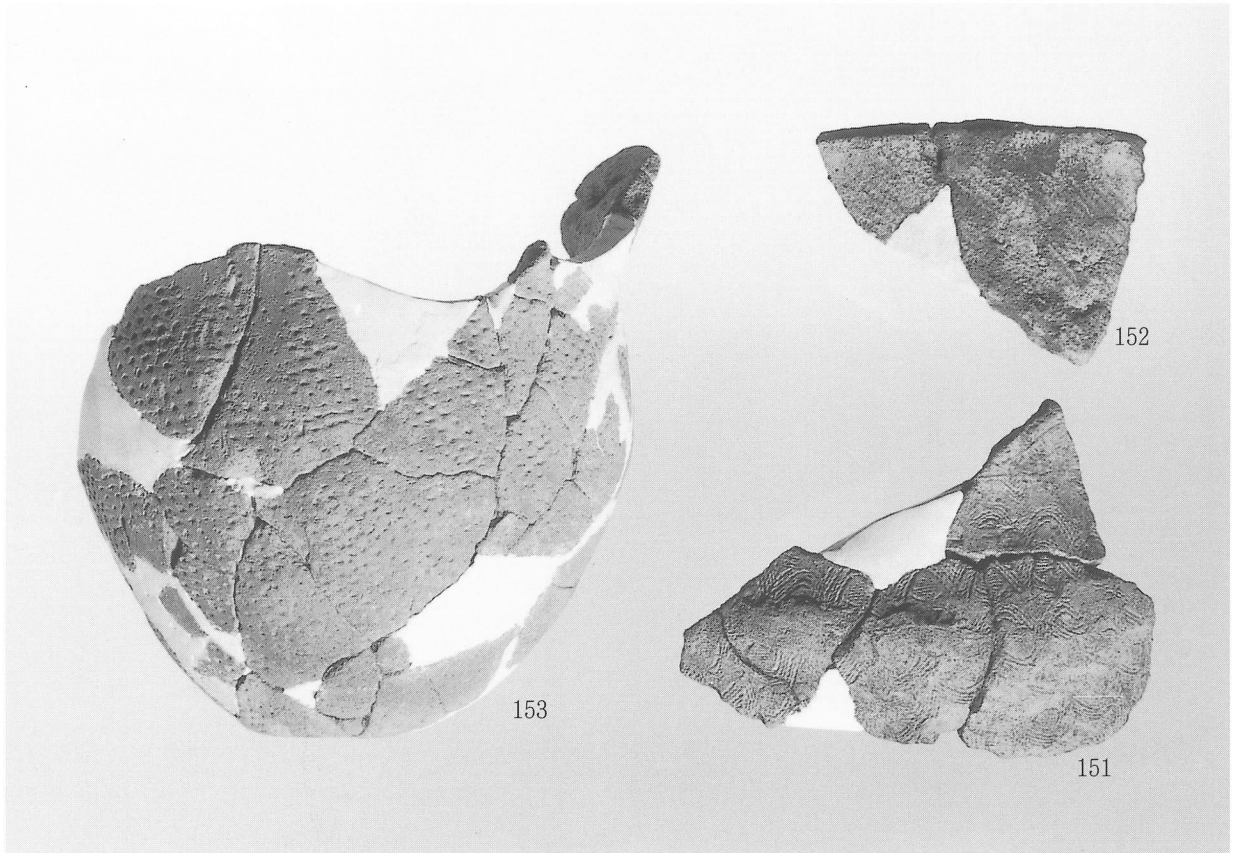
I区出土遺物 ①



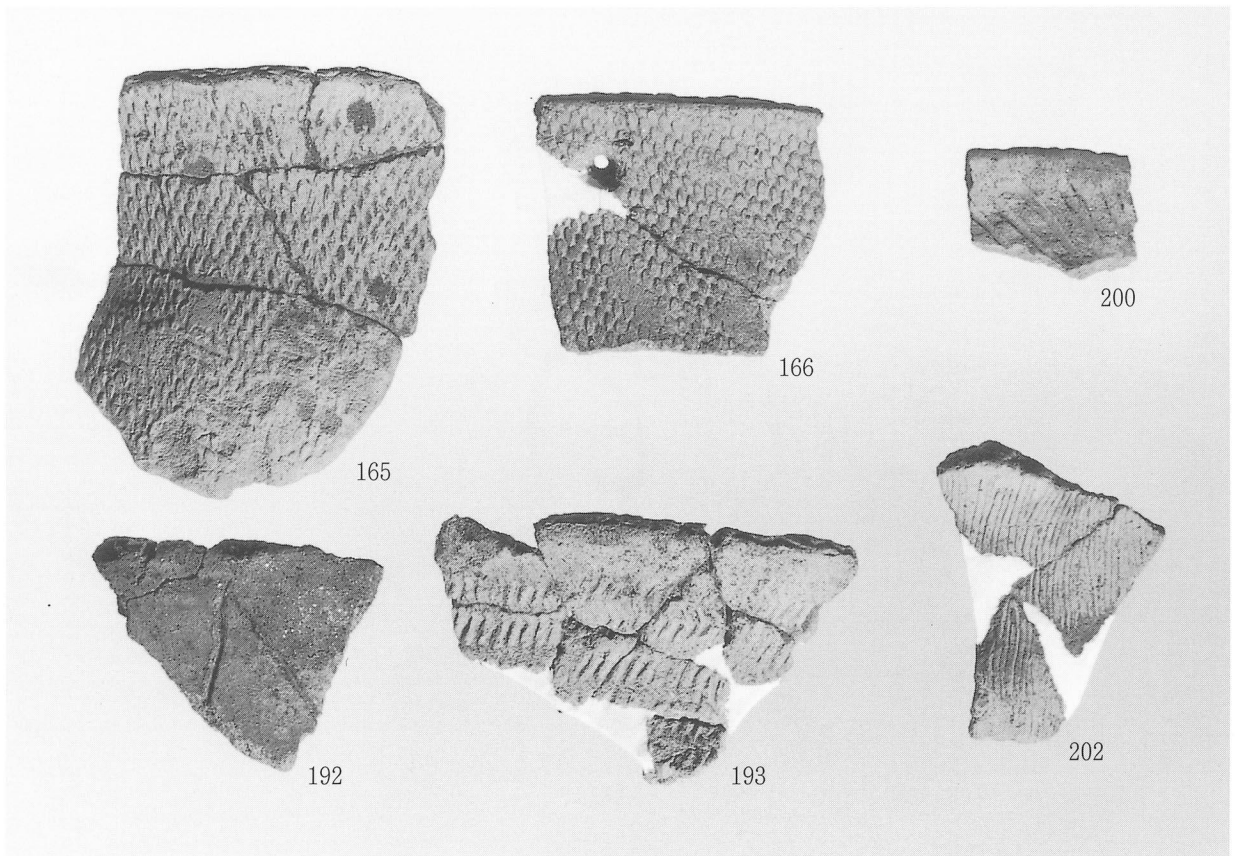
I区出土遺物 ②



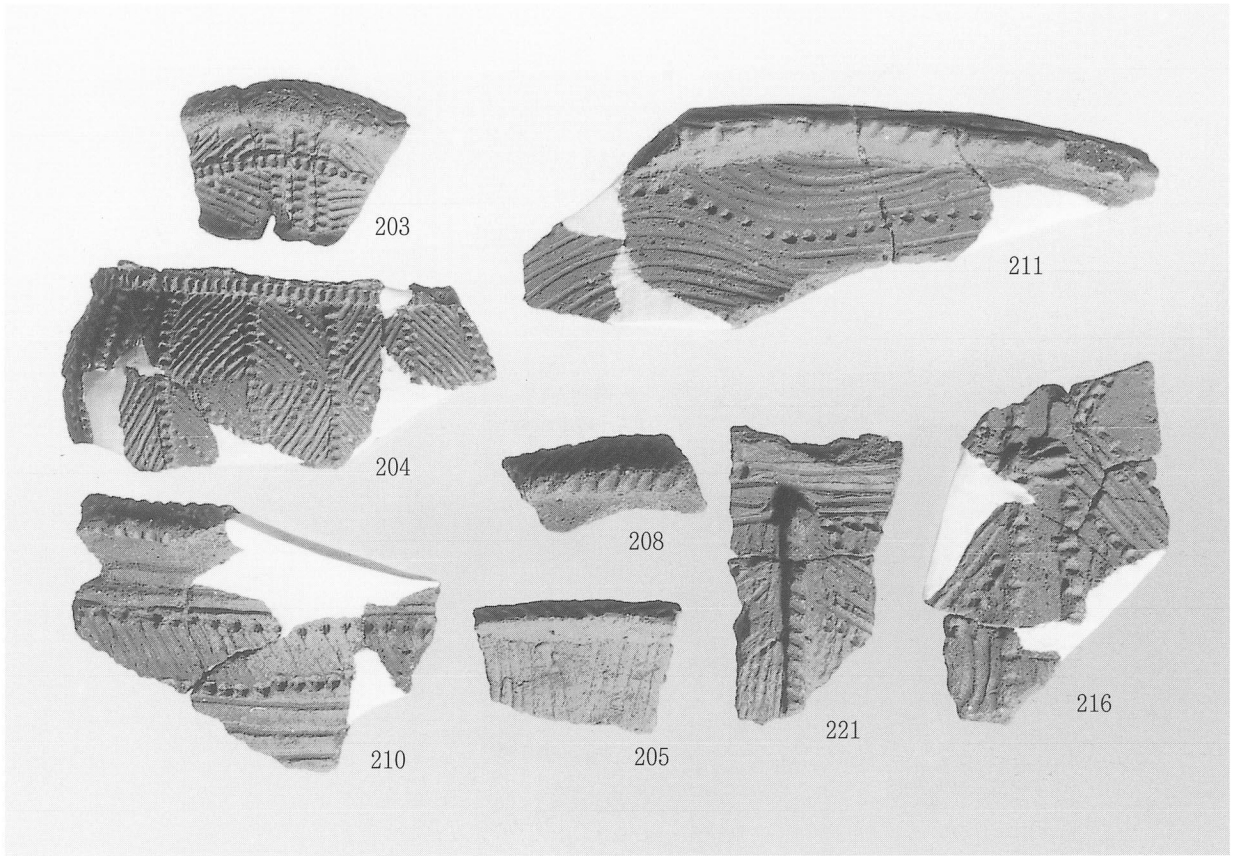
II区出土遺物



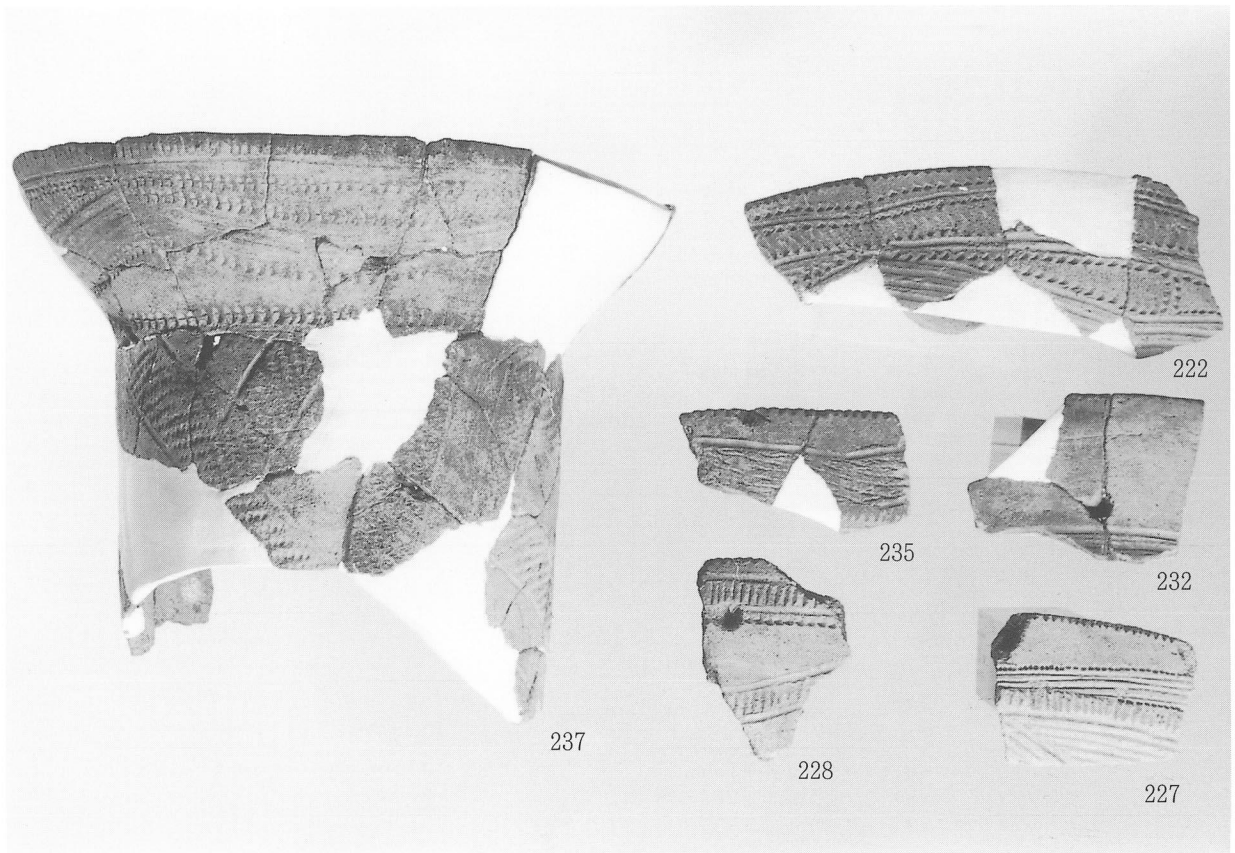
Ⅲ区出土遺物 ①



Ⅲ区出土遺物 ②

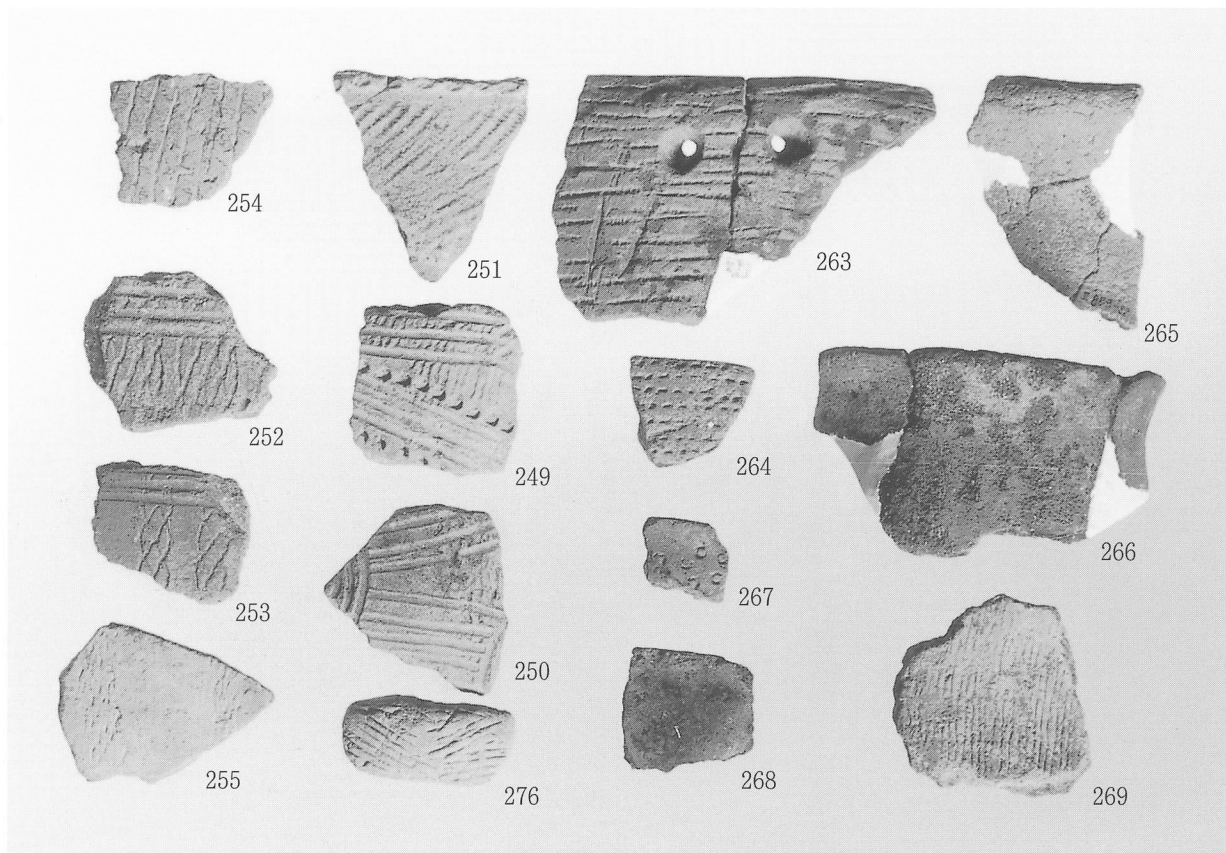


Ⅲ区出土遺物 ③

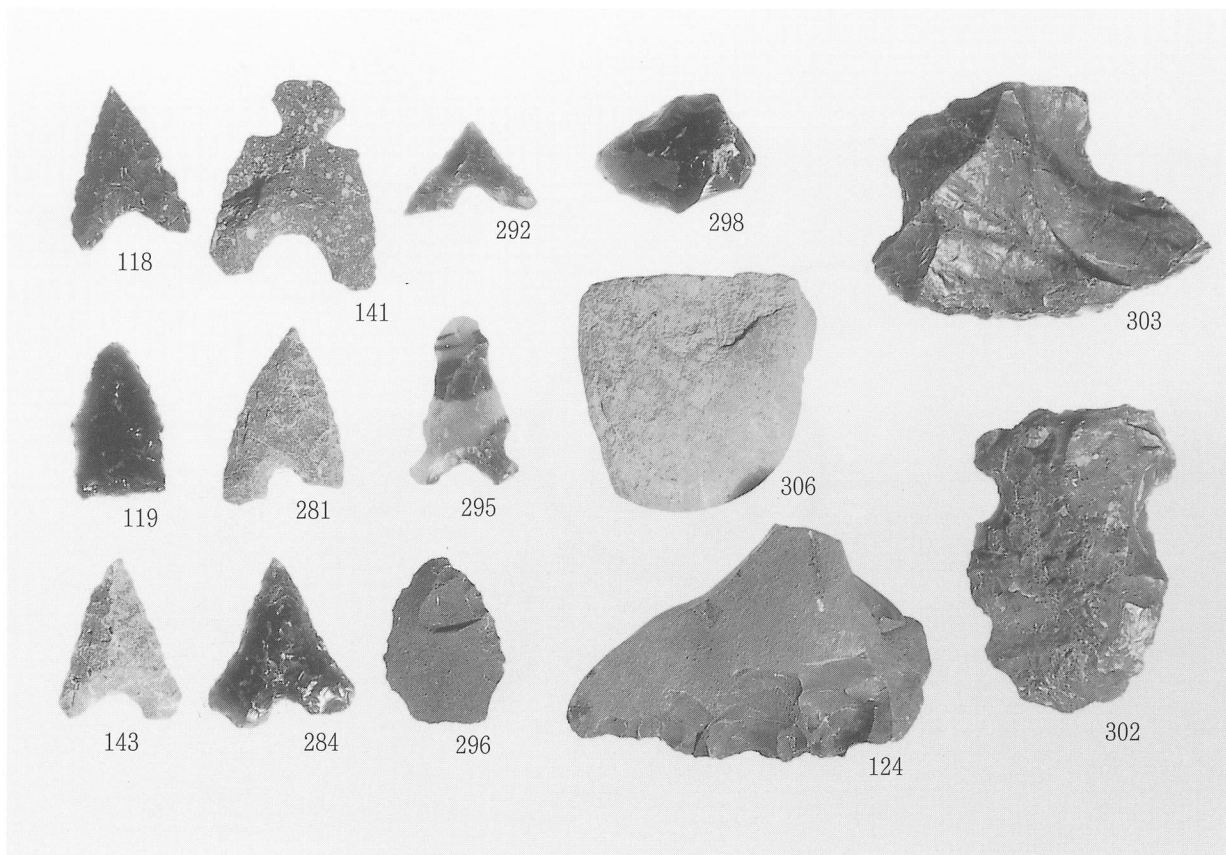


Ⅲ区出土遺物 ④





Ⅲ区出土遺物 ⑤



I ~ Ⅲ区出土石器

## 報告書抄録

フリガナ	ハツガノダイサンイセキビーチク					
書名	白ヶ野第3遺跡B地区					
副書名	県営農地保全整備事業時屋地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書					
巻次	第2集					
シリーズ名	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書					
シリーズ番号	第25集-2					
編集者名	松林豊樹					
発行機関	宮崎県埋蔵文化財センター					
所在地	〒880-0212 宮崎郡佐土原町大字下那珂4019番地					
発行年月日	2000年3月31日					
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ハツガノダイサン 白ヶ野第3 イセキビーチク 遺跡B地区	ミヤザキシオオアザホソエ 宮崎市大字細江 アザシグレヤナギサコ 字時雨柳迫 キヨタケチヨウオオアザフナヒキ 清武町大字船引 アザハツガノ 字白ヶ野	31° 52' 53" 付近	131° 22' 00' 付近	1996. 5. 1 ～ 1996.10.15	25,000m <sup>2</sup>	圃場整備
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
集落	縄文・古代	集石遺構20 竪穴式住居3		縄文土器・石器 土師器・須恵器	掘立柱建物を伴わ ない古代の集落	

---

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第25集

## 白ヶ野第3遺跡B地区

県営農地保全整備事業時屋地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

2000年3月

発行 宮崎県埋蔵文化財センター  
〒880-0212 宮崎郡佐土原町大字下那珂4019番地  
TEL 0985-36-1171

印刷 宮崎紙工印刷株式会社  
〒880-0921 宮崎市本郷南方4045-4  
電話 0985-56-2324

---